

352

214

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5

始



1285-18

352-214

海上保險

法學士 加藤正道譯

東京 巖松堂書店發兌

大正
11. 6. 24
内交

例言

一 本書ハ Frederick Templeman 原著 Marine Insurance, its principle and practiceヲ翻譯シタルモノナリ

一 本書ハ初學者ノ參考ニ供シ實際家ノ執務上ノ便宜ニ供セムカ爲メ上梓シタルモノナリ

大正十年十一月

譯者識

海上保險目次

第一章 海上保險契約	一
第一節 海上保險證券ノ種類	二
第二節 善意及事實ノ不告知	七
第三節 虛偽ノ陳述	八
第四節 默示條件	八
第一款 堪航	九
第二款 適法	一六
第二章 保險證券及其ノ用語	一七
第一節 解釋	二〇
第二節 讓渡	二一
第三節 保險證券ノ用語	二三

大正十一年十一月

本館發行

本館發行

本館發行

本館發行

附言

海上保險目次

第一、何人カ保險ニ付スルコトヲ得ルヤ 第二、As well as in his own name.....

第三、滅失シタルト否トヲ問ハス 第四、「.....ニ於テ及.....ヨリ」 第五、航海

六、航路變更 第七、期間保險 第八、船舶往復ノ舛舟危險 第九 upon

any kinds of goods..... 第十、船舶ノ名稱 第十一、whereof is master..... 第十二、

or by whatever other name..... 第十三、船舶ニ對スル責任ノ始期 第十四、積

荷(運賃)ニ對スル責任ノ始期 第十五、船舶ニ對スル責任ノ終期 第十六、

積荷(運賃)ニ對スル責任ノ終期 第十七、寄港及碇泊 第十八、評價 第十九、

十九危險——一、海上固有ノ危險 二、火災 三、軍艦對敵行爲 四、海賊 五、

強盜 六、投荷 七、捕獲免許狀及報復捕獲免許狀 八、奪掠及拿捕 九、官ノ處

分ニ依ル押收 十、船長及海員ノ不正行爲 十一、其他一切ノ危險——第二十、

損害防止約款 第二十一、拋棄約款 第二十二、約因 第二十三、免責步

合 第二十四、捕獲及拿捕不擔保約款

第三章 近 因..... 七五

第四章 現實全損及解釋全損..... 八〇

第一節 現實全損..... 八〇

第二節 解釋全損..... 八二

- 第一款 船舶ノ解釋全損..... 八九
- 第二款 運賃ノ解釋全損..... 九二
- 第三款 積荷ノ解釋全損..... 九四

第五章 單獨海損..... 九五

- 第一節 船舶ノ單獨海損..... 九六
- 第二節 運賃ノ單獨海損..... 一〇六
- 第三節 積荷ノ單獨海損..... 一〇九

第六章 免責步合..... 一六

- 第一節 海損約款、積荷口分及分割評價..... 一三三
- 第二節 unless general..... 一三五
- 第三節 坐 礁..... 一三六
- 第四節 沈 沒..... 一三八

第五節 燒失……………一三九

第六節 衝突……………一三〇

第七章 共同海損……………一三一

第一節 共同海損ノ定義……………一三一

第二節 共同海損ノ要素……………一三二

第三節 犠牲……………一三五

第一款 船舶ノ犠牲……………一三五

賠償ヲ受クヘキ金額……………一三六

第二款 積荷及運賃ノ犠牲……………一三七

第三款 積荷ノ賠償額……………一三九

第四款 運賃ノ賠償額……………一四一

第四節 費用……………一四一

第一款 複雜救助方法……………一四四

第二款 代換費用……………一四六

第三款 資金調達……………一四九

第四款 積荷ノ強制賣却……………一四九

第五款 冒險貸借……………一五〇

第五節 共同海損ト爲ラサル損害及費用……………一五一

第六節 精算ノ時場所及準據法……………一五二

第七節 精算ノ手續留置權……………一五四

第八節 分擔利益及其ノ價額……………一五六

第九節 共同海損ノ分擔額……………一五九

第十節 共同海損ト保險契約トノ關係……………一六一

第八章 救助料……………一六四

第九章 代位……………一六七

第十章 明示條件……………一七〇

第一節 發航條件……………一七一

第二節 鐵又ハ鑽石ニ非サル條件……………一七三

第三節 價額ノ一部ヲ無保險トスル條件……………一七三

第十一章 一般ニ使用セラルル約款ノ種類……………一七四

第一節 單獨海損不擔保約款……………一七五

第二節 「スエズ」運河ノ膠沙……………一八一

第三節 外國法共同海損約款……………一八二

第四節 「ヨーク、アントワープ」規則……………一八四

第五節 衝突約款……………一八八

第六節 責任制限……………一九三

第七節 姉妹船約款……………一九六

第八節 「インヂメア」約款……………二〇〇

第九節 繼續約款……………二〇五

第十節 再保險約款……………二〇七

第十一節 「タイム、ベナルテ」約款……………二〇九

第十二節 同盟罷業約款……………二二

目次終

海上保險

法學士 加藤正道 譯

第一章 海上保險契約 (Contract of Marine Insurance)

海上保險契約ハ之ヲ理論的ニ論スルトキハ損害填補ノ契約 (Contract of indemnity) ナリ、火災保險ニ在リテハ損害填補ハ通常其ノ發生シタル實損額ヲ以テ限度トナスト雖モ海上保險ニ在リテハ當事者ハ豫メ保險價額ヲ協定シ其ノ價額カ危險ニ曝サルヘキ實際價額ヲ超過シ又ハ實際價額ヲ下ルコトアルモ豫メ協定シタル價額ニ依リテ填補ノ範圍ヲ定ムルヲ通常トス、而シテ保險者ハ保險料 (Premium) ト稱スル一定額ノ報酬ヲ取得シテ被保險者ニ對シテ特定ノ危險又ハ海上固有ノ危險ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ヲ填補スルコトヲ約スルモノトス、然レモ保險者ノ填補ヲ約シタル危險ヲ特定ノ危險又ハ海上固有ノ危險ト謂ハムヨリハ寧ロ保險ニ

付シタル危険(Perils insured against)ト云フヲ優レリトス、何トナレハ保險ニ付シタル危険中ニハ全然海上危険(sea risk)ニ非サルモノアルヲ以テナリ

保險契約ヲ表彰スル證書ハ之ヲ保險證券(Policy)ト云フ尙(Policy)トハ航海中或ル危険ノ爲メ保險ノ目的ニ付キテ生スルコトアルヘキ一切ノ損害ニ對スル填補契約(contract of indemnity)ヲ指稱スルノ意ニ使用セラルルナリ(Lord Blackburn in *Lloyd v. Filling* 1871)

海上保險證券ハ其ノ様式ニ於テ單一ナルヲ通常トスト雖モ、其ノ發行スル方法ニ依リ又ハ保險ニ付セムトスル危険ニ依リテ數個ノ種類又ハ數個ノ名稱ヲ有ス、左ニ海上保險證券ノ種類其ノ他ノ事項ニ付略説スヘシ、

第一節 海上保險證券ノ種類

一 利益保險證券(Interest Policy)

利益保險證券トハ被保險者カ危険ニ曝サルヘキ現實ニシテ特定セル物質的利益ヲ有スルコトヲ明瞭ニ記載シタル保險證券ヲ云フ、例ヘハ五十包ノ羊毛、千袋ノ米、

百箱ノ茶ヲ保險スト云フカ如シ

二 航海保險證券(Voyage Policy)

期間保險ニ對スル保險證券ニシテ保險期間ハ場所ヲ以テ之ヲ定メ保險ノ目的ヲ特定ノ航海ニ付保險ニ付シタル保險證券ヲ云フ、例ハ倫敦ヨリ「ボンベイ」マデ又ハ紐育ヨリ「リバプール」マデト云フカ如シ

三 建造中ノ船舶保險(Construction Policy)

建造中ノ船舶保險ハ時ニ或ハ建造者ノ危険(Builder's Risk)ト稱セラルルモノニシテ船舶ノ建造ニ附隨シテ生スルコトアルヘキ危険ヲ擔保スルモノナリ、此ノ種ノ保險ハ軍艦又ハ巨大ナル定期船ノ建造ニ關シ締結セラルルヲ通常トスルカ故ニ保險金額巨額ニ上リ該保險ニ依リテ擔保セラルル期間モ亦長期ナリトス

四 期間保險證券(Time Policy)

持定ノ期間ニ對シ保險ニ付シタル保險證券ナリ、例ヘハ一九一一年一月一日正午ヨリ一九一二年一月一日正午マテヲ保險ニ付スル場合ノ如シ、此ノ種ノ保險ハ船體ニ對シ締結スルヲ通常トスト雖モ、場合ニ依リテハ船主ハ各別ノ航海ニ付航海

保險證券 (Voyage Policy)ヲ以テ自己ノ船舶ヲ保險ニ付スルコトアルナリ

五 港内保險證券 (Port Policy)

港内ニ於ケル一定期間ニ付船舶ヲ保險スルモノニシテ航海ノ危險及航海ニ附隨シテ海上ニ於テ起ルヘキ危險ヲ擔保スル保險ニ對立セラルヘキモノナリ

六 價額確定保險 (Value Policy)

保險ニ付セラルヘキ貨物ノ價額(必シモ實際ノ價額タルヲ必要トセス)ヲ協定シ之ヲ保險證券ニ記載シタル場合ニ於ケル保險證券ナリ、例ヘハ千磅ノ積荷又ハ一萬磅ノ船舶保險ト云フカ如シ

七 豫定又ハ價額不確定保險證券 (Open or Unvalued Policy)

嚴格ニ言ヘハ保險ノ目的ノ價額ヲ表示セス後日之ヲ確定シ又ハ證明スベキ保險證券ナリ、然レモ此ノ種ノ保險證券ハ多ク使用セラレス、只豫定保險 (open policy) ナル用語カ嚴格ナル意義ニ於テ使用セラルルヲ通常トス

八 船名未詳保險證券 (Floating Policy)

豫定 (Open) 又ハ船名未詳保險證券トハ特定船舶ノ名稱ヲ記載セス船舶 (Ship or Ships)

又ハ汽船 (Steamer or Steamers)ト記載シ特定航海ニ付確定通知ヲ爲スヘキ保險證券ヲ云フ

船舶ノ名稱及屢具ノ細目ニ付テハ後日保險證券ニ裏書ヲ爲シ以テ通知ヲ爲スモノニシテ之ノ通知ハ之ヲ確定通知 (Declaration)ト稱ス、確定通知ニハ保險者署名ヲ爲シ船名其ノ他ノ事項カ通知セラレ且承認セラレタルモノナルコトヲ表示スルモノトス、總テ豫定又ハ船名未詳保險ノ場合ニ在リテハ其ノ危險ヲ開始スヘキ一切ノ積荷ハ被保險者ニ於テ確定通知ヲ爲スコトヲ要スルハ特ニ注意ヲ要スル所ナリ、被保險者ハ積荷ノ一部ニ付確定通知ヲ爲シ又ハ自己自ラ其ノ危險ヲ引受ケ又ハ他ノ保險者ニ保險ヲ付スルカ如キハ何レモ之ヲ爲スヲ得ス、恰モ被保險者カ喪失シタル船舶又ハ損害ヲ蒙リタル積荷ノミヲ確定通知スル目的ヲ以テ船舶ノ到達ヲ期待スルヲ得サルカ如シ、而シテ確定通知ヲ爲ス以前ニ於テ損害アリタル場合ニ於テハ保險證券ニ定ムル所ニ徒ヒ確定通知ヲ爲スヘキ金額ヲ定ムルコトヲ要シ又ハ曩ニ確定通知ヲ爲シタル積荷ニシテ到達シタルモノト全然同一ノ方法ニ依リテ確定通知ヲ爲スヘキ金額ヲ定ムルコトヲ要ス

九 賭博保險證券(Wager Policy)

最後ニ賭博保險券トハ被保險者カ何等ノ被保險利益ヲ有セサルコトヲ證券面ニ於テ立證セラルル證券ヲ云ヒ又ハ「證券自體カ被保險利益ヲ證明スル保險證券(Policy proof of interest)其ノ頭文字ヲ取ツテ P.P.i. Policy ト云フヲ通常トス)又ハ「被保險利益ノ有無ヲ問ハサルコト(Interest or no Interest)其ノ他之ニ類似スル用語ヲ賭博ノ目的ヲ以テ保險證券中ニ挿入シ以テ被保險利益ノ證明ヲ免レムトスルモノナルコトヲ保險證券面ニ於テ立證セラルル保險證券ヲ云フ、一切ノ賭博保險ハ法律上無効ニシテ(海上保險法第四條)何等ノ價值ヲ有スルモノニ非スト雖モ尙之ヲ履行スルコトヲ妨ケサルナリ、保險者ハ該保險契約ニ依リ何等ノ法律上ノ義務ヲ負フコトナク自己ノ任意ニ該契約ヲ取消スコトヲ得ルモノナルカ故ニ賭博保險ハ通常ノ場合以上ニ保險者ノ利益ノ爲メニ存スルモノト謂フヲ得ヘキナリ、斯ク賭博保險ハ當事者カ之ニ依リテ法律上ノ義務ヲ負フモノニ非スシテ道德上ノ義務ヲ負フニ過サルモノナルヲ以テ賭博保險ハ一名之ヲ信用保險(Honour Policy)ト稱セリ、被保險利益ノ現實ニ存在スルヤ否ヤ之ヲ證明スルコト困難ナル場合又ハ不可能ナ

ル場合例ヘハ政府ノ増税ノ危險ニ對シ又ハ從來無税ナリシ積荷ニ對シ課税セラ
ルル危險ニ對シ保險ヲ付スルカ如キ場合ニ於テハ信用保險ハ實ニ商業上ノ便宜
ニ適合スルモノナルコト疑ヲ容レサルナリ、然レモ P.P.i. Policy ハ單ニ賭博ノ爲メニ
締結セラルルコト屢々之レアルヲ以テ之ノ弊害ヲ除去セムカ爲メ一九〇九年海
上保險(賭博保險)法即チ海上損害ニ對スル賭博禁止法ノ制定ヲ見ルニ至レリ

第二節 善意及事實ノ不告知(Good faith, Concealment)

善意(Good faith)ハ他ノ保險ニ於ケルト同シク海上保險契約ノ要素ナリ、若シ當事者
ノ一方カ最大善意(utmost good faith)ニ缺クル所アルニ於テハ他ノ一方ノ當事者ハ
該契約ヲ取消スコトヲ得ヘキナリ、詐僞ハ保險契約ヲ無効ナラシメ詐僞者ハ保險
契約上ノ權利ヲ失フモノトス、保險者及被保險者ノ間ニ於テハ危險ニ關スル一切
ノ事項ハ十分ニ之ヲ告知スルコトヲ要スルナリ、然レモ危險ニ影響ナキ些事ハ通
知スルコトヲ要セサルハ勿論通常ノ保險者カ通常ノ取引上ニ於テ知了シタリト
推定スヘキ事項ハ之ヲ告知スルヲ要セサルナリ、然レモ被保險者ノ知了シタル事

項ニシテ保險者カ危險ヲ引受クヘキヤ又ハ之ヲ拒絕スヘキヤニ影響ヲ及ホスヘキ事項又ハ之ヲ引受クルニヨリ支拂フヘキ保險料額ヲ決定スルニ影響ヲ及ホスヘキ事項ハ總テ之ヲ告知スルコトヲ要ス、斯ノ如キ事項ハ之ヲ重要ナル事項 (Material fact) ト稱ス、重要ナル事項ニシテ之ヲ告知セサルニ於テハ保險者ハ契約ヲ取消スコトヲ得ルナリ

第三節 虚偽ノ陳述 (Misrepresentation)

虚偽ノ陳述モ亦齊シク契約ヲ無効ナラシムルモノナリ、然レモ若シ道德上詐偽ニ至ラサル虚偽ノ陳述ヲ爲シ之ニ因リテ契約ヲ無効ナラシムル場合ニ於テハ被保險者ハ保險料ノ返還ヲ求ムルノ權利ヲ有スルモ苟モ欺ク意思ヲ以テ爲シタルコト明瞭ナルニ於テハ保險料ハ之ヲ返還セシムルコトヲ得サルナリ

第四節 默示條件 (Implied Warranty)

海上保險契約ヲ有效ナラシムカ爲メ具備スルコトヲ要スル必要條件即チ Warranty

ナルモノアリ、之レ明示ニ非スシテ默示ニ了解セラルル所ニシテ之ヲ默示條件ト云フ、默示條件ハ其ノ一ヲ缺クニ於テハ契約ヲ無効ナラシムルモノニシテ最モ重要ナルモノナリ、默示條件ニアリ左ノ如シ

- 一 航海保險契約ニ於テ船舶ハ危險ヲ開始スル當時ニ於テ航海ニ堪ユヘキコト又ハ航海カ別個ノ段階 (stages) ニ分タレタル場合ニ於テハ船舶ハ各段階ノ始メニ於テ航海ニ堪ユヘキコト
- 二 危險ハ凡ユル點ニ於テ適法ナルコト、及船舶ハ船艙書類ヲ適當ニ具フルコト

左ニ此等ノ默示條件ヲ分説スヘシ

第一款 堪航 (Seaworthiness)

船舶又ハ積荷ノ航海保險ニ於テハ航海ノ始メニ當リ船舶カ航海ニ堪ユヘキコト即船舶カ保險ニ付シタル航海ニ於ケル通常ノ危險ニ遭遇スルモ凡ユル點ニ於テ合理的ニ之ニ堪ユヘキコトヲ以テ默示ノ條件トス、而シテ積荷保險ノ場合ニ於テ

ハ以上ノ默示條件ノ外尙船舶カ保險證券ニ記載シタル陸揚港マテ特定ノ積荷ヲ運送スルニ合理的ニ適當ナルコトヲ以テ默示ノ條件トス(海上保險法第四十條)然レモ船舶ニ對スル通常ノ期間保險(Time Policy)ニ於テハ堪航ナルヘキ默示條件ナルモノナシ、何トナレハ期間保險ニ於テハ責任開始ノ時ニ當リ船舶ハ航海中ナルコトアリ、從テ船主ハ船舶ノ狀況ヲ保證スルノ地位ニ在ラサルヲ以テナリ、然レモ期間保險ニ於テ被保險者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ依リテ船舶カ不堪航ノ状態ニ於テ航海スルニ於テハ保險者ハ該不堪航ニ依リテ生スル損害ニ付其ノ責ニ任セサルナリ(海上保險法第三十九條第五項)

船舶又ハ積荷ノ航海保險ニ於テハ善意ノ出荷主カ自己ノ過失ニ因ラスシテ積荷ニ損害ヲ蒙リタル場合ニ於テハ實際ニ於テ堪航條件ヲ強要セラルルモノニ非スト雖モ該條件ハ的確ニ之ヲ具備スルコトヲ要スルナリ(保險者ト被保險者トノ間ニ於テハ堪航ナルコトヲ承認スル¹⁾ Seaworthiness admitted as between Assurer and Assured.)ナル約款ヲ保證證券中ニ挿入スルコトアリ、嚴格ニ論スルトキハ不知ト云フモ善意ト云フモ條件違反ノ結果ニ付被保險者ヲシテ其ノ責任ヲ免レシムルモノニ非

ス、船舶保險ノ場合ニ於テハ船主ハ船舶カ凡ユル點ニ於テ航海ニ堪ユヘキコトヲ保證セムカ爲メ實際上能フ限リノ手段ヲ盡シ尙且ツ隠レタル瑕疵アリテ相當ノ注意ヲ以テスルモ之ヲ發見スルコト能ハサル場合ニ於テハ保險證券ニ特約ナキ限リ船主ハ其ノ目的ヲ達スルコト能ハス、損害填補ノ權利ハ之ヲ喪失スルニ至ルヘキナリ、其ノ適例ハ船舶カ Montreal ヨリ Halifax マテ航海保險ニ付セラレタル場合ナリ、船舶出港ノ時ハ汽罐ノ故障ハ外部ニ顯ハルルコトナカリシモ St. Lawrence 川ヲ降ルニ及ヒ其ノ故障ハ外部ニ顯ハレ遂ニ航海不自由ト爲ルニ至リタルヲ以テ Montreal ニ引返シ故障ヲ修理セリ、故障修理ノ後同船ハ再ヒ航海ヲ始メタリシカ遂ニ惡天候ノ爲メ沈没スルニ至レリ、以上ノ場合ニ於テ同船ハ航海ヲ始ムル時ニ於テ不堪航ナリシヲ以テ保險者ハ擔保ノ責ニ任セスト判決セリ (Quebec Marine Insurance Co. v. Commercial Bank of Canada 1870).

船舶自體カ航海ニ堪ユルコトヲ要スルノミナラス、積荷ヲ過當ニ積載スルコトヲ得ス、而シテ積荷ハ之ヲ適當ノ場所ニ船積スルコトヲ要スルナリ、尙船舶ハ其ノ乗組員ノ定員ニ不足スルコトナキヲ要シ、高等海員及通常海員ハ共ニ能率アル者ナ

ルヲ要ス

加之船舶ハ保險證券ニ定メラレタル陸揚港マテ積荷ヲ運送スルニ適スルヤウ積荷ヲ爲スコトヲ要ス(海上保險法第四十條換言スレハ船舶ハ堪荷(cargo-worthy)ナルコトヲ要スルナリ)

船舶ノ航海保險ニ於テハ堪航條件ハ航海ノ始マル時ニ於テ具備スルコトヲ要シ若シ航海カ數個ノ別異ノ段階(stage)ニ分ツコトヲ得ヘキモノナルトキハ堪航條件ハ各段階ノ始メニ於テ具備スルコトヲ要ス

左ノ二個ノ判例ハ以上ノ場合ノ好例トシテ通常引照セラルル所ナリ、第一ノ判例ハ Bouillon V. Lupton 1863 事件ナリ、即チ「ローン」川ニ就航スル三隻ノ汽船カ「ダニユー」川ニ就航セムカ爲メ「リヨン」ガ「ラツ」マテ航海保險ニ付セリ、同船ハ「ローン」川ニ架セラレタル無數ノ低キ橋梁ノ下ヲ通航セムカ爲メ「リヨン」ヲ出帆スルニ當リ橋ヲ撤去スルヲ要シ無橋ノマ、「ローン」川ヲ下航シ馬耳塞ニ到達セリ、茲ニ於テ橋ヲ備付ケ「ガラツ」ニ向ケ航海スルノ準備ヲ爲シタリシカ黒海ニ至ルニ及ヒテ暴風ニ遭遇シ沈没スルニ至レリ、茲ニ於テ保險者ハ同船ノ「リヨン」出帆ニ當リ全航海(whole voyage)ニ對シ堪航ナラサルヲ理由トシテ保險金ノ支拂ヲ拒絕シタリシモ、裁判

所ハ堪航ノ程度カ航海ノ別個ノ段階ニ應シ夫レ々相違スルヲ要シ而モ各段階ノ始メニ於テ適當ニ積裝セラレタルモノナルトキハ條件ハ茲ニ具備セラレタルモノニシテ、本件ノ場合ニ於テハ此等ノ條件ハ何レモ具備セラレタルモノナルヲ以テ保險金支拂ノ責アリト判決セリ、判事「スミス氏ハ曰ク「ローン」川ヲ下航スルニ於テハ「ローン」川ニ對シ堪航(若シ堪航ト云ヒ得ヘクハ)ナラサルヘカラス、馬耳塞ヨリ「ガラツ」マテハ航海ニ對シ積裝スルヲ要ス」ト

以上ノ訴件ニ於テハ堪航條件ヲ具備スル關係上航海ノ各段階カ別個ノ積裝ヲ要シ即チ一ハ河川航行ニ十分ナルヲ要ストナシ他ハ海上航行ニ必要ナル特別積裝ヲ要スト爲セリ、然レモ各段階ハ必シモ別個ノ堪航條件ヲ具備スルヲ要スト云フニハ非ス、現時ニ於テハ數萬噸ノ積荷ヲ運送スル巨大ナル船舶カ世界各地ニ航行スルノ狀況ナルヲ以テ、航海ノ始メニ於テ十分ナル石炭ヲ積載スルハ海運上ヨリ之ヲ見ルモ不可能事ニ屬スルヲ以テ中間港ニ於テ石炭ヲ積載スルノ慣習ヲ馴致スルニ至レリ、故ニ船舶カ出帆當時ニ於テ堪航條件ヲ具備セムカ爲メニハ一應

(Prima facie) 全航海ニ對シテ十分ナル石炭ヲ積載スルヲ要スルノミ、堪航條件ハ之ヲ嚴格ニ具備スルコト困難ナルモ控訴院ニ於ケル二個ノ判決 (Thin v. Richards 1892. the Vortigera 1899) ニ依リテ此ノ困難ヲ解決スルヲ得ヘシ、而シテ右二個ノ判決ハ何レモ運送契約ニ關スル訴件ニシテ即チ船主ト荷主トノ懸争ニ屬シ海上保險ニ關スルモノニ非サレ、*海上保險ニ付テハ Greenock S. S. Co. v. Maritime Insurance Co., Ltd., 1903* ヲ參照スヘシ) 該判決ニ依リテ一個ノ原則ヲ確立スルニ至リタルモノナリ即チ汽船カ航海ノ始ニ於テ航海ノ一部ニ對シテノミ十分ナル石炭ヲ搭載シ其ノ消費シタル石炭ハ中間港ニ於テ補充スルノ意思ヲ以テ航海ヲ爲シタル場合ニ於テハ該航海ハ載炭ノ點ヨリ之ヲ見レハ各段階ニ分タレタルモノト看做スヲ要シ其ノ段階ハ一載炭港ヨリ次ノ載炭港ニ至ル間ニシテ堪航條件ハ各載炭港ヲ出港スル時ニ於テ具備スルヲ要スト爲スナリ

前述ノ控訴院ノ二判決中特ニ注目ヲ要スルハ *Vortigera* 事件ナク、本件ハ前述ノ如ク運送契約上ノ問題ナリシト雖モ故判事 Smith 卿ハ本事件ヲ以テ海上保險契約ニモ適用アルヘキ旨ヲ明示セルヲ以テナリ、本件ニ於テハ船舶ヲ *Cebu* (比列賓群島)

ヨリ Liverpool ニ至ル航海保險ニ付シ載炭ノ關係上航海ヲ三個ノ段階ニ分チ即チ *Cebu* ヲリ Colombo ヲテ Colombo ヲリ Suez ヲテ Suez ヲリ Liverpool ヲテト爲セリ、機關夫ノ過失ニ依リ第二ノ段階ナル Colombo ヲリ Suez ニ至ル航海ニ於テ該段階ヲ航海スルニ足ルヘキ石炭ヲ搭載セサリシヲ以テ Suez ニ到達前燃料ニ不足ヲ來シ石炭ノ代リニ積荷ヲ燃料ニ供シタリ、裁判所ハ第二ノ段階 (Colombo ヲリ Suez) ノ航海ヲ始ムル時ニ於テ該段階ヲ航海スルニ十分ナル石炭ヲ搭載シタルヲ以テ同船舶ハ不堪航ナリト判決セリ

積荷保險ノ場合ニ於テハ積荷自體ニ關スル限り默示ノ堪航條件ナルモノナシ(海上保險法第四十條) 然レモ保險者ハ特約ナキ限り隱レタル瑕疵 (inherent vice) 又ハ所謂固有ノ瑕疵 (vice propre) ニ因リテ生スル損失又ハ損害ニ對シ填補ノ責ニ任セサルナリ、例ヘハ椰子ノ實ノ自發的熱加作用ニ因リテ生スル損害ノ如シ (Koebel v. Saundel 1864)

斯ク默示ノ條件ハ船舶ニ對シ嚴格ニ具備スルコトヲ要スルモ保險契約カ船舶往復ノ解舟危險 (risk of craft to and from the ship) ヲ擔保シタル場合ニ於テハ積荷ヲ海岸

ヨリ積載セムカ爲メニ使備セラルル解舟ニ付默示ノ堪航條件ハ之ヲ具備スルヲ要セサルナリ(Lane v. Nixon 1866.)

第二款 適法(Legality)

第二ノ默示條件ハ危險ノ適法ナルヘキコト及被保險者ノ支配シ得ル限り該危險ハ適用ニ遂行セラルヘキコト之レナリ(海上保險法第四十一條)國法上禁止セラレタル通商又ハ航海ヲ擔保セムカ爲メ締結セラレタル保險契約ハ無効ナリ、例ヘハ密輸入ノ發覺スルニ於テハ收入法ニ依リテ沒收セラルヘキ場合ニ於テ密輸入ヲ保險スルハ無効ナリ、然レモ保險ニ付シタル危險カ適法ナル場合ニ於テ船長又ハ海員カ自己ノ利益ノ爲メ密輸入ヲ爲シ船主之ヲ知了セサル場合ニ於テハ保險契約ヲ無効ナラシムルモノニ非ス、其ノ密輸入ハ船員ノ不正行爲(Barratry)ト爲ルモノトス

戰時中英國官憲ニ因リテ爲サルルコトアルヘキ捕獲ノ危險ニ對シ締結セラレタル保險契約ノ無効ナルハ論ヲ俟タサルナリ

第二章 保險證券及其ノ用語(The Policy and its Phraseology)

保險證券ノ用語ヲ解説スルニ先チ保險證券ノ全般ヲ一瞥スルノ要アリ、蓋シ保險證券ハ舊式ノ證書ニシテ之ヲ以テ現時ノ商業上ノ需用ニ充足セシムルコト殆ト不可能事ニ屬ス、其ノ古キ保險證券ニ使用セラレタル用語ニ至リテハ恰モ判例ト稱スル帽子ヲ懸ケラレムコトヲ期待シツツアル帽子懸ニ類シ、爾來幾多ノ歲月ヲ經テ帽子懸ノ上ニ幾多ノ帽子ノ懸ケラレタルヲ見ル、而モ法律上ノ帽子ハ之ヲ輕々ニ除去スルコトヲ得ヘキニ非ス、其ノ古キ保險證券ヲ改廢スルニ當リテハ其ノ用語及約款ハ判例ニ依リテ其ノ意義ヲ確定セラレ居ルモノナルコトヲ忘ルヘカラス、故ニ新ニ保險證券ノ様式ヲ採用スルハ即チ新ナル帽子懸カ順次ニ判例ナル帽子ヲ懸ケラレムコトヲ期待シツツアルモノニ外ナラス、故ニ新ナル様式ニ依ラムヨリハ寧ロ古キ様式ニ依ルノ優レルニ如カサルナリ、古語ニ曰ク「自己ノ知ラサルコトヲ他人ニ言ハムヨリハ寧ロ拙惡ナルモ自己ノ有スルモノヲ保存スルニ如カシ」ト

期間又ハ航海ニ對スル船舶保險、積荷保險、運賃保險、希望利益保險及書留郵便ヲ以テ London ヨリ Manchester マテ輸送スル債券保險ニ至ルマテ一切ノ保險種類ハ古キ様式ヲ以テ締結セラレサルヘカラス、中途ニ於テ之ヲ改廢スルハ恰モ輕業師ノ仕事ナリトハ *Baird v. The Marine Insurance Co. 1894* 事件ニ於テ *Esher* 卿ノ嘲笑シタル所ナリ、若シ保險證券ノ約款ニシテ當事者ノ意思ニ的確ニ適合セサルニ於テハ自己ノ欲スル所ニ從ヒ或ハ條件ヲ記入シ又ハ約款ヲ挿入レテ其ノ缺陷ヲ補フコトヲ得ヘシ、今ヤ數會社ニシテ積荷保險ニ對立シ別個ノ船舶保險證券ノ様式ヲ用キルモノアリ、早晚一般ニ採用セララルニ至ルヘシ

海上保險契約ハ被保險財産カ陸上ニ在ル間ノ陸上危險ヲ擔保スルモノナリヤ又ハ海上ニ在ル間ノ財産ヲ擔保スルニ過キサレモノナリヤニ付テハ曾テ疑問ノ存セシ所ナリシモ一般的慣行ニ依リ又ハ當事者ノ合意シタル慣行ニ依リ又ハ保險約款ニ依リテ陸上ヲ航海ノ一部ト爲シタル場合ニ於テハ水陸兩方ノ危險ニ付擔保ノ責ニ任スト判決セララルニ至レリ (*Kodocunichi v. Elliot 1874*)

保險證券ヲ有效ナラシムカ爲メニハ適法ニ印紙ヲ貼用スルコトヲ要ス、航海保

險ニ於テハ現今ハ保險金百磅及其ノ端數毎ニ一片ヲ課稅セラル、然レモ保險料率カ百磅ニ付ニ志六片以下ナル場合ニ於テハ保險金額ノ如何ニ拘ラス航海期間保險共ニ一片ヲ課稅セラル、六ヶ月ヲ超過セサル期間保險ハ保險金百磅及其ノ端數毎ニ三片ニシテ六ヶ月以上十二ヶ月以下ノ期間保險ハ保險金百磅及其ノ端數毎ニ六片トス、船舶其ノ他ノ保險ニシテ一航海及到達後三十日間ヲ擔保スル場合ニ於テハ單ニ航海保險トシテ課稅セラル、若シ三十日ヲ超ユル場合ニ於テハ該保險證券ハ航海保險及期間保險トシテ二重ニ課稅セラル、故ニ保險證券ニ擔保セラレタル二十四時間ニ加フルニ尙三十日間擔保スルモノナルトキハ三十一日ノ期間トナリ前述シタル所ニ依リ二重ニ課稅セラルナリ (*Allen's Stamp Duties on Sea Insurance II. Ed.P. 102*) 故ニ船舶到達後三十日間ヲ擔保スル場合ニ於テハ二十四時間 (*only four hours*) ナル語ヲ削除スルヲ通常トス

建造中ノ船舶保險證券ハ課稅ノ關係上航海保險ト看做サレ十二ヶ月ヲ超ユル場合ト雖モ期間保險ト看做サルコトナシ (一九〇三年收入法)

十二ヶ月ヲ超エテ期間保險ヲ締結スルヲ得ス、若シ十二ヶ月ヲ超ユルトキハ該契

約ハ無効ナリ

英國以外ノ國ニ於テ發行セラレ英國ニ於テ保險金ヲ支拂フヘキ保險證券ヲ英國ニ於テ受領シタル者ハ受領ノ日以後十日以内ニ所定ノ印紙ヲ貼用スルコトヲ要ス

第一節 解釋(Construction)

保險證券ニ適用スヘキ解釋ノ原則トハ何ソヤトハ當然生スヘキ問題ナリ、本問ニ付テハ *Ellenborough* 卿ノ語ヲ以テ之ニ回答スルコトヲ得ヘシ (*Rovertson v. French* 180) 同卿ハ曰ク「他ノ證書ニ適用スヘキ解釋ノ原則ハ海上保險ニモ亦齊シク適用アルモノナリ、即チ第一ニ保險證券中ニ使用シタル用語ヨリ歸納シタル意義ニ從ヒ解釋スルヲ要ス、而シテ同一用語ニ付取引上ノ慣習又ハ之ニ類似スル慣習カ一般ニ通常ノ意義ト異ナル意義ニ使用スル場合ヲ除キ、及其ノ用語カ特別ノ場合ニ於テ當事者ノ眞意ニ適合セシメムカ爲メ他ノ特種ノ意義ニ解スルヲ要スルコト前後ノ關係ニ依リテ明瞭ナル場合ヲ除キ、保險證券ニ使用シタル用語ハ之ヲ平易(plain)

in) 通常(ordinary)且通俗(popular)ノ意義ニ解スルヲ要ス」ト

保險證券ノ解釋上合理的ナル疑問ヲ存スル場合ニ於テハ契約當事者ノ眞意ヲ明瞭ニ爲スヘキ慣習ノ存在ヲ立證スルヲ得ヘシト雖モ、其ノ之ヲ立證シ得ルハ契約ノ意義カ疑ハシキ場合ニ限ラルルナリ、*Lynnhurst* 卿ハ曰ク「慣習ニ依ルハ疑ハシキ事項ヲ説明スル場合ニ限り、明瞭ナル事項ニ背反スルコトヲ得ス」ト (*Brackett v. Royal Exchange Assurance Corporation* 1832)

保險證券ノ解釋ニ付合理的ノ疑問ノ存スル場合ニ於テハ要約者即保險者ニ不利益ニ之ヲ解釋スルヲ要ス、之レ一般ニ書面契約ニ適用スヘキ英法ノ原則ナリ、尙保險證券面ニ書入レタル事項又ハ保險證券ニ貼用シタル印刷約款カ印刷シタル保險証券ノ文言ト相違スル場合ニ於テハ此等ノ事項又ハ約款ハ印刷シタル保險証券ニ優先スルモノトス(保險證券ノ解釋ニ於テハ海上保險法第一附屬表ヲ參照スヘシ)

第二節 讓渡(Assignment)

自己ノ名ヲ以テ保險契約ヲ締結シタル者ハ當該保險證券ヲ利害關係ヲ有スル他人ニ對シテ讓渡スルコトヲ得讓渡ハ單ニ裏書及交付ニ依リテ爲サルヲ通常トス(海上保險法第五十條及第五十一條)船舶ヲ賣却シタル場合ニ於テ賣主カ自己ノ締結シタル船舶保險契約ヲ船舶賣買契約ノ一部トシテ讓渡スルニ非サレハ賣主ノ締結シタル船舶保險契約ハ賣却ニ依リテ其ノ效力ヲ失フモノトス新シキ管理者ニ移轉シタル場合モ亦同様ナリ左ノ約款ハ通常船舶保險證券ニ挿入セラルル所ナリ

“Should the vessel be sold or transferred to new management, then, unless the underwriters agree in writing to such sale or transfer, this policy shall thereupon become cancelled from date of sale or transfer, unless the vessel has cargo on board and has already sailed from her loading port or is at sea in ballast, in either of which cases such cancellation shall be suspended until arrival at final ports of discharge if with cargo, or at port of destination if in ballast. A pro rata daily return of premium shall be made.”

「船舶カ新シキ管理者ニ賣却又ハ移轉シタル場合ニ於テハ、保險者ハ賣却又ハ移

轉ニ對シ書面ヲ以テ合意シタル場合ヲ除キ、保險證券ハ其ノ賣却又ハ移轉アリタル日以後其ノ效力ヲ失フ、但シ船舶カ積荷ヲ積載シテ既ニ船積港ヲ出港シタルトキ又ハ底荷ヲ積ミテ航海中ナルトキハ積荷ノ場合ハ陸揚港マテ底荷ノ場合ハ到達港マテ保險證券ハ尙其ノ效力ヲ有ス、保險料ハ日割計算ヲ以テ之ヲ返還スルモノトス」

新シキ管理者(New management)ナル用語ノ意義ニ付テハ曩ニ *Ryman v. Marten* 1907 事件ニ於テ問題ト爲レリ、即チ汽船 *Eusby Abbey* 號カ期間保險ニ付セラレ日露戰爭ノ時ニ於テ日本官憲ノ捕獲スル所トナリ捕獲審檢所ニ於テ捕獲物ト審檢セラレタリシカ控訴院ニ於テハ *Phillimore* 判事ノ判決ヲ確認シ本件ハ保險約款中ノ新シキ管理者ニ移轉シタルモノニ非ス從テ保險料ハ割合ヲ以テ之ヲ返還スルヲ要セスト判決セリ

第三節 保險證券ノ用語(Phraseology of the Policy)

海上保險契約ノ意義及默示條件ニ付テハ曩ニ略述シタル所ノ如シ、今左ニ細目ニ

亘リテ研究スル所アルヘシ

先ツ保險證券ノ初頭ニ於テ *The is known that* ナル用語アリ其ノ用語ノ次ニハ空欄アリテ茲ニハ實際ノ被保險者又ハ其ノ代理人ノ名ヲ署スルモノトス、本空欄ニ名ヲ署スルハ絶對的必要條件ナリ(海上保險法第二十四條)而シテ其ノ氏名ハ必スヤ被保險者又ハ被保險者ノ爲メニ保險契約ヲ締結スル者ノ氏名ナラサルヘカラス、茲ニ於テカ先ツ

第一 何人カ保險ヲ付スルコトヲ得ルヤ何人カ被保險利益ヲ有スルヤノ問題ヲ生ス、保險ヲ付スルコトヲ得ル者及保險ヲ付スヘク指圖ヲ與フル者ハ必スヤ被保險利益ヲ有セサルヘカラス、被保險利益ヲ有スル者トハ被保險物件ニ對シ其ノ存在ニ依リテ利益ヲ得其ノ損害ニ依リテ影響ヲ受クヘキ地位ニ在ル者ヲ云フ、海上保險法第五條第二項ハ左ノ如ク規定セリ

海上冒険ニ對シ又ハ海上冒険ニ曝サレタル被保險財産ニ對シ普通法上若ハ衡平法上ノ關係ヲ有スル場合ニ於テ其ノ法律關係ヲ有スル結果トシテ被保險財産ノ安全ニ到達スルニ依リ若ハ相當ノ時期ニ到達スルニ依リテ利益ヲ得ル者

又ハ被保險財産ノ損失若ハ抑留ニ依リテ影響ヲ受クル者又ハ之ニ關シ責任ヲ負フ者ハ海上冒険ニ付殊ニ利害關係ヲ有スルモノトス

保險ヲ付シ得ル權利ヲ有スル者ハ財産ノ全部又ハ一部ノ所有者ノミニ限ルニ非ス、出荷主、代理人、其ノ他ノ者ニシテ前渡金保全ノ爲メ財産ニ對シ法律上ノ留置權ヲ有スル者等ハ該財産ニ對シ被保險利益ヲ有シ船舶抵當權者(Mortgagee of a vessel)ハ抵當權ノ範圍ニ於テ被保險利益ヲ有シ、被信託者(trustee)又ハ受託者(Bailee)ハ自己ノ保管スル財産ニ付被保險利益ヲ有シ、本人ヨリ保險ヲ付スヘキ權利ヲ與ヘラレタル代理人(agent)又ハ取次人(Broker)モ亦被保險利益ヲ有ス、尙保險者ハ自己ノ引受ケタル危險ニ付被保險利益ヲ有シ之ヲ再保險ニ付スルコトヲ得ヘシ
何人ト雖モ其ノ國籍ノ如何ニ拘ラス英法上英國ノ保險ニ依リテ自己ノ財産ヲ保護スルコトヲ得ルノ權利ヲ有ス、唯一ノ例外ハ外敵(alien enemies)即チ英國ト對敵行爲ヲ爲ス外國臣民ナリ、之レ自國臣民ヲシテ自國ノ通商上ニ蒙ルヘキ損害ニ對シ外敵ニ填補ヲ爲サシムルハ國策上不可ナルヲ以テナリ

第二 “As well as in his or their own name as for and in th: name and names of all and every other person or persons to whom the same does, may or shall appertain, in part or in all, doth make assurance and cause himself or themselves and them and every of them to be insured.”

「甲野乙野」ハ自己ノ名ニ於テ又ハ保險ノ目的ノ一部又ハ全部カ現在及將來ニ於テ其ノ所有ニ屬スルコトアルヘキ一切ノ人々ニ代リテ、又ハ其ノ名義ニ於テ茲ニ保險契約ヲ締結シ、「自己」及以上ノ一切ノ人々ヲシテ保險セシムヘキコトヲ約ス」

以上ノ約款ハ保險證券ノ讓渡ニ付規定シタルノミナラス危險ノ存續中ニ於テ保險ノ目的ノ全部又ハ一部ニ付被保險利益ヲ取得シタル者カ後ニ至リ追認ヲ爲スニ於テハ其ノ保險證券カ他人ノ名ニ於テ發行セラレタルモノナル場合ト雖モ被保險利益ノ取得者ヲシテ保險契約上ノ保護ヲ受クルコトヲ得セシムルモノナリ、且ツ其ノ追認ハ損害發生前ニ於テ爲サルコトヲ必要トセス、例ヘハ倫敦ノ保險取次人ハ Hagedorn ナル者ノ指圖ニ依リテ Schroeder ナル外國商人ノ爲メニ保險契約ヲ爲シタリシカ Schroeder 〳 Hagedorn ニ對シ保險ヲ付スヘキ何等ノ指圖ヲ與ヘ

サリキ、然ルニ損害發生後二ケ年ヲ經過シタル後 Schroeder 〳 Hagedorn ニ對シ當該保險證券ニ基キ保險者ヨリ保險金ノ支拂ヲ受ケラレムコトヲ望ム旨ヲ通知セリ此ノ場合ニ於テハ Schroeder ノ爲シタル通知ハ即チ曩ニ保險ニ付スヘキ權限ヲ與フルモノニ外ナラスト判決セリ (Hagedorn v. Oliverson 1874) 本件ハ古ク且ツ極端ノモノニシテ今日ノ取引ニ於テハ損害填補ニ關シ自己ノ他位ヲ確定スルノ手段ヲ講スルコトナクシテ二ケ年ヲ經過スルカ如キハ稀有ノコトニ屬スルモ本約款ノ設例トシテ適切ナルモノタルヲ失ハサルナリ、

海上保險法第八十六條ハ或ル者カ他人ノ爲メ善意ニ海上保險契約ヲ締結シタル場合ニ於テハ他人ハ損害アリタルコトヲ知りタル後ト雖モ該契約ヲ追認スルコトヲ得ト規定セリ

第三 滅失シタルト否トヲ問ハス (lost or not lost)

本用語ノ意義ハ明瞭ナルモ一見シタルカ如キ廣キ效果ヲ有スルモノニ非ス、其ノ效果ハ制限セララルモ既往ニ遡及スルモノナルハ疑ヲ客レサルナリ、而モ本用語ヲ契約ニ適用スルニ當リテハ契約締結ノ時ニ於ケル條件ニ從ハサルヘカラス、貨

主ハ其ノ積荷カ船積セラレタル旨ノ通知ヲ受クル以前ニ於テ又ハ其ノ積荷ヲ保
 險ニ付スル機會ヲ得サル以前ニ於テ積荷ハ既ニ海上ノ危險ニ曝サルコト往々
 アル所ナルヲ以テ斯ル偶然ノ事故ニ備ヘンカ爲メ本用語ヲ使用シテ其ノ效果ヲ
 既往ニ廻ラシムルナリ、保險契約ノ當事者ハ其ノ損害ノ發生シタルコトヲ知ラサ
 ルコトヲ要スルハ勿論若シ契約者ニシテ損害アリタルコトヲ知リ而シテ保險者
 之ヲ知ラサル場合ニ於テハ之レ事實ノ不告知 (concealment) ナルト同時ニ善意 (good
 faith) ニ違反スルモノニシテ保險契約ヲ無効ナラシムルニ至ルモノトス、之ト反對
 ニ若シ保險者カ船舶ノ到達シタルコトヲ知リ契約者タル貨主カ之ヲ知ラサルト
 キハ保險者ハ保險料ヲ返還スルコトヲ要シ保險者返還セサルニ於テハ保險者ニ
 對シ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ヘシ

然レトモ以上ノ事實ハ豫定 (open) 又ハ船名未詳 (floating) 保險ニハ之ヲ適用スルヲ得
 サルハ論ヲ俟タサル所ナリ、通常ノ保險契約ニ於テ保險者並被保險者カ共ニ損害
 アリタルコトヲ知ラサルトキハ被保險者ハ保險契約締結前ニ於テ發生シタル損
 害ニ付之カ填補ヲ求ムルコトヲ得ヘシ之レ lost or not lost ナル用語ノ廻及的意義

ノ限度ニ外ナラス

第四 「……ニ於テ及……ヨリ」(at and from)

「……ニ於テ及……ヨリ」(at and from) ノ次ノ空欄ニハ保險ニ付スヘキ航海ヲ記載ス
 ルヲ要ス「港ヨリ」(from a port) 保險ヲ付スル場合ト「港ニ付テ及港ヨリ」(at and from a
 port) 保險ヲ付スル場合トハ兩者ノ間ニ重要ノ差異アルコトヲ注意スルヲ要ス即
 チ「港ヨリ」保險ニ付スル場合ニ在リテハ保險ノ目的カ港ヲ出港スル時ヨリ担保セ
 ラルモノトス、例ヘハ「倫敦ヨリ紐育マテ」(from London to New York) ノ保險ニ在リテ
 ハ船舶カ倫敦ヲ發航シタル時ヨリ責任ヲ開始スルモノトス、然ルニ「港ニ於テ及港
 ヨリ」(at and from a port) ノ保險ニ在リテハ更ニ廣キ意義ヲ有シ保險ノ目的カ船舶ノ
 發船前ニ於テ發航港ニ在ル間ヲ担保スルノミナラス發航ノ時以後及其ノ航海中
 ヲ担保スルモノトス

内國ノ港内ニ碇泊中ノ船舶ニ付「當該港ニ於テ及夫ヨリ」保險ヲ付シタル場合ニ於
 テハ保險契約成立ノ時ヨリ直チニ其ノ責任ヲ開始シ、航海ニ必要ナル準備ヲ爲ス
 ニ要スル期間中其ノ責任ヲ繼續スルモノトス (Palmer v. Marshall 1831) 船舶カ契約當

時未タ到達セサル港ニ於テ及夫ヨリ保險ニ付シタル場合ニ於テハ保險契約上ノ責任ハ船舶カ該港ニ到達シタル時ヨリ開始スルモノトス但シ比ノ場合ニ於テハ船舶ハ物理的ニ安全ナリト合理的ニ認ムルコトヲ得ヘキ状態ニ於テ到達シタルモノナルコトヲ要ス若シ船舶到達シタルモ其ノ損害甚ク修繕ヲ加フルニ非サレハ碇泊スルコト能ハサルニ於テハ保險契約上ノ責任ヲ生スルコトナキナリ然レモ船舶ハ必シモ損害ナクシテ到達スルヲ要スルニ非ス損害アルモ港内ニ碇泊中其ノ安全ヲ妨クル程度ニ非サルモノナルトキハ保險契約上ノ責任ハ船舶カ當該港内ニ進入シタル時ヨリ開始スルモノトス外國港ニ於テ及夫ヨリ *(at and from a port abroad)* ナル用語ノ意義ニ關スル重要ナル訴件ハ *Houghton v. The Empire Marine Insurance Co. 1866* 事件ナリ該件ニ依レハ船舶カ *Havana* ニ於テ及夫ヨリ *Greenock* ヲテ *(at and from Havana to Greenock)* 保險ニ付セラレタリ同船ハ *H* 港外ニ碇泊シ港内ニ進入スルニ當リ水先案内ヲ備便シ且ツ曳船セラレツツ碇泊所ニ至レリ然ルニ碇泊所ニ至ルヤ他ノ船舶ノ錨ニ衝突シ多大ノ損害ヲ惹起セリ翌日ニ至リ同船ハ同港内ノ他ノ場所ニ曳船セラレ茲ニ其ノ積載貨物ヲ陸揚シタリ *H* ニ於テ及夫ヨリ

(at and from Havana) ノ保險者ハ他船ノ錨ニ衝突シタルニ因リテ生シタル損害ノ修繕ニ對シ保險金ヲ支拂フコトヲ拒絕セリ拒絕ノ理由ニ曰ク「損害發生當時ニ於テハ船舶ハ保險證券ノ所謂 *H* ニ *(at Havana)* 在ラス何トナレハ船舶ハ到達港ニ於テ安全ニ碇泊シタルモノニ非サレハナリ」ト

然ルニ裁判所ハ之ニ反シ本件ニ於テハ船舶ハ通常ノ意義ニ於テ *H* ニ在リ保險證券ハ其ノ責任ヲ開始シ保險者ハ損害填補ノ責ニ任スヘキ旨ヲ判決セリ船舶カ外國港ニ到達シタル場合ニ於テ該船舶ハ往航ノ保險ヲ付シ尙現今行ハレ居ルカ如ク到達後二十四時間乃至三十日間ノ危険ヲモ包含スト爲スコト屢行ハル故ニ當該港ニ到達シタル船舶ハ往航ノ保險ヲ以テ一定ノ期間ヲ保險シ尙ニ於テ及夫ヨリ「ナル復航ノ保險ヲ以テ一定ノ期間ヲ保險スルコトナキニ非ス斯ク保險期間ノ重複スルヲ避ケムカ爲メ左ノ如キ約款ヲ保險證券中ニ挿入スルヲ常トス

“The risk is not to commence before the expiry of previous policies.”

「曩ニ締結シタル保險證券ノ保險期間ノ終了スル以前ニ於テハ責任ヲ開始セス」
Brazilノ如キ國即チ一國ヲ構成スル一地方又ハ數個ノ島嶼ヲ有スル Jamaicaノ如キ

島ニ於テ及夫ヨリ保險ニ付シタル場合ニ於テハ船舶保險ニ在リテハ一地方又ハ島ノ一港ニ安全ニ到達シタル時ヨリ其ノ責任ヲ開始シ積荷保險ニ在リテハ前述ノ一港ニ於テ船積シタル時ヨリ其ノ責任ヲ開始スルモノトス

第五 航海(Voyage)

at and from ノ次ノ空欄ニハ航海(Voyage) 即チ保險期間ヲ記入スルモノトス航海ハ之ヲ正確ニ記入スルコト極メテ緊要ナリ、保險者ハ航海ハ通常ノ航路ヲ航行スルモノト推定スルヲ常トス、若シ特別ノ場合ニ於テ通常ノ航路ヲ離レムトスル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ保險者ニ通知スルヲ要シ、其ノ離路ハ保險證券中ニ記載スルヲ通常トス、斯ク航路ヲ離ルル旨ノ記載ナキニ於テハ航路ハ之ヲ變更セサルコトヲ以テ契約ノ默示條件トスルナリ

第六 航路變更(Deviation)

航路變更及其ノ效果ニ付テハ海上保險法ニ規定セリ曰ク

第四十六條

(一) 船舶カ適法ナル理由ナクシテ保險契約ヲ以テ引受ケタル航路ヲ變更シタルトキハ保險者ハ變更ノ時ヨリ其ノ責任ヲ解除セララル、損害發

生以前ニ於テ船舶カ元ノ航路ニ復歸スルモ間フ所ニ非ス

(二) 左ノ場合ニ於テハ保險契約ヲ以テ引受ケタル航路ヲ變更シタルモノトス

(イ) 保險契約ヲ以テ航路ヲ特定シタル場合ニ於テ該航路ヲ離レタルトキ

(ロ) 保險契約ヲ以テ航路ヲ特定セサル場合ニ於テ通常ノ航路其ノ他慣習ニ依リテ定リタル航路ヲ離レタルトキ

(三) 航路ヲ變更スルノ意思ハ間フ所ニ非ス、保險者カ契約上ノ責任ヲ免ルルカ爲メニハ實際ニ航路ノ變更ヲ生スルコトヲ必要トス

第四十七條

(一) 保險契約ヲ以テ數個ノ陸揚港ヲ特定シタル場合ニ於テハ船舶ハ陸揚港ノ全部又ハ一部ニ航行スルコトヲ得、但シ反對ノ慣習ナキトキ若ハ十分ナル反對ノ理由ナキトキニ限り船舶ハ保險契約ヲ以テ特定シタル順序ニ依リテ陸揚港ニ航行スルコトヲ要ス、若シ船舶カ以上ノ航行ヲ爲ササルトキハ之ヲ航路變更トス

(二) 保險契約ハ陸揚港ノ名稱ヲ指定セスシテ一定ノ地方ニ於ケル數個ノ陸

揚港ト指定シタル場合ニ於テハ船舶ハ反對ノ慣習ナキトキ若ハ十分ナル反對ノ理由ナキトキニ限り地理上ノ順序ニ依リテ陸揚港又ハ寄航港ニ航行スルコトヲ要ス、若シ船舶カ以上ノ航行ヲ爲ササルトキハ之ヲ航路變更トス

第四十八條 航海保險契約ニ於テ保險ニ付シタル航海ハ相當ノ進捗ヲ以テ其ノ航路ヲ航行スルコトヲ要ス若シ適法ナル事由ナクシテ以上ノ如ク航行セサルニ於テハ保險者ハ滯留カ不相當ト爲リタル時ヨリ其ノ責任ヲ免ルルモノトス

任意ニ爲シタル滯留(Delay)ハ危險カ之ニ依リテ増加シタルヤ否ヤハ問フ所ニ非ス問題ハ之ニ依リテ危險ノ變更ヲ來シタルヤ否ヤニ在リ、保險契約ヲ無効ト爲スヘキ滯留ノ最モ極端ナル一例ハ大西洋ヲ航行スル航海ニ對シ船舶保險ヲ六月ニ於テ締結シ保險者ハ夏期航海ヲ保險スルモノト信シタリシニ航海ノ始メニ當リ不合理ナル滯留ヲ爲シ遂ニ冬期マテ延航スルニ至リタル訴件ナリ、斯ノ如キ滯留ハ保險契約ヲ無効ト爲スコト言フ候タサルナリ (cf. *Maritime Insurance Co. v. Sears* 1901)

航路ノ變更ヲ爲スモ其ノ變更ハ正當ニシテ保險契約ノ效力ヲ失ハサル場合アリ故ニ航路變更ヲ正當ト爲ス事情否寧ロ航路變更ヲ正當トスル必要條件ニ付茲ニ説明ヲ加フルノ必要アリ、航路變更ヲ正當トスル場合ニ就キ海上保險法ヲ引照スルニ其ノ場合七アリ

第四十九條 保險契約ヲ以テ引受ケタル航海ヲ航行スルニ當リテ爲シタル航路變更又ハ滯留ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ正當ナルモノトス

一 保險證券中特別條項ヲ以テ之ヲ正當ト爲シタルトキ
 保險約款ヲ以テ航路變更ヲ爲スコトヲ認メタル場合ニ於テハ航路變更ハ契約ヲ無効ト爲スモノニ非サルハ本條ニ依リテ明ナリ、斯ク航路變更ヲ正當ト爲ス場合即チ航路變更ヲ許容スル場合ニ於テハ航路變更約款及(又ハ)航海變更約款(Deviation) and or change of voyage clause)ト稱スル約款ヲ保險證券中ニ貼付スルヲ常トス、航路變更及航海變更約款ハ其ノ様式種々ナレモ其ノ最モ簡單ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

"In the event of deviation and or change of voyage the assured to be held covered at a premium

to be arranged provided due notice be given on receipt of advices."

「航路變更及(又ハ)船海變更ノ場合ニ於テハ被保險者ハ其ノ事實ヲ知リ次第直ニ其ノ通知ヲ爲シタル場合ニ限り協定シタル保險料ヲ以テ之ヲ擔保スルモノトス」

右ノ如キ保險約款ヲ挿入レテ以テ航路ヲ變更シ又ハ船舶ノ到達港ヲ變更スルコトヲ明白ニ許容スルモノトス、然レモ航路變更又ハ航海ノ變更ニハ必スヤ船舶カ保險證券ヲ以テ擔保シタル航海ヲ現實ニ航行シタルモノナルコトヲ要ス若シ船舶カ保險證券ヲ以テ擔保シタル航海ト全然別異ノ航海ヲ航行シタル場合ニ於テハ保險契約ハ其ノ效力ヲ生スルコトナシ、從テ契約ニシテ效力ナキ以上其ノ一部分タル約款ハ其ノ效力ヲ生セサルナリ、之レ一八九二年控訴院ノ判決ニ係ル *Simon Israel and Co. v. Schwick* 事件ニ依リテ確定セラレタル所ナリ、同事件ニ依レハ保險證券ニハ「Mersey 及(又ハ)倫敦ニ於テ及夫ヨリ(at and from the Mersey and or London)葡國及(又ハ)ジブラルタル」ノ西方ニ當ル西班牙ノ一個又ハ數個ノ港ニ至ルマテヲ保險シ且ツ右ノ一個又ハ數個ノ港ニ於テ及夫ヨリ陸上運送ヲ爲シ内地ノ一個又ハ數

個ノ場所ニ至ルマテヲ保險ス「ナル旨ヲ記載セリ、尙右ノ保險證券ニハ保險料ヲ協定シテ航路變更及航海變更ヲ擔保スヘキ旨ヲ特約セリ、被保險者ノ積荷ハ Bradford ヨリ Madrid ニ向ケ發送セラレタリシカ被保險者ノ意思ハ該積荷ヲシテ Seville ニ向ケ Liverpool ニ於テ船積ヲ爲サシメ然ル後陸路 Madrid ニ運送セシメムコトヲ欲シタリ、以上ノ航路ハ Madrid ニ積荷ヲ送ル方法ニシテ以前ハ出荷主ハ何レモ此ノ航路ニ依リテ荷送リスルヲ常トナシ保險取次人ニ對シテハ Seville 迄ノ航海ナル旨ヲ通知シ之ニ依リテ保險ヲ締結セシメタルモノナリキ、該積荷ハ *Lope de Vega* 號ニ積荷セラレタリシカ其ノ船舶ノ航海ハ Seville ニ赴クモノニ非スシテ西班牙ノ西岸ニ於ケル一港タル *Caethagen* ニ赴キ夫レヨリ鐵路 Madrid ニ輸送セララルモノナルコト船荷證券ヲ檢スルニ及ヒ明瞭ト爲ルニ至レリ、而モ其ノ損害ノ發生シタルハ西班牙ノ東岸又ハ西岸ニ至ル共通ノ航路ヲ航行中ナリシナリ、出荷主ハ航路變更又ハ航海變更ハ保險料ヲ協定シテ之ヲ擔保スル旨ノ特約アルヲ理由トシテ協定保險料ヲ支拂ヒテ *Carthagen* マテノ積荷ニ對スル損害ヲ擔保セシメムトセシモ保險者ハ之ヲ拒絕セリ、茲ニ於テ出荷主ハ損害ノ填補ニ付訴訟ヲ提起シタリシ

カ裁判所ニ於テハ本件ハ航路ヲ變更スルノ意思ナキ旨ヲ判示シ船舶ハ全然別異ノ航海ヲ航行シタルモノニシテ而モ其ノ航海ハ保險セラレタルモノニ非サルカ故ニ保險證券ハ其ノ效力ヲ生スルコトナク從テ航路變更及(又ハ)航海變更約款ハ其ノ效力ナキ旨ヲ判決セリ、換言スレハ契約自體ハ本件ニ適合スルモノニ非サルカ故ニ其ノ約款ハ猶更(Condition)之ニ適合スルヲ得スト云フニ在リ

二 船長若ハ其ノ雇主ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リテ生シタルトキ船舶カ暴風ニ依リテ其ノ航路ヲ吹キ離サルルカ如キ自然力ノ激動ノ爲メ航路變更ヲ生シタル場合ニ於テハ該變更ハ正當ナルモノナルコト論ヲ俟タサレズ、斯ル自然力ノ激動ニ歸因セサル事由ニシテ船長又ハ其ノ雇主ノ責ニ歸スヘカラサルモノニヨリテ航路變更ヲ生スルコトナキニ非ス、例ヘハ船員カ其ノ航海ヲ繼續スルニ於テハ海賊ノ襲撃ヲ受クル虞アルヲ以テ全員悉ク船舶ヲ離レ船長カ故國ノ港ニ歸還スルコトヲ約スルニ非サレハ再ヒ同船ニ乗組ムコトヲ拒絶シタル場合ノ如シ、以上ノ如キ場合ニ於テ船長トノ契約ノ下ニ故國ノ港ニ歸還スルハ航路變更ニ非スト判決セラレタリ(Driscoll v. Bovil 1798)

三 明示若ハ默示ノ條件ヲ具備スルカ爲メ相當必要ナルトキ

默示ノ堪航條件(implied warranty of seaworthiness)ニ關スル Bouillon v. Lupton 1863 事件ハ又本項ノ場合ノ設例ナルヲ失ハス、本件ハ前述シタル如ク船舶ハ橋梁アルカ爲メニ橋ヲ撤去シテ Rhone 川ヲ下航シ Marseilles ニ至リ茲ニ航海ヲ爲スニ必要ナル積裝ヲ爲シ沈没スルニ至タリシカ Marseilles ニ於テ船舶ヲ堪航ナラシメムカ爲メニ爲シタル滞留ハ航路變更ヲ構成スルモノナレズ之レ正當ナル航路變更ナリトス

四 船舶若ハ保險ノ目的ノ安全ノ爲メ相當必要ナルトキ

本項ハ別ニ説明スルノ必要ナキカ如シ、本項ハ單ニ保險ニ付シタル危險ニ關シ被保險物件ノ安全ノ爲メ航路變更ヲ必要トスル場合ニ於テハ航路變更ハ正當ナル旨ヲ規定シタルモノナリ、例ハ船舶暴風ニ遭遇シ多大ノ損害ヲ受ケ之カ修理ノ爲メ避難港ニ入港スルノ必要アル場合ニ於テ修理ノ爲メニ爲シタル航路變更ハ正當ナリ、又航海ノ始ニ於テ船舶ハ適當ニ積裝セラレ定員ノ乗組員ヲ有シタリシモ糧食ニ不足ヲ告ケタルニ依リ、又ハ高等海員、普通海員ノ大多數ハ其ノ能率ヲ減退スルニ至リタルニ依リ、又ハ罹病其ノ他ノ事由ニ依リテ死亡スルニ至リタルニ依

リ糧食ヲ積載セムカ爲メ又ハ船員ヲ新ニ雇入レムカ爲メ入港スルハ正當ナリ

五 人命救助ノ爲メナルトキ又ハ人命ノ危険ナル難破船ヲ救助スル爲ナルトキ

六 乗組員ニ醫療ヲ施シ若ハ外科的扶助ヲ爲スカ爲メ相當必要ナルトキ以上ノ例外ハ人道ノ爲メ正當ナルモノナリ、人道ノ爲メナルニモ拘ラズ航路變更カ許容セラレストセハ實ニ奇異ナルモノナルヘシ、本項ニ於テ特ニ注意ヲ要スルハ第五ノ例外ノ下ニ航路變更ヲ爲スノ自由ヲ認メラルルハ人命救助ノ場合ニ限ラレ財産救助ノ爲メニハ之ヲ認ムルコトヲ得サルコト之レナリ、船舶積荷ニ關スル救助行爲ナルモ乗組員ノ生命ヲ救助スル爲メ合理的ニ必要ナルモノニ非サルモノナルトキハ之カ爲メニ爲シタル航路變更ハ正當ナルモノニ非ス(Saramaiga v. Stamp 1880)

七 不正行爲(Bartery)カ保險ニ付シタル危険ノ一ナル場合ニ於テ船長若ハ乗組員ノ不正行爲ニ由リテ生シタルトキ

Barteryノ意義ニ付テハ保險約款ヲ研究スルニ當リ説明スルコトトシ茲ニハ單ニ

Barteryトハ船長又ハ船員カ故意ニ船主ニ對スル義務ニ違反シテ爲シタル不正行爲及船主ノ承認ナクシテ爲シタル故意ノ不正行爲ヲ云フ、航路變更ニシテ斯ノ如キ不正行爲ニ基クモノナルトキハ之ヲ正當ナルモノトス
未項ノ規定ニ依レハ航路變更若ハ滯留ヲ正當トスル事由止ミタルトキハ船舶ハ相當ノ進捗ヲ以テ再ヒ其ノ航路ヲ航行スルコトヲ要ストアリ、換言スレハ正當ナル航路變更アリタル後ハ遲滯ナク航海ヲ開始スルヲ要シ然ラサレハ再ヒ航路變更ヲ生スルコトトナリテ契約ヲ無効ナラシムヘキナリ

第七 期間保險(Time Policy)

期間保險ニ付テハ期間ノ始期及終期ノ正確ナル日時ヲ常ニ保險證券中ニ挿入スルヲ要ス、若シ保險期間ノ始マリタル日ノ時刻ニ關シ何等特約ナキニ於テハ其ノ日ノ深夜(midnight)ヨリ始マリ深夜ニ終ルモノト看做ス、注意ヲ要スルハ保險契約ハ常用時(civil time)ニ依リ天文時(nautical time)ニ依ルニ非ス、又英國ノ「グリニツチ」標準時ニ依リ船舶ノ存在スル地點ニ於ケル時ニ依ルニ非サルコト之レナリ

第八 船舶往復ノ船危險(Including Risk of craft to and from the vessel)

右ノ約款ハ普通ノ「ロイド」保險證券ニハ使用セラレサルモ會社ノ使用スル保險證券ニハ使用セラルル所ナリ、「ロイド」保險證券ニ使用セラルルハ其ノ文言ヲ變更シ約款ノ形式ヲ以テ積荷ノ保險證券ニ挿入セラルルヲ常トス、之ヲ保險證券ニ挿入シ又ハ約款ノ形式ヲ以テ保險證券ニ使用スル所以ノモノハ積荷ノ危險ハ該船舶ニ積載シタル時ヨリ開始セラルルモノトナスコト契約ノ示ス所ナルヲ以テ右ノ如キ特約ナキニ於テハ船積中ノ船積危險ハ之ヲ担保セラレサルニ至ルヲ以テナリ、陸揚港ニ於ケル船積ノ危險ハ該船積ニシテ通常使用セラルルモノナル限り特約ナクモ保險契約上担保セラルルモノトス、何トナレハ保險契約ハ積荷カ安全ニ陸揚セラルル迄ヲ担保スルモノナルハ契約ノ定ムル所ナレハナリ、然レモ陸揚スルニ當リテハ通常且ツ慣習上行ハルル取引ノ方法ニ違背スルコトナキヲ要ス、例ハ商人カ港ニ行ハルル通常ノ慣習ニ反シ之ト全ク異レル場所及時ニ於テ積荷ヲ引渡スハ正當ニ非ス、之ト同時ニ保險證券ニ使用スル船積モ亦通常ノ程度ノモノニ限ラルルモノニシテ通常ノ船積ノ短距離ノモノナルニ拘ラス特種ノ目的ヲ以テ數哩ノ長キ距離ヲ航行スル船積ノ如キハ之ヲ包含スルコトナシ

船積人夫ト特約ヲ爲シ通常ノ船積備使ノ條件ヲ變更シ爲メニ重要ナル事項ヲ構成スルニ至リタル場合ニ於テハ其ノ旨契約締結ノ時ニ於テ保險者ニ告知スルヲ要ス、若シ之ヲ告知セサルニ於テハ不告知 (concealment) ニ依リテ保險契約ヲ無効ト爲スニ至ルヘキナリ、右ニ關スル重要ナル事件ハ、*Tate v. Hylop* 1885 事件ナリ、本件ニ於テハ保險契約ハ船舶往復ノ船積危險ヲ包含シタリシカ陸揚スルニ當リ船積ニ於テ損害ヲ發生セリ、然ルニ被保險者ト船積人夫トノ契約ニ依レハ損害發生シタルトキハ船積人夫ハ之カ損害賠償ノ義務ヲ負ハサルコトヲ條件トシテ船積料ヲ低廉ナラシメタリ、而モ斯ノ如キ特約アルニ拘ラス之ヲ保險者ニ告知セザリキ該特約ノ結果ハ保險者ハ保險金ヲ支拂フモ被保險者ノ名ニ於テ船積人夫ニ對シ賠償ヲ求ムル權利ヲ失フコトトナル、以上ノ如キ場合ニ於テ其ノ特約ヲ保險者ニ告知セサルハ重要ナル事項ノ不告知ニシテ保險契約ヲ無効ナラシムルモノナリト判決セリ

尙船積ヲ使用スルハ必スヤ保險ヲ付シタル航海ヲ現實ニ終了スル場合ナルヲ要シ新ニ航海ヲ始ムル場合ニアラサルヲ要ス、新ナル航海トハ例ハ輸出船舶ニ積

荷ヲ積換フル爲メ解舟ヲ使用スル場合ノ如シ此ノ場合ニ於テ解舟内ニ積入ルルハ則チ被保險者カ解釋的引渡ヲ爲シタルモノニシテ保險契約ヲ終了セシムルニ至ルモノナルカ故ニ解舟積込後ニ生スル損害ニ付テハ之カ填補ヲ求ムルコトヲ得サルナリ(Houlder v. Merchant's Marine Insurance Co., 1886)

第九

“Upon any kind of goods and Merchandise, and also upon the body, tackle, apparel, ordnance, munition, artillery, boat and other furniture of and in the good ship or vessel called the……”

「貨物商品ニ對シ及」^天「ト稱スル善良ナル船舶ノ船體綱具船具銃器火藥砲」^ボ「ト其ノ他ノ船用什器ニ對シ……」

右ニ記載シタル古キ用語ハ船舶及積荷カ一般ニ同一人ニ要スル場合ニ使用セラレタルモノナリシモ近代ノ要求ニ適合セムカ爲メ保險證券中評價(valuation)ヲ記入スヘキ空欄ノ個所ニ保險ノ目的(subject matter)ヲ記載スルヲ通常ト爲スニ至レリ其ノ保險證券ニ記入シタル細目カ保險契約中印刷ニ付シタル用語ニ優ルモノナルコト曩ニ述ヘタル所ナリ

第十 船舶ノ名稱(Name of vessel)

船舶ノ名稱ハ之ヲ記入スルカ爲メ空欄ニ爲サレタル個所ニ記入スルヲ要ス積荷保險ノ一度締結セラレタル後ニ於テハ保險者ノ承諾アルニ非サレハ積載船舶ハ之ヲ變更スルヲ得ス假令其ノ代船カ曩ノ船舶ヨリ優良ナルモノナル場合ト雖モ亦然リ然レモ最初ノ船舶カ航海中海難ニ遭遇シタル場合ニ於テ船舶ノ安全ノ爲メ又ハ到達港ニ輸送スル便宜ノ爲メ積荷ヲ他ノ船舶ニ積換フル必要アル場合ニ於テハ積換船内ニ積換ヘタル積荷ハ保險者ニ於テ担保ノ責ニ任スルナリ若シ船舶ニシテ喪失セムカ其ノ載貨ノ蒙リタル損害ニ對シ之カ填補ヲ求ムルヲ得ヘキナリ

第十一

“Whereof is Master for this present voyage…… or whosever else shall go for master in the said ship”

「現航海ニ對シテハ」丙野丁郎「カ船長ナルカ又ハ其ノ他何人カ船長トシテ乗船スルニ拘ラス」

本用語ハ事故災害其ノ他ノ事由ニ依リテ最初ノ船長カ指揮權ヲ失ヒタル場合ニ

於テ之ニ代ルヘキ船長ヲ任命シ得ヘキコトヲ規定シタルモノナリ、然レモ「何人カ船長トシテ乗船スルニ拘ラス」ナル用語ニ依リテ例ヘハ最初ヨリ後ノ船長ヲシテ船舶ヲ航行セシムルハ被保險者ノ企圖セサリシ所ナルヲ以テ危険ヲ監視セシムムカ爲メ著名ニシテ且ツ經驗ニ富メル船長ヲ後ノ船長トシ之ヲシテ船舶ヲ指揮セシムヘキ旨ヲ被保險者ヨリ保險者ニ告知スルヲ要セサルナリ

第十二 “or by whatsoever other name or names the said ship or the master the reef is or shall be named or called.”

「船舶ノ名稱又ハ船長ノ氏名ノ如何ニ拘ラス」

本用語ハ船舶ノ名稱又ハ船長ノ氏名ノ綴リ方其ノ他ニ付誤謬ヲ生シ又ハ不正確ヲ來シタル場合ニ付規定ヲ設ケタルモノナリ、斯ノ如キ誤謬ハ保險者カ之ニ依リテ錯誤ニ陥ラサル限り契約ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及スモノニ非ス、然レモ保險者カ之カ爲メニ錯誤ニ陥ルニ於テハ假令善意ニシテ詐偽ナキ場合ト雖モ保險契約ヲ無効ナラシムルモノナリ

第十三 船舶ニ對スル責任ノ始期

本項ニ付テハ曩ニ「港ヨリノ保險」(insurance from a port) 及「港ニ於テ及港ヨリノ保險」(insurance at and from a port) トノ差異ヲ述フルニ當リ既ニ説明シタル所ナリ、

第十四 積荷(及運賃)ニ對スル責任ノ始期

“Beginning the adventure upon the said goods and merchandises from the landing thereof aboard the said ship.”

「貨物及商品ニ對スル危険ハ當該船舶ニ積載シタル時ヨリ始マリ」

特別ノ約款ナキニ於テハ積荷(又ハ運賃)ニ對スル責任ハ直チニ開始セラレ積荷カ船舶ニ積載シタル時ヨリ開始スルニ非ス、尙「船舶往復ノ解舟危険ヲ包含スル」旨ノ約款ヲ挿入スルノ通常ナルハ既ニ述ヘタル所ナリ(會社ノ保險證券ニ在リテハ解舟危険ヲ包含スル旨ノ約款ハ印刷ニ付セラレ居レリ)該約款ノ意義及效果ニ付テハ前述シタル所ノ如シ

第十五 船舶ニ對スル責任ノ終期

“Upon the said ship, etc, until she hath moored at anchor twenty-four hours in good safety.”

「當該船舶ニ在リテハ碇泊後安全ニ二十四時間經過スルマテ」

船舶ノ航海保險ニ在リテハ船舶カ到達港ニ到達シタル後船舶ノ碇泊後安全ニ二十四時間ヲ經過スル迄其ノ效力ヲ繼續スルモノトス、積荷ヲ積載シタル船舶ニ付テハ船舶カ港ニ(at Port)到達シタルコトヲ必要トスルノミナラス二十四時間ノ開始スル以前ニ於テ積荷陸揚ノ爲ニ通常ノ場所ニ碇泊シタルモノナルコトヲ要ス船舶ノ航海保險ニ在リテハ到達後三十日間即チ船舶カ到達シ且ツ安全ニ碇泊シタル時刻ヨリ精密ニ起算シ二十四時間ヲ三十連続シタル期間ニ對シ船舶ヲ擔保スヘキコトヲ約スルコトアリ(Cornfort v. Royal Exchange Assurance 1903) 若シ反對ノ特約ナキニ於テハ三十日間ノ期間ハ二十四時間經過後ニ加算スベキモノトス(Marcan the Marine Insurance Company v. Titherington 1864) 到達後三十日間ニ對シ船舶ヲ保險ニ付スル場合ニ在リテハ二十四時間ナル用語ハ之ヲ削除スルヲ常トス(Cf. Cornfort v. Royal Exchange Assurance, 1903) 何トナレバ前述ノ如ク印稅ヲ賦課セラレルヲ以テナリ、本約款ニ付キ最モ重要ナルハ安全(safe)ノ意義如何ニ在リ、安全トハ絶對且完全ナル安全(absolute and complete safety)ヲ意味スルモノニ非ズ、若シ絶對且完全ナル安全ヲ意味スルモノトセバ安全ニ到達シタリト思惟セラレタル船舶モ些細ノ事故ノ

爲メ填補ヲ受クルコト能ハザルニ至ルベシ、又船舶ハ沈没スルガ如キ状態ナラザルコト及二十四時間ノ間人爲的ニ浮揚シタルモノナラザルコトヲ要ス (Shaw v. Felton 1881) 然レモ船舶ハ物理的ニ安全ナラザルベカラズ、換言スレバ船舶ハ其ノ積載貨物ヲ安全ニ陸揚スルコトヲ得ベキ狀況ニ在リ且到達港ニ於テ通常爲スベキ業務ヲ一般ニ爲スコトヲ得ベキ狀況ニ在ルコトヲ要スルナリ

以上述べタル安全ニ付テハ有名ナル訴件 Talgett v. Seacraft 1870 ヲ引照スルヲ得ベシ、即チ Charlemagne 號ナル船舶ハ London 中 Calcutta マデ尙ホ到達後三十日間ノ保險ニ付セラレタリシガ Hooghly 川ニ入ルニ及ビ河岸ニ衝突シ操舵要具 (steering gear) ニ故障ヲ生シ船尾區劃 (after compartment) ニハ河水進入シ船舶ヲ浮揚セシメムガ爲ニハ絶ヘズ「ポンプ」ヲ以テ排水スルヲ要シタリ、斯ノ如キ狀況ニ於テ船舶ハ十月二十八日 Calcutta ニ到達シ適當ニ碇泊シ積荷ノ陸揚ヲ了シタリ、十一月十二日ニ至リ修繕ノ爲メ乾船渠(dry dock)ニ入渠セシガ同所ニ繫留中十二月五日火災ノ爲メ燒失スルニ至レリ、火災ノ起リタルハ船舶ガ船渠ニ入渠後二十三日ヲ經過シタル後ニシテ Calcutta ニ碇泊後三十八日ニ當レリ、問題ハ往航ノ保險契約ニ於テ三十日ハ損

害發生前終了シタリヤ否ヤニ在リ、裁判所ハ判決シテ曰ク船長ハ假令其ノ自由ヲ失ヒタルモ船長ノ盡力ニヨリテ浮泛シ積荷ノ陸揚ノ爲メ通常ノ場所ニ碇泊シテ其ノ積荷ヲ陸揚シタルモノニシテ且ツ三十日ノ期間ヲ經過スル迄船主ノ占有ト支配トニ屬シタルモノナルヲ以テ本件保險契約ハ其ノ責任ヲ終了シタルモノナリト

港内保險契約(Port Policy)ノ責任ハ其ノ特定シタル終期ニ於テ終了スルヲ通常トス、然レトモ若シ特定ノ終期ノ到達前ニ於テ船舶ハ艤装ヲ爲シ航海ノ準備ヲ爲シ以テ其ノ航海ヲ開始スルニ於テハ港内保險契約ハ直チニ其ノ效力ヲ失フモノトス、航海ノ開始ハ港内碇泊ノ終了トハ之ヲ區別スベキモノニシテ現實ノ繫船装置(Mooring)ヲ解除スル行爲ヲ爲スニ當リ如何ナル意思ヲ以テ爲シタルヤニヨリテ決セラルモノニシテ其ノ繫船場ニ船舶ガ歸還スル意思アリシヤ否ヤヲ問ハザルナリ、若シ船舶ガ航海ヲ爲ス意思ヲ以テ繫船場ヲ離ルルニ於テハ假令船舶ガ現實ニ港内ニ在ルコトアルモ港内保險契約ノ責任ハ茲ニ終了スルモノトス

第十六 積荷(及運賃)ニ對スル責任ノ終期

“And upon the goods and merchandises until the same be there discharged and safely landed.”

「貨物及商品ニ在リテハ到達港ニ於テ荷卸ヲ了シ安全ニ陸揚セラルベキトキマデ」

積荷(及運賃)ニ對スル責任ノ終期ハ特約ナキ限り積荷ガ「安全ニ陸揚」セラレタル時トス、若シ取引ノ慣習上積荷ノ陸揚ガ舢舨ニヨリテ爲サルトキハ保險契約ハ積荷ノ舢舨ノ積載中ノ危険ヲ擔保スルモノナルハ前述シタル所ノ如シ

第十七 寄航及碇泊 (Touch and Stay)

“And it shall be lawful for the said ship, etc., in this voyage to proceed and sail to and touch and stay at any ports or places whatsoever without prejudice to this insurance.”

「當該船舶ハ此航海中此保險ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナクシテ途中一切ノ港津若ハ場所ニ正當ニ航行シ、寄航シ、且ツ碇泊スルコトヲ得ルモノトス」
寄航及碇泊ノ自由ハ一見廣汎ノ如シト雖モ制限ナキニ非、寄港及碇泊ノ自由ト云フモ之ヲ以テ航路變更ノ許容セラルル場合ト看做スヲ得ス寄航港ハ保險ニ付シタル航海ノ通常ノ航路ニ於ケルモノナラザルベカラズ其ノ寄港ヲ爲スハ航海

ニ關シ正當ナル目的ヲ有スル場合ナラザルベカラズ、之レ曩ニ保險ニ付シタル航海(voyage insured)ニ付既ニ説明ヲ了シタル所ナリ

第十八 評價 (valuation)

“The said ship, etc, Goods and merchandises, etc, for so much as concerns the assured, by agreement between the assured and assurers, are and shall be valued at……”

「保險者ト被保險者トノ間ニ契約シタル保險者ノ被保險利益ヲ有スル船舶貨物商品並其ノ保險價額ハ左ノ如シ」

右ノ約款ノ空欄ニハ評價(valuation)ヲ記入スルモノトス、被保險者及保險者ガ一度保險價額ヲ定メタル場合ニ於テハ詐欺又ハ善意ノ錯誤ナルコトノ明瞭ナル證明アラザル限り當事者間ニ於テハ絶對的ノ效力ヲ有ス

前述シタル如ク本空欄ニハ船舶、積荷、運賃、金塊、希望利益又ハ手数料等ノ保險ノ目的ヲ記載スルヲ通常トス

豫定(open)又ハ船名未詳(floating)保險ニ非ザル保險ニシテ保險價額ヲ協定セザルモノハ現今甚ダ稀有ニ屬ス、而シテ保險證券ニ通常使用セラルル用語ハ左ニ記ス所

ノ如シ

積荷又ハ船體其ノ他ノ保險價額ハ保險金額ト同額トス (on (Goods or Hull, etc), so valued) 又ハ此等ノ保險價額……磅トス (valued at ……)

以上ノ如キ用語ヲ以テ保險價額ヲ記載セザル場合ニ於テハ保險價額ハ豫定(open)ナルモノト看做サレ反對ノ證明ナキ限り判例ニ依リ及海上保險法第十六條ニ依リ定メラレタル額ヲ以テ保險價額ト看做スベキモノトス

海上保險法第十六條ハ左ノ如シ

保險證券ニ明示ノ特約ヲ爲シ又ハ保險價額ヲ定メタル場合ヲ除キ保險ノ目的ノ價額ハ左ノ如ク之ヲ定ム

- 一 船舶ノ保險ニ付テハ責任ノ始マル時ニ於ケル船舶ノ價額(艙裝用具、高等海員及通常海員ノ爲メニ使用スル食料品及貯藏品、船員ノ給料ニ對スル前渡金、保險證券ヲ以テ引受ケタル航海、又ハ冒險ニ對シ堪航ナラシムル爲メニ支出シタル其他ノ艙裝費用若シアラバ)ヲ含ム、並以上全體ニ對スル保險ニ關スル費用ヲ以テ保險價額トス

保險價額ハ汽船ノ場合ニ於テハ若シ被保險者ノ所有ニ屬スルモノナルトキハ汽機、汽罐、石炭、汽罐用貯藏品ヲモ亦之ヲ包含シ特殊ノ商業ニ從事スル船舶ナルトキハ之ニ要スル通常ノ艤裝品ヲ包含ス

二 運賃ノ保險ニ付テハ前拂タルト否トヲ問ハズ被保險者ノ危險ニ屬スル運賃ノ總額並ニ保險ニ關スル費用ヲ以テ保險價額トス

三 貨物又ハ商品保險ニ付テハ被保險財産ノ原價、船積ニ關スル費用並以上全體ニ對スル保險ニ關スル費用ヲ以テ保險價額トス

四 其ノ他ノ目的物ノ保險ニ付テハ保險契約成立ノ時ニ於テ被保險者ノ危險ニ屬スル價額並保險ニ關スル費用ヲ以テ保險價額トス

價額不確定保險ノ一例ハ綿絲百袋此ノ保險價額千磅ト記載スベキヲ百袋ノ保險價額ヲ記載セザル場合ノ如シ、價額不確定保險ノ場合ニ於テ積荷ガ全損トナリタル時ハ希望利益(通常一割、一割五分又ハ商人ガ通常豫期シテ保險ニ付スル割合)ハ保險價額ニ加算セラレザルモノナルハ最モ注意ヲ要スル所ナリ

第十九 危險 (Peril)

“Touching the adventure and perils which we the assurers are contented to bear and do take up on us in this voyage, they are of…….”

「此航海中我々保險者ニ於テ擔保スル危險ハ……」

本用語ノ空欄ニハ保險者ノ引受クヘキ危險ヲ列記ス、其ノ危險ニヨリテ生スル損害ハ之ヲ二種ニ區別スルコトヲ得ヘシ

甲 全損 (Total loss)

乙 海損 (Average)

此等ノ分類ニ付テハ後章ニ研究スルコトトシ茲ニハ保險證券ニ列舉シタル危險ニ付述フル所アルヘシ

一 海上固有ノ危險 (“Perils of the seas”)

本用語ノ定義ニ付テハ Xantho 事件ニ付 Herschell 卿ノ爲シタル言ヲ引照スルニ同卿ハ曰ク「海上固有ノ危險 (Peril of the sea) トハ、保險ノ目的ニ付海上ニ於テ生スルコトアルヘキ一切ノ事故ヲ謂フニ非ス、海上固有ノ危險ハ海上ノ危險 (Peril of the sea) ナラザルヘカラス、而モ本用語ニ依リテ擔保セラルル海ヲ直接原因トスル一切ノ損

害ニ非サルハ既ニ確定セラレタル所ナリ、故ニ例ヘハ風波ノ自然的ニシテ且避クヘカラサル作用即自然ノ消耗(wear and tear)ニ依ル損害ハ之ヲ擔保セス其ノ之ニ依リテ擔保セララルカ爲ニハ航海ニ必然的ニ附隨スルモノト認ムルコト能ハサル事故ナラサルヘカラス、其契約ハ其ノ必然的ニ發生スヘキ事故ニ因リテ生スル損害ヲ擔保スルニ非スシテ偶然ニ生スルコトアルヘキ事故ニ因リテ生スル損害ヲ擔保スルニアリト

二 火災 (Fire)

火災ハ被保險者ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リテ生シタルモノナラサル限リ保險者ハ之ニ依リテ生シタル損害ヲ填補スル責ニ任ス、運賃保險ニ在リテハ被保險者ハ火災ニ依リテ生シタル損害ノ填補ヲ受ケムカ爲メニハ現實ノ燃燒アルコトヲ必要トセス、火災ノ危険アル状態ノ存在スルヲ以テ足ルト雖モ單ニ火災ノ虞レアルノミヲ以テハ未タ其ノ損害ノ填補ヲ受クルヲ得ス、之レ Knight of St. Michael 1897 事件ニ於テ決定セラレタル所ナリ、同事件ニ依レハ搭載シタル石炭カ甚タシク加熱セラレタルヲ以テ之レヲ陸揚ノ上避難港ニ於テ其ノ一部ヲ賣却スルヲ必要トセ

リ、被告保險者ハ船積當時積荷ノ危険ナル状態ニ在リタルコトヲ以テ抗辯トナシ其ノ支拂ヲ拒絶シタリ、Burns 判事ハ判決シテ曰ク「其ノ賣却シタル石炭ニ對スル運賃保險契約ニ基キカ填補ヲ求ムルコトヲ得ヘシ、蓋シ該損害ハ火災ニ依ル損害ニ非サレトモ火災ト同一種類ノ危険ニ因ル損害 (loss ejusdem generis) ニシテ「其ノ他一切ノ危険損失又ハ不幸 (all other perils losses and misfortunes)」ナル一般の用語中ニ包含セララルヲ以テナリト同氏ハ其ノ判決中ニ述ヘテ曰ク火災アルヘシトノ恐怖ノ結果採リタル手段ニ依リテ生シタル損害ニシテ火災ヲ避ケムカ爲メニ爲サレタルモノニ非サルモノハ通常ノ海上保險證券ノ能ク擔保スル所ニ非サルハ幾多ノ判例ノ示ス所ナリ、若シ幾分ニテモ現實ニ火災ヲ惹起シ當該損害カ其ノ結果ヲ避クルカ爲メニ生シタルモノナルトキハ原告ハ被告ニ對シ直接カ填補ヲ求ムルコトヲ得ヘキハ論ナキ所ナリ、然レトモ本件ニ於テハ火災ハ現實發生シタルモノナラサレトモ火災ノ危険アル状態ニ在リ、火災ノ虞アルノミニハ非サルナリ、本件ハ特殊ノ場合ニシテ其ノ他ノ危険ニ類似シタルモノニ非ス、其ノ危険ハ現實ニ存在スルモノニシテ若シ何等カノ手段ヲ採ラサルニ於テハ自然發火シ火

災ハ當然惹起スルニ至ルヘキナリト

三 軍艦對敵行爲 (Men of war, enemies)

本用語ハ對敵行爲ニ依リテ生スル一切ノ損害又ハ損失ヲ包含ス、海上ニ於ケル對敵行爲ノ最モ通常ナルハ捕獲 (Capture) ナリ、戰時ニ於テ英國戰艦カ敵財產ヲ捕獲スル危險ヲ擔保スル英國保險證券ノ無効ナルハ前述シタル所ノ如シ

四 海 賊 (pirates, rovers)

本用語ハ政府又ハ國家ヨリ掠奪スルコトヲ得ルノ權限ヲ付與セラレタルニ非スシテ兇賊カ自己ノ私ノ目的ノ爲メニ爲シタル掠奪ニ依リテ生スル損害ヲ擔保スルモノナリ、然レトモ海賊 (Pirate) ナル用語ハ單ニ海上ニ於ケル掠奪者ノミヲ意味スルモノニ非スシテ暴動ヲ爲ス乗客及海岸ヨリ船舶ヲ攻撃スル暴民ヲ包含ス(海上保險法第一附屬表八號參照)例ヘハ愛蘭ニ於ケル穀物暴民カ饑饉ノ時ニ當リ穀物ヲ搭載セル船舶ノ海岸ニ在ルヲ占有シ同船ヲ岩礁ニ乗上ケシメ船長ヲシテ積載穀物ヲ廉價ニ賣却セシメタル如キハ即チ海賊ニ外ナラスト判決セラレタリ(Casebit v. Lushington 1792) Rover ナル用語ハ海賊 (Pirate) ト同意義ヲ有スルモノノ如シ

五 強 盜 ("Thieves")

保險契約ハ暴力ヲ以テ爲シタル盜ニ依リテ生スル損害ノミヲ擔保シ特約ナキ限リ船員タルト旅客ナルトヲ問ハス乗組員ノ爲シタル竊盜 (Larceny) ニ依ル損害ヲ擔保セス(海上保險法第一附屬表第九號參照)

六 投 荷 ("Jettisons")

投荷トハ危險ニ際シ船足ヲ輕カラシムカ爲メ又ハ船舶ヲ救助セム爲メ積荷ヲ投棄シ又ハ櫓 (mast) 圓材 (spars) 索具 (rigging) 又ハ帆 (sail) ヲ切斷シテ之ヲ漂流スルヲ云フ

投荷セラレタル積荷ハ所有者ノ財產ニ屬ス、故ニ投荷セラレタル物カ救助セラレ拾得セラレ、又ハ回復セラレタル場合ニ於テハ所有者ハ救助料ヲ支拂ヒテ之カ引渡ヲ請求スルヲ得ヘシ

然レトモ隠レタル瑕疵アルニ依リテ積荷ヲ投荷シタル場合ニ於テハ保險契約ハ之ヲ擔保スルコトナシ、例ヘハ航海延引シタルカ爲メ腐敗スルニ至リタル果物ヲ投荷シ又ハ不適當ノ狀態ニ於テ積載セラレタル麻カ之カ爲メニ熱ヲ生ジ危險ノ

虞アルカ爲メ投荷スル場合ノ如シ又投荷セラレタル積荷カ不安全ノ場所ニ不當ニ船積セラレタルモノナルトキハ之カ填補ヲ請求スルコトヲ得ス、例ヘハ「ロイド」ノ慣習ニ依レハ「水桶ニシテ甲板積ナルトキハ保險者ハ之カ損害ヲ擔保セス、索曳 (wires) 其ノ他ノ器具ニシテ甲板積ナルトキ亦同シ」ナル旨ヲ定メ居レリ

然レトモ保險證券カ甲板荷ヲ擔保スル旨ヲ記載シタル場合又ハ積荷ノ性質上例ヘハ石炭酸甲板ニ積載スルヲ適當トスルモノニ在リテハ之カ投荷ニ依ル損害ハ反對ノ特約ヲ以テ之ヲ除外スルニ非サル限り之カ填補ヲ求ムルコトヲ得ヘキハ勿論ナリ (Cf. *Apolinaris Co. v. Nord Deutsche Insurance Co.*, 1903)

七 捕獲免許狀及報復捕獲免許狀 ("Letters of mart and countermart")

捕獲免許狀 (Letter of mart or marque) トハ自國民カ敵ヨリ加ヘラレタル損害ニ付敵船ニ對シ報復手段ヲ取り得ルコトヲ自國國家ヨリ許可セラレタルヲ云ヒ報復捕獲免許狀トハ捕獲免許狀ニ對立スルモノニシテ捕獲免許狀ヲ有スルモノニ對抗シ且ツ復仇スルコトヲ許可セラレタルモノヲ云フ

八 奪掠及拿捕 ("Surprise and takings at sea")

本用語ハ捕獲ト同意義ナルヲ以テ別ニ説明ヲ要セス

九 如何ナル國民狀況又ハ性質ナルヲ論セス、官ノ處分ニ依ル押

收 (Arrest, Restraint and Detainment of all Kings, Princes and People of what nation, condition or quality soever.)

本用語ハ政治上及行政上ノ行爲ヲ意味シ暴民又ハ通常訴訟手續ニ依リテ生スル損害ヲ包含セス、尙ホ本用語ハ戰鬪行爲ニ限ラルルモノニ非ス、例ヘハ家畜ノ傳染病ニ罹レルカ爲メ陸揚ヲ州法ヲ以テ禁止シタルカ爲メニ生スル損害ハ本用語ニヨリテ擔保セララルルカ如シ (Miller v. Law Accident Insurance Society, Ltd., 1903)

Rodocanachi v. Elliott 1874 事件ニ於テ Brett 判事ハ定義シテ曰ク「強留 (Arrest) トハ終局ニハ所有者ニ返還スル意思ヲ以テ保留スルヲ云ヒ、抑止 (Restraint) トハ積荷ノ移動ヲ防止スルヲ云フ」ト、然レトモ Arrest, Restraint, 及 Detainment ノ三者ノ間ニ意義上ノ區別ヲ設クルハ困難ナリ、畢竟此等ハ同一意義ヲ有スルモノニシテ Arrest ハ Restraint ニシテ Restraint ハ Detainment ニ外ナラサルナリ

十 船長及海員ノ不正行爲 ("Bartrary of the muster and mariners")

船長及海員ノ不正行爲トハ船長又ハ乗組員ノ故意ニ爲シタル不正行爲ニシテ船主又ハ傭船者ニ損害ヲ及ホスヘキモノヲ包含ス(海上保險法第一附屬表第十一號參照)

不正行爲タルガ爲メニハ船主ノ同意ナクシテ爲サレタルモノナラサルヘカラス不正行爲ノ一例ハ不正ニ船底ニ穿穴スルコト、故意ニ坐礁セシムルコト、船舶ニ火ヲ放ツコト、船舶及積荷ヲ詐リテ賣却シ其ノ賣得金ヲ私消スルコト等之レナリ

十一 其他一切ノ危険("All other perils")

"And of all other perils, losses and misfortunes that have or shall come to the hurt, detriment or damage of the said goods and merchandise and ship, etc."

「其ノ他當該貨物、商品及船舶等ニ對シ又ハ此等ノモノノ一部ニ對シ、損傷、傷害又ハ損害ヲ來スヘキ一切ノ危険、損失及不幸トス」

以上ノ用語ハ原因ノ如何ヲ問ハス一切ノ損害ヲ包含スルカ如ク見ユルモ實ハ然ラス、保險證券ノ所謂「一切ノ危険、損失及不幸」トハ既ニ例擧シタル危険ト同一性質(jusdem generis)ノ危険及損失ヲ指稱スルモノナリ(海上保險法第一附屬表第十二號

參照)

第十二 損害防止約款(Sue and Labour Clause)

"And in case of any loss or misfortune it shall be lawful to the assured, their factors, servants, and assigns to sue, labour and travel for, in and about the defence, safeguard and recovery of the said goods and merchandises and ship etc, or any part thereof without prejudice to this insurance; the charges where of we, the assureds, will contribute each one according to the rate and quantity of the sum here in assured."

「當該貨物ニ損失又ハ事故發生シタル場合ニ於テハ被保險者其ノ代理人、使用人又ハ保險ノ目的ノ讓受人ハ其ノ損害ヲ輕減シ防止シ、回復スルニ盡力スヘキモノニシテ是カ爲メニ本保險契約ノ效力ヲ妨ケラレサルヘク各保險者ハ自己ノ引受ケタル保險金額ノ割合ニ應シ其ノ費用ヲ負擔スヘキモノトス」

本約款ハ有名ナル約款ニシテ屢引照セララル所ナリ、而モ保險契約ノ附隨的性質ヲ有シ保險契約トハ別個ノモノニ屬ス被保險者ハ保險ノ目的ニ對スル損害ヲ輕減セムカ爲メ盡力シ又ハ之レカ手段ヲ講スルヲ許容セラルト雖モ元來被保險者

ハ出來得ル限リ被保險財産ノ損害ヲ防止シ又ハ其ノ發生シタル損害ヲ輕減スルノ義務ヲ有スルコト換言スレハ被保險財産ハ無保險トシテ取扱フヘキモノナルコトハ常ニ注意ヲ要スル所ナリ(海上保險法第七十四條被保險者又ハ代理人カ此ノ目的ヲ以テ以上ノ行爲ヲ爲シタル場合ニ於テハ各保險者ハ本約款ニ依リテ其ノ正當ニ支出セラレタル費用ヲ自己ノ割合ニ應シ支拂フヘキコトヲ約スルモノトス、而シテ本約款ハ保險者カ保險契約上填補ノ責ニ任シタル船舶ニ對シ之ヲ防止シ又ハ輕減スル目的ヲ以テ支出シタル費用ナルコトヲ條件ト爲セリ (Booth v. Gair 1863) 故ニ例ヘハ全損ノミ擔保ノ場合ニ於テ海水ノ侵入其ノ他分擔トナルヘキ危險ニ因リテ生スル損害ヲ輕減セムカ爲メ費用ヲ支出シタル場合ニ於テハ其ノ支出シタル費用ハ之カ填補ヲ請求スルヲ得ス、何ントナレハ當該危險ハ分損トナルヘキ危險ニシテ保險契約ノ擔保セサル所ナレハナリ

船長ハ災害發生シタル場合ニ於テハ船主及貨主ノ双方ノ代理人ト爲ルト雖モ特定ノ被保險物件ニ付之カ損害ヲ輕減セムトスル場合ニ在リテハ必スヤ慎重ノ所爲ニ出ツルコトヲ要シ若シ出來得ヘクハ船長ノ非常手段ヲ取ル以前ニ於テ被

保險財産ノ所有者ニ其ノ旨ヲ通知スルコトヲ要スルナリ、例ヘハ船舶ノ避難港ニ到達シタルトキ積荷又ハ船舶ヲ賣却スル場合ノ如シ、現時ニ於テハ電信アリ急速ノ郵便アルカ故ニ船長ハ如何ナル場合ニ於テモ被保險財産ノ所有者ニ通知スルヲ得ヘシト雖モ電信ノ發明ナキ舊時ニ於テハ其ノ之レヲ通知スルハ決シテ容易ノ業ニ非サリシナリ、損害防止ニ盡力スヘキ義務ヲ有スルモノハ被保險者、其ノ代理人、使用人及保險ノ目的ノ讓受人 ("assured, their factors, servants and assigns") ナリ、故ニ本約款ニ依リテ擔保セラルル費用ハ必スヤ被保險者其ノ代理人、使用人、及保險ノ目的ノ讓受人ノ支出シタルモノナラサルヘカラス (Uzielli v. Boston Marine Ins. Co., 1884) 共同海損及救助料ハ損害防止約款ニ依リテ擔保セラルモノニ非スト、 Atkinson v. Lohre 1879 事件ニ於テ Blackburn 卿カ上院ニ於テ述ヘタル所ナリ共同海損及救助料ニ付テハ後ニ説明スヘシ

損害防止ニ要シタル費用ハ合理的ニ且慎重ニ支出セラレタル場合ニ限リ保險者ニ於テ之カ填補ノ責ニ任ス其ノ一例トシテ Lee v. Southern Ins. Co., 1870 事件ヲ引照スルニ即チ運賃保險ヲ付シタルニ船舶ハ坐礁スルニ至リタルヲ以テ積荷ヲ陸揚

シ鐵路之ヲ到達地ニ輸送シ船主ハ之レニ依リテ自己ノ運賃ヲ取得スルヲ得タリ同船ハ爾後浮揚スルニ至リシカ浮揚船舶ヲ以テ該積荷ヲ運送シタラムニハ鐵路ヲ以テ輸送セシニ對比シ更ニ經濟的ナルヲ得タリシナリ、以上ノ如キ場合ニ於テ裁判所ハ若シ積荷カー層低廉ニ而モ合理的且慎重ナル方法ニ依リテ運送セラレタリシナラムニハ支出シタルヘカリシ現實ノ費用ニ限り運賃保險者ニ於テ填補ノ責ニ任スヘキモノナリト判決セリ

損害防止約款ヲ以テ擔保シタル費用ニ付テハ保險者ハ自己ノ引受ケタル保險金額ノ總保險價額ニ對スル割合ヲ以テ之カ填補ノ責ニ任スヘキモノトス、故ニ全部保險ノ場合ニ於テハ保險者ハ損害防止費用ノ全額ヲ支拂フ責ニ任ス

第二十一條 拋棄約款 (Waiver Clause)

“And it is especially declared and agreed that no acts of the assurer or assured in recovering, saving or preserving the property insured shall be considered as a waiver or acceptance of abandonment.”

「保險ノ目的ノ損害ヲ回復シ輕減シ防止セムカ爲メ保險者又ハ被保險者カ何等ノ行爲ヲ爲スモ之ヲ以テ委付權ノ拋棄若ハ委付ノ承諾ト看做ササルヘキコト

ヲ特ニ明約ス」

本約款ノ起源ヲ論スルハ本書ノ必要ナル目的ニ非サルヲ以テ茲ニハ其ノ最初數年間ハ別個ノ約款トシテ保險證券ニ附屬セラレタリシモ現時ニ於テハ一切ノ海上保險證券中ニ印刷セラレタル用語タルニ至リタルコトヲ單ニ一言スルニ止ムヘシ

本約款ハ事故發生シタル場合ニ於テ契約當事者即チ被保險者及保險者ハ其ノ權利ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナクシテ損害輕減ノ爲メ損害防止約款ニ依リテ與ヘラレタル手段ヲ採リ又ハ費用ヲ支出スルヲ得ヘキ旨ヲ規定スルニ止マルモノトス

第二十四條 約 因 (Consideration)

“And so we, the assurers, are contented and do hereby promise and bind ourselves, each one for his own part, our heirs, executors, administrators and assigns to the assured, their executors, administrators and assigns for the true performance of the premises, confessing ourselves paid the consideration due unto us for this assurance by the assured at and after the rate of…….”

「各保險者ハ被保險者其ノ遺言執行者遺產管理人及讓受人ニ對シ其ノ契約ノ真正ノ履行ノ責ニ任セシムルカ爲メ各自其ノ引受ケタル部分ニ付自己其ノ相續人遺言執行者並財產ヲ拘束スヘキモノニシテ其ノ報酬トシテ……ノ割合ヲ以テ保險料ヲ徵收シタルコトヲ明約スルモノトス」

本約款ノ末文ニ於テ保險者ハ自己ノ引受ケタル危險ニ對スル報酬タル保險料ヲ現實ニ受領シタルコトヲ承認シ居レリ然レトモ實際上ニ於テハ保險料ハ例外ノ場合ヲ除キ契約當時支拂ハルルモノニ非スシテ時トシテハ保險證券ヲ發行シタル翌月八日ニ支拂ハルルヲ通常トセリ本約款ニ於テ保險料受領ノ承認ヲ記載スルハ損害發生ノ場合ニ於テ保險者ニ對スル約因タル保險料ノ支拂ニ付保險者ヲシテ問題ヲ生スルコトナカラシメムカ爲メナリ例ヘハ被保險者カ自己ノ爲メニ契約ヲ締結セシムルカ爲メ雇使シタル取次人ニ對シ保險料ヲ引渡シタル後取次人カ保險者ニ支拂ヲ了スル以前ニ於テ取次人破産シタル場合ニ於テ損害發生スルニ至リタルトキハ保險者ハ保險料未拂ニ對シ相殺ヲ主張スルコトナク損害ノ全額ニ付被保險者ニ支拂フコトヲ要スルナリ (Cf. *Legge v. Byas Mosley and Co.*, 1901)

Universal Insurance Co. of Milan v. Merchants' Marine Insurance Co., 1896)

第廿五^七 免責歩合 (Memorandum)

保險證券ノ末文ニ記載シタル「穀物、魚類、鹽等」ニ對スル免責歩合ハ一七四九年保險證券中ニ挿入セラルルニ至リタルモノナリ、本約款ハ單獨海損 (Particular Average) ニ關スルカキリ保險者ノ責任ヲ制限シタルモノナリ、後章ニ説明スヘシ(第六章參照)

第五十四^六 捕獲及拿捕不擔保約款 (E. C. S. Clause)

捕獲 (Capture) 拿捕 (Seizure) 抑留 (Detention) 及戰爭危險 (Risk of war) 又ハ戰爭類似ノ危險 (misk of warlike operation) ハ海上保險契約上之カ填補ヲ除外スルハ往々行ハルル所ニシテ殊ニ戰時ニ於テ然リトス、之レ所謂捕獲拿捕不擔保約款 (E. C. and S. Clause) ヲ挿入スルニ依リテ行ハルル所ナリ、本約款ニハ多數ノ種類アリ、左ニ「ロイド」ノ様式ヲ舉クレハ

“Warranted free of capture, seizure and detention, and the consequence thereof, or any attempt thereat, piracy excepted, and also from all consequences of hostilities or warlike operations, whether

before or after declaration of war.”

「捕獲、拿捕抑留其ノ他以上ニ基ク損害又ハ此等ヲ目的トスル行爲ヨリ生シタル損害ハ保險者其ノ責ニ任セス、但シ海賊ハ此ノ限ニ非ス、尙戰爭及之ニ類似スル行爲ニ基ク一切ノ損害ハ其ノ宣戰布告ノ前後ヲ問ハス保險者其ノ責ニ任セス」本約款ハ保險證券本來ノ文言中ニハ之レヲ記載スルコトナク特別約款又ハ追加(special clause or rider)トシテ保險證券ニ付加セラレタル所ニシテ而モ實際上日常使用セラレ來リタル所ナリ、本約款ハ單ニ捕獲拿捕等ヲ除外スルノ積極的目的ヲ有スルニ過キスト雖モ多年ノ間保險證券ノ欄外ニ印刷セラレ來リタル所ニシテ其ノ保險證券中ニ列舉セラレタル拿捕(takings at sea)強留(arrest)抑止(restraint)差押(detainment)等ノ危険ハ本約款アルニ依リテ之レカ擔保ヲ免ルルニ至ルモノトス、尙本約款ハ之ヲ削除セサルニ於テハ之ト牴觸スルモノハ保險證券ノ本文ニ記載セラレタル一切ノ用語ニ優ルモノナルハ注意ヲ要スル所ナリ、例ヘハ前例ニ於テモ強留(restraint)抑止(restraint)及差押(detainment)等ノ危険ニ優先シテ之ヲ除外スルカ如シ(Robinson Gold Mining Co. v. Alliance Marine and General Ass. Co., Ltd. 1904) 保險者カ擔保ノ

責ヲ除外シタル捕獲 (Capture) ナル用語ハ必シモ戰爭ノ結果タル行爲タルヲ必要トセス、捕獲タル以上ハ如何ナル種類ノ捕獲ナルモ皆本約款ニ包含セラレルモノトス (Cf. Cory v. Burr 1883) 捕獲行爲カ適法ニ爲サレタリヤ不適法ニ爲サレタリヤヲ問ハス又暴動ヲ爲ス乗客ニ依リテ爲サレタリヤ國家ノ權力ヲ有スル人ニ依リテ爲サレタリヤヲ問ハス保險者ニ於テ擔保ノ責ニ任セサルナリ、通常ノ州法 (ordinary municipal law) ニ基ク行爲モ亦本約款ノ不擔保ノ意義ニ包含セラレ保險者ノ責任ヲ除外スルモノトス、例ヘハ傳染ノ虞アル傳染病ニ罹リタル家畜ヲ陸揚スルヲ禁止スルカ如シ (Miller v. Law Accident Ins. Society, Ltd., 1903) 捕獲ノ危険ヲ引受クル保險ニ於テ特ニ注意ヲ要スハ捕獲ノ虞 (fear of capture) アルカ爲メ航海ヲ廢棄 (abandonment of voyage) シタル場合ナリ、此ノ場合ニ於テハ其ノ虞レノ如何ニ合理的ニシテ根據アルモノナリトスルモ被保險者ハ保險契約ニ基キカ填補ヲ求ムルヲ得サルナリ、例ヘハ Nickels v. London and Provincial Marine and General Ins. Co., 1900 事件ノ如シ、本件ニ於テハ Liver Pool ヨリ Cuba マテ米ヲ西班牙船ニ搭載シ單ニ戰爭危険ノミ (War risk only) 即チ保險證券中捕獲拿捕不擔保約款 (War risk only) 第二章 保險證券及其ノ用語

C and S Clause)ヲ以テ除外シタル危険ノミヲ保險ニ付シタリシカ船舶出港シタル後ニ於テ西班牙ト米國トハ茲ニ戰端ヲ開クニ至レリ、船長ハ此ノ事ヲ知ルヤ Liverpoolニ歸港シ積荷ヲ陸揚シ積荷證券ノ條項ニ從ヒ運賃ノ支拂ヲ受ケタリ、即チ積荷證券ノ文言ニ依レバ開戦ノ結果船長カ陸揚港ニ航行スルヲ不適當ト思料スル場合ニ於テハ他ニ便宜ノ港ニ米ヲ陸揚スルヲ得ヘク此ノ場合ニ於テモ運賃總額ハ之ヲ支拂フヘキモノトスト規定セリ、米ノ一部ハ Liverpoolニ於テ貯藏セラレ他ノ一部ハ賣却セラレタリ、此ニ於テカ原告ハ自己ノ支拂ヒタリシ運賃並倉敷料ニ付之カ填補ヲ保險者ニ請求セリ、Mathew判事ハ本件ヲ判決シテ曰ク「本件ノ損害ハ保險證券中ノ戰爭ノ結果生シタルモノニ非スシテ積荷證券ニ於テ船長ニ與ヘタル權限ニ基キ船長ノ爲シタル行爲ニヨリテ生シタルモノナルヲ以テ保險者ハ保險契約上ノ責任ヲ負フコトナシト」

戰爭ニ基ク一切ノ損害 (all consequences of hostilities)ニ付テハ Hatteras Light Case 即チ *Louides v. Universal Marine Insurance Co., 1863* 事件トシテ有名ナル訴件ヲ引照スルヲ得ヘシ、本件ニ於テハ近因主義 (principle of causa proxima)ヲ嚴格ニ適用シタリ、近因主義ノ理

論ハ次章ニ述フヘシ、米國內亂ノ時ニ當リ珈琲六千五百袋ヲ Rhode Janeiro 即チ New York マテ保險ニ附シ「戰爭ニ基ク一切ノ損害ヲ擔保セス」ヲ條件ト爲セリ、Hatteras岬ノ燈臺ハ軍事上ノ目的ノ爲メ南方聯邦同盟軍ニ依リテ消火セラレタリシヲ以テ船長ハ其ノ方向ヲ失ヒ船舶岩礁ニ乘リ揚ケ難破スルニ至レリ、百二十袋ノ珈琲ハ救助者ニ依リテ救助セラレタル後同盟軍ノ爲メ沒收セラレタリ、千袋ハ同盟軍ノ妨害ナカリセハ救助スルコトヲ得タリシモノナリ、其ノ他ノ珈琲ニシテ積載セラレタルハ悉ク全損トナレリ、以上ノ如キ場合ニ於テ裁判所ハ判決シテ曰ク「沒收セラレタル百二十袋ト救助ヲ妨害シタル千袋トハ戰爭ニ基ク損害ニシテ保險契約上之カ擔保ヲ除外スルヲ條件トシタルモノナルヲ以テ保險者ハ該損害ヲ填補スルノ責ニ任セス、但シ殘荷五千三百八十袋ハ海上固有ノ危険 (peril of the sea)ニ基クモノナルヲ以テ保險者ハ之カ損害ヲ填補スルノ責ニ任ス、蓋シ近因ハ船舶ノ坐礁ニシテ燈臺ノ消火ノ通常若ハ必然ノ結果ト認ムルコト能ハサレハナリト」

右ノ判決中 *The* 判事ハ近因主義ノ適用ヲ明快ニ論セラレタルヲ以テ茲ニ之ヲ解説セムニ、船舶カ軍艦ニ追撃セラレ捕獲ヲ免レムカ爲メ坐礁スルニ至リタルトキ、

又ハ碇泊所モナク港モナキ灣内ニ逃竄シタルモ逃場ヲ失ヒ坐礁スルニ至リタルトキハ之レ戦争ニ基ク損害ナリ、然レモ若シ船舶カ敵ノ爲メニ追撃セラレ航路ヲ離レタルカ爲メ滞留ヲ爲シ其ノ結果暴風ニ遇ヒ沈没スルニ至リタル場合ニ於テハ敵ノ追撃ナカリセハ該暴風ニ遭遇スル事ナカリシ場合ト雖モ尙其ノ損害ハ海上固有ノ危険 (Peril of the sea) ニ過キス、尙ホ Erie 判事ノ爲シタル興味アル判決中ノ用語ヲ引照セムニ船舶アリ其ノ到達港ノ入口ニ二海峡ヲ有スル港ニ向ヒタリト假定シ二海峡中ノ一ニハ戦争ノ目的ノ爲メニ水雷ヲ敷設シ他ノ海峡ニハ之ヲ敷設セサル場合ニ於テ船長ハ水雷アルヲ知ラスシテ港内ニ進入シ觸雷ノ結果沈没セリ、之レ戦争行爲ニ依リ直接損害ヲ生シタルモノナルハ勿論ナルモ、船長ハ水雷アルヲ知り他ノ海峡ヲ通過シタルニ惡天候ノ爲メ船舶坐礁シ沈没シタル場合ニ於テハ之レ除外シタル危険ニ非サル危険ニ依ル損害ナリ、何トナレハ天候ニシテ快晴ナリシナラムニハ安全ニ通過スルヲ得タリシヲ以テナリ、斯ノ如キ場合ニ於テハ該損害ハ保險証券中ノ海上固有ノ危険 (Peril of the sea) ニ依ル損害ナリト

第三章 近因 (Causa Proxima)

保險契約ニ基ク各種ノ保險金ノ請求並損害精算ノ方法ヲ説述スルニ先チ海上保險契約上ノ根本原則ニ付明瞭ナル了解ヲ爲スノ必要アリ、根本原則トハ即保險業者カ損害ニ對シ其ノ責ニ任セムカ爲メニハ該損害ハ保險ニ付シタル危険ヲ近接原因トシテ發生シタル者ナル事ヲ要スルニ在リ、近因ヲ見テ遠因ヲ見ルヘカラス (Causa proxima non remota spectatur) ナル有名ナル法律上ノ原則ハ海上保險契約ニ於テ最モ嚴格ニ適用セララル所ナリ、Pink v. Fleming 1890 事件ハ近因問題ニ關スル訴件ナルカ同事件ニ於テ爲シタル Estlin 卿ノ言ヲ茲ニ引照スルモ敢テ徒爾ナラサルヘシ、同卿ハ曰ク「損害發生ノ近因問題ハ其ノ發生原因ノ連續シタル場合ニ於テノミ惹起スル者ナリ、二個ノ原因ヨリ一個ノ結果ヲ惹起シタル場合ニ於テハ假令其ノ結果カ遠因ナクンバ發生セサルヘカリシコト疑ナキ場合ト雖モ海上保險法上ニ於テハ單ニ最モ接近セル原因 (nearest cause) ノミヲ考慮スルヲ要スルナリ」ト、本件ニ於テハ密柑其ノ他ヲ保險ニ付シ他船トノ衝突ニ依ル損害ヲ除ク外分損ハ之ヲ

擔保セサル事ヲ條件ト爲セリ、該船舶ハ航海中衝突ヲ爲シ修繕ノ爲港灣ニ進入セリ、而モ該修繕ヲシテ有效ナラシメムカ爲メニハ積載果物ヲ舢舨ヲ以テ陸揚ヲ爲シ次テ再積込ヲ爲スヲ必要トセリ、積載船カ到達港ニ到達シタル時ニ於テハ果物ノ一部ハ舢舨ニ荷卸ノ際又ハ再積込ノ際ニ於ケル荷役ノ爲又一部ハ果物自體ノ腐敗シ易キ性質ノ結果航海ノ延滞ニ依リテ生シタル自然的腐敗ノ爲積載果物ハ著シク損害ヲ蒙リ居レリ、本件ニ於テ問題ト爲リシハ積載果物ニ生シタル損害ハ保險證券ノ所謂衝突ニ依リテ生シタルモノナリヤ否ヤニ在リ、裁判所ハ該損害ハ擔保ノ責ニ任スヘキモノニ非スト判決セリ、*Escher* 卿ハ曰ク「果物荷役ノ原因ハ必要的修繕ヲ爲スカ爲ニシテ修繕ヲ爲スカ爲メ港内ニ進入シタル原因ハ船舶衝突ニ在ルコト疑ナシト雖モ果物ニ生シタル損害ノ近因 (*proximate loss*) ハ果物ノ荷役ニ在リ、本件ニ於テハ結果ニ對シ三個ノ原因アリシモ英國海上保險法ニ於テハ保險者ノ責任ヲ決定セムカ爲メニハ單ニ最後ノ原因ノミヲ觀察スルヲ要スルナリ」ト *Cory v. Burr* 1882 事件ハ近因主義ヲ嚴格ニ適用シタル判例トシテ興味アルモノナリ、同事件ニ依レハ船舶ヲ通常ノ様式船長及船員ノ不正行爲ヲ含ムニ於ケル期間保

險 (*time policy*) ニ付シ捕獲拿捕及其ノ結果ヲ擔保セサルコトヲ條件トセリ、船長ノ爲シタル密輸入(船長ノ不正行爲)ノ爲メ同船ハ西班牙ノ收入官吏ニ依リテ捕獲セララルニ至レリ、船主カ同船ノ捕獲解除ノ爲メニ支出シタル費用ニ付之カ填補ヲ請求スル保險訴訟ニ於テ裁判所ハ該損害ノ近因ハ捕獲ニシテ船長ノ不正行爲ニ非サルヲ以テ保險者ハ擔保ノ責ニ任セスト判決セリ

日露戰爭ノ際汽船 *Romulus* 號ハ捕獲拿捕不擔保ヲ條件トシテ保險ニ付セラレタリシカ日本巡洋艦ノ爲メ捕獲セラレタリ、捕獲者ノ同船ヲ占有中氷山ニ衝突シ船舶破損シ遂ニ沈没全損ト爲ルニ至レリ、此ノ場合ニ於テハ該損害ハ保險證券ノ所謂捕獲ニ依ル損害ニシテ保險者ハ擔保ノ責ニ任セスト判決セリ、控訴審ニ於テ判事 (*Cozens-Hardy* 氏ハ *Channell* 判事ノ言ヲ引用シテ曰ク「船主ハ捕獲ノ爲メ自己ノ船舶ヲ喪失シ日本捕獲者ハ難破ノ爲メ捕獲物ヲ喪失シタルモノト見ルヲ正當ノ觀察トス」ト (*Anderson v. Marten* 1908)

尙他ノ一例トテ茲ニ掲クヘキハ保險者ハ鼠喰ニ因リテ直接生シタル損害ニ付其ノ責ニ任セサルコト之レナリ、然レモ鼠喰ノ爲メ船舶内ノ浴場ニ通スル小管ニ穴

ヲ生シ爲メニ海水船内ニ侵入シ積荷ニ損害ヲ及ホシタル場合ニ於テハ水管ノ鼠喰ハ損害ノ遠因ニシテ近因ハ海水ニ外ナラス、保險者ハ之カ損害ヲ填補スルノ責ニ任スヘキナリ (Hamilton v. P. andorf 1887)

然ルニ獸皮及煙草カ同一船舶内ニ積込マレ獸皮カ暴風ノ爲メ海水船内ニ侵入シタルニ因リテ腐敗スルニ至リ之カ爲メ煙草ノ香氣ヲ滅殺スルニ至リタル場合ニ於テハ該損害ハ海上固有ノ危険ニ因リテ生シタルモノト看做サルナリ (Montoya v. London Ass. Corporation 1851) 特ニ注意ヲ要スルハ保險者ハ被保險者ノ故意又ハ過失ニ因リテ生シタル損害ニ付其ノ責ニ任セサルコト之レナリ、斯ノ如キ故意又ハ過失ノ存在スル場合ニ於テハ其ノ損害ノ事實カ保險ニ付シタル危険ニ因リテ直接生レタル場合ト雖モ保險者ハ擔保ノ責ニ任セサルナリ

然レモ保險ニ付シタル危険ニ依リテ直接生レタル損害ハ(保險約款ト保險金額ニ從フハ勿論ナリ)保險者ニ於テ之カ填補ヲ爲スヲ要シ其ノ損害カ船長又ハ海員ノ過失アル航海ニ基因スルモノナルト直接ニハ保險ニ付シタルニ非サル其ノ他ノ原因ニ基クモノナルト問ハサルナリ、唯一ノ例外ハ被保險者自身ノ故意又ハ過

失ニ依リテ生スル場合ナルハ前述シタル所ノ如シ(海上保險法第五十五條)故ニ例ヘハ石油ヲ積載シタル船舶カ海員カ不注意ニモ點火セル「マツチ」ヲ遺棄シタルカ爲メニ生シタル火災ニ因リテ損害ヲ蒙リタル場合又ハ過失アル航海ノ爲メ坐礁シタル場合又ハ舵手ノ不注意又ハ錯誤ノ爲メ衝突シタルニ因リテ船舶ニ損害ヲ及ホシタル場合等ニ於テハ保險者ハ之カ損害ヲ擔保スルノ責ニ任スヘキナリ、積荷ノ場合ニ於テハ該損害ハ積荷自體ニ生スル現實ノ損害 (actual damage) ナルヲ要シ邪推的損害 (suspicion of damage) 即チ所謂感情的損害ナルヲ得サルナリ、邪推的損害ハ保險者之カ填補ノ責ニ任セス、假令積荷ノ一部カ正荷ナルモ他ノ積荷カ海難ニ因リテ損害ヲ蒙リタルカ爲メ他ノ積荷ノ損害ナカリシ場合ニ正荷ノ有シタルシ價額ヨリ低廉ニ賣却セラレタル場合ニ於テハ之カ爲メニ生スル正荷ノ損害ハ保險者之ヲ填補スルノ責ニ任セス、之レ *Cator v. Great Western Ins. Co. of New York 1873* 事件ニ於テ判決ヒラレタル所ナリ、同事件ニ依レハ數箱ノ茶カ何等損害ヲ蒙ラザリシモ同一商標ヲ有スル數箱ノ茶カ海難ノ爲メ損害ヲ蒙リタル結果正荷ノ茶モ亦其ノ香氣ヲ失ヒタルヘシト邪推セラレ正荷ノ茶ハ低廉ニ賣却セラレタリ、然レ

凡該邪推ハ何等根據アルモノニ非サル旨立證セラルルニ至リ裁判所ハ正荷ノ茶ニ對スル損害ニ付テハ保險者保險ノ責ニ任セスト判決セリ。

第四章 現實全損及解釋全損 (actual and constructive total loss)

全損ハ之ヲ二種ニ分ツコトヲ得、現實全損及解釋全損之レナリ「全損ノミ」(total loss only)ノ保險ハ保險證券ニ反對ノ特約ナキ限り現實全損及解釋全損ノ二者ヲ包含スルモノトス、現實全損又ハ解釋全損ト爲リタルトキハ保險金ノ總額ヲ支拂フコトヲ要スルナリ

第一節 現實全損 (actual total loss)

現實全損ハ(海上保險法ノ用語ヲ使用スレハ)保險ノ目的カ破壊セラレ又ハ損害ヲ蒙リ保險シタル種類ノ物ナルコトヲ得サルニ至リタルトキ又ハ被保險者カ回復スルコト能ハサル程度ニ於テ保險ノ目的ヲ喪失スルニ至リタルトキニ生ス(海上保險法第五十七條)

保險ニ付シタル危險ニ因リテ絶對的ニ破壊セラレタル場合ノ外積荷ノ種類トシテノ存在ヲ失フニ至リタルトキ又ハ損害ノ結果其ノ種類トシテ到達港ニ到達スルコト能ハサルニ至リタルトキ即積荷カ保險ニ付シタル種類ヲ喪失シタルトキ換言スレハ保險ニ付シタル物ノ效用ヲ失ヒタルトキハ該損害ハ之ヲ現實全損ト看做スヘキモノトス(Asfar v. Iklundell 1895)

右ノ設例トシテ茲ニ有名ナル Roux v. Salvador 1836 事件ヲ引照スルヲ得ヘシ、本件ニ依レハ獸皮ヲ Valparaiso 耶リ Bordeaux マテ保險ニ付シタリシカ航海中船舶暴風ニ遇ヒ船舶ニ漏口ヲ生シ Rio de Janeiro ニ遁竄セリ此場合ニ於テ獸皮ハ海水ノ爲メ甚敷損害ヲ蒙リ爲メニ腐敗シカケタリシカ若シ其ノママBニ輸送セムニハ全部腐敗スルニ至リ獸皮トシテノ價值ナキニ至ルノ情況ナリシナリ、以上ノ如キ場合ニ於テハ其ノ損害ハ現實全損ナリト判決セラレタリ

暴風ノ爲メ海中ニ沈没シ又ハ衝突シタル後沈没シ又ハ船舶失踪シタル場合ノ如キハ之レ船舶積荷及運賃ノ現實全損ノ適例ナリ

全損ノ場合ニ於テ保險金請求ヲ爲スニ當リ最モ必要ナルハ乗組員ノ救助セラレ

タルモノアルトキニ於テ遭難ノ詳細ヲ記載シテ之ニ公證人又ハ領事ノ宣誓ヲ署シタル海難證明書 (proof) ナル書類ナリ、積荷ノ場合ニ於テハ仕切狀 (invoice) 船荷證券 (Bill of lading) ノ如キ之ヲ保險者ニ呈示スルヲ要ス、蓋シ此等ノ書類ハ保險カ善意 (bona fide) ニ爲サレタルコト並現實ニ積載セラレタルモノナルコトヲ立證スルモノナレハナリ、保險證券モ亦之ヲ呈示スルヲ要スルコト勿論ナルモ保險者カ保險金ノ仕拂ヲ確定シタル後或ハ生スルコトアルヘキ救助物件ニ對スル保險者ノ權利ヲ證明スル船荷證券ト共ニ之ヲ保險者ニ呈示スルヲ通常トス

二節 解釋全損 (constructive total loss)

解釋全損ハ保險ノ目的カ現實全損ト爲ルノ避クヘカラサルカ爲メ、又ハ費用支出後ニ於ケル保險ノ目的ノ價額ヲ超過シタル費用ヲ支出スルニ非サレハ現實全損ヲ免ル能ハサルカ爲メ保險ノ目的ヲ正當ニ委付シタル場合ニ於テ生ス左ノ場合ニ於テハ特ニ之ヲ解釋全損トス

一 被保險者カ保險ニ付シタル危險ニ因リテ自己ノ船舶又ハ貨物ノ占有ヲ喪

失シタル場合ニ於テ(イ)被保險者ハ船舶又ハ貨物ヲ回復スルコト能ハサルニ至リタルトキ(ロ)船舶又ハ貨物ヲ回復スルノ費用カ回復後ニ於ケル價額ヲ超過スルニ至リタルトキ

二 船舶ニ對スル損害ノ場合ニ於テハ保險ニ付シタル危險ニ因リテ損害ヲ蒙リタル爲該損害ノ修繕費カ修繕後ニ有スル船價ニ超過スルニ至タルトキ修繕費ヲ計算スル場合ニ於テハ他ノ利害關係者ニ依リテ支拂ハルヘキ共同海損分擔額ハ之ヲ修繕費ヨリ控除セズ但將來ノ救助處分ニ關スル費用及修繕セハ船舶ノ負擔ニ歸スヘキ將來ノ共同海損分擔額ハ之ヲ修繕費中ニ算入ス

三 貨物ニ對スル損害ノ場合ニ於テハ該損害ノ修繕費並到達港マテノ貨物運送費カ到達後ニ於ケル貨物ノ價額ヲ超過スルニ至リタルトキ(海上保險法第六十條)

解釋全損ノ主義ニ關スル一般原則ノ簡單ナル説明トシテ茲ニ Marine 判事ノ用語ヲ引照セムニ「人アリ一志ノ金員ヲ深水中ニ落シタル場合ニ於テ莫大ノ費用ノ支出セハ之ヲ拾得シ得ヘキトキト雖モ該一志ハ之ヲ喪失シタリト云フヲ至當トス」

ト (Moss v. Smith 1845) 該一志ハ尙現存シ居ルヲ以テ之カ代償ヲ拂フニ於テハ之ヲ拾得スルヲ得ヘシト雖モ然モ何人ノ愚人カ一志ヲ拾得スルニ二志ヲ費スモノアラムヤ該一志ハ則チ解釋全損ト謂フヲ得ヘキナリ

損害發生シ解釋全損ヲ構成シタル場合ニ於テ被保險者ハ保險者ニ對シ委付ノ通知 (Notice of abandonment) ヲ爲スハ填補請求權發生ノ停止條件ナリ、然レモ實際上被保險者カ損害ノ通知ヲ受ケタル時ニ於テ保險者ニ委付ノ通知ヲ爲スモ保險者ハ之ニ依リテ何等ノ利益ヲ受ケルコト能ハサル場合ナルニ於テハ委付ノ通知ハ之ヲ爲スヲ必要トセス、以上ノ如キ事情アルニ於テハ尙委付ノ通知ヲ爲スハ不必要ノコトニ屬ス、之ヲ爲ササルモ保險者ヨリ何等實質的利益ヲ剝奪スルモノニ非サルナリ、委付ハ保險ノ目的ニ付殘存スル被保險者ノ利益並保險ノ目的ニ附着スル一切ノ所有權ヲ保險者ニ讓渡スルモノニシテ保險者ヨリ全損ニ對スル填補ヲ受ケルコトヲ得ルナリ、斯ク權利ヲ讓渡スルハ殘存スル被保險財產ニ付保險者ニ權利ヲ付與スルト同時ニ保險者ノ意思ニ從ヒ自己ノ利益ヲ保護スルノ手段ヲ講スルヲ得セシムルカ爲メ必要ナル事項ニ屬ス、委付ノ通知ニハ一定ノ方式ナキモ委

付 (abandon) ナル用語ヲ使用スルヲ常トス

次ニ考慮スヘキハ被保險財產ノ所有者ノ委付ヲ爲スヘキ時期ノ問題ナリ、遭難アリタルコトノ單純ナル報告ヲ得ルモ被保險者ニシテ委付ヲ爲サシムルヲ正當トナスモノニ非ス、被保險者ハ遭難ニ關シ十分ニ明細ナル事項ヲ知り依リテ以テ當該事情ニ對シ意見ヲ立テ委付ヲ爲スヘキヤ否ヤヲ決心スルニ至ルマテ委付ノ通知ヲ爲スヲ見合セサルヘカラス、被保險者カ以上ノ如キ報告ヲ受領スルニ於テハ遲滞ナク委付ヲ爲スヲ要スルナリ、被保險者カ相當ノ時期ニ委付ヲ爲ササルニ於テハ委付權ハ之ヲ喪失スルモノトス、但シ後ニ説明スルカ如ク後日ノ事情ノ爲メ委付權ヲ復活スル場合ハ此ノ限ニ在ラサルナリ、委付ノ通知ハ解釋全損ニ缺クヘカラサル要件ニシテ被保險者カ委付ヲ爲スヘキ正當ノ決心ヲ爲スカ爲メニ十分ナル報告ヲ受領セサルヘカラスト雖モ被保險財產カ適法ニ解釋全損ト認ムヘキヤ否ヤハ委付ノ時ニ於ケル事實ニヨリテ (pro facto) 之ヲ決スヘキモノト推斷スルヲ得ス、若シ保險者ニシテ委付ヲ承諾スルニ於テハ此等ノ事項ハ別段問題トナラサルハ勿論、保險者ハ全損ヲ支拂ヒ以テ委付物件ヲ處理スルヲ得ルナリ

然レモ保險者カ(通常アルカ如ク)委付ノ通知ヲ拒絶シタルトキハ被保險者ニ於テ委付ヲ正當ナリト主張セムトスル場合即解釋全損トシテ保險金ヲ請求セムトスル場合ニ於テハ被保險者ハ損害填補ヲ受クヘキ令狀(Notice)ヲ保險者ニ向テ送達スルヲ必要トス、而モ損害カ解釋全損ト認ムヘキヤ否ヤハ保險者ニ對シ令狀ヲ送達シタル時ニ於ケル情況ニヨリテ之ヲ決スヘキナリ(Cf. *Ruys v. Royal Exchange Ass. Corporation 1897*)之レ英法ト外國法トノ間ニ存スル著シキ相違ニシテ最モ注目ヲ要スル所ナリ、*Herschell* 卿ハ曰ク「委付ノ通知(Notice of abandonment)ト訴訟手續ノ開始トノ間ニ於テ事情ノ變化シタル爲メ全損ナリシモノカ分損トナルニ至リタル場合換言スレハ訴訟提起ノ時ニ於テ委付ノ通知ヲ爲スヲ正當トセサル事情アルニ於テハ被保險者ハ分損ノミニ付填補ヲ受クルニ過サルナリ」ト(*Sailing Ship Blairmore Co. v. Macrelic 1898*) 然レモ特ニ注意ヲ要スルハ令狀ヲ送達スル迄ハ委付ノ通知ハ法律上何等ノ效力ヲ有セサルコト之レナリ、故ニ保險者ハ委付ヲ拒絶シタル場合ニ於テ被保險者カ拒絶受領ノ時ニ恰モ令狀(Notice)ヲ現實ニ發送シタルト同一ノ地位ニ置カルヘキコトヲ特約スルヲ通常トスルニ至レリ

令狀送達ノ時ト訴訟ノ現實ニ審理セララル時トノ間ニ於テ事情ノ變化スルコトアルモ間フ所ニ非ストハ *Ruys v. Royal Exchange Ass. Corporation 1897* 事件ニ於テ決定セラレタル所ナリ、本件ニ依レハ戰爭保險ニ對シ保險ニ付シタル船舶カ捕獲セラレタルヲ以テ委付ノ通知ヲ爲シタルモ拒絶セラレタリ、茲ニ於テ令狀(Notice)ヲ送達シタリシカ訴訟ヲ現實ニ審理セラルル以前ニ於テ同船ハ船主ニ返還セラレタリ、此ノ場合ニ於テ裁判所ハ保險者ハ全損トシテ填補ノ責ニ任スヘシト判決セリ

然レモ事情ノ變化ニ關シ重要ナル唯一ノ例外ト認ムヘキハ事情ノ變化ハ保險者自身ノ行爲ニヨリテ爲サレタルモノナラサルヲ要スルコト之レナリ、之レ *Sailing Blairmore Co. v. Macrelic 1898* 事件ニ於テ確定セラレタル所ナリ、本件ニ依レハ汽船 *Blairmore* 號ハ保險ニ付シタル危險ノ爲メ桑港ニ於テ沈没シタリシヲ以テ委付ノ通知ヲ爲シタリシカ保險者之ヲ拒絶セリ、保險者ハ拋棄約款(Waiver clause)ノ定ムル所ニ從ヒ自己ノ費用ヲ支出シテ船舶ヲ浮揚セムト試ミタリ、然ルニ被保險者ハ全損ニ對スル保險金請求ノ訴訟ヲ提起スルト同時ニ被保險者ハ訴訟提起ノ時ニ

於テ現實ニ支出シタル修繕費カ修繕後ニ於ケル船價ヨリ低廉ナルハ之ヲ承認スルモ以上ノ修繕費ニ保險者カ既ニ船舶浮揚ノ爲メ支出シタル費用ヲ加算スルトキハ修繕後ニ於ケル船價ヲ著シク超過スルモノナルコトヲ主張セリ然ルニ保險者ニ於テハ自己ノ支出シタル費用ハ船舶ノ解釋全損ナリヤヲ決スルニ加算スヘキモノニ非サルヲ以テ以上ノ如キ事情ニ於テハ全損ヲ支拂フヘキ責ナキコトヲ主張セリ本件ニ對シ上院ハ委付ノ通知ト訴訟提起ノ時トノ間ニ於ケル事情ノ變化ニ關スル英國法ノ原則ハ保險者自ラ費用ヲ支出シテ事情ノ變化ヲ釀成シタルモノナルトキハ之ヲ適用セサル旨ヲ判示シ保險者ノ敗訴ニ歸セリ

保險者カ委付ヲ承認セムトスルトキハ遲滯ナク其ノ旨被保險者ニ通知スルヲ要ス若シ委付ノ意思表示ニ對シ保險者ニ於テ何等ノ回答ヲ爲ササルニ於テハ保險者ハ委付ノ承認ヲ拒絕シタルモノト推定セサルヘカラス (Provincial Ins. Co. of Canada v. Lecluc 1874 海上保險法第六十二條第五號)

委付ノ通知ヲ拒絕シタル場合ニ於テ保險者及被保險者ハ被保險財産ノ損害ヲ防止シ又ハ經減スルノ行爲ヲ爲スヲ得ス蓋シ保險者及被保險者カ此等ノ行爲ヲ爲

スニ於テハ保險者カ委付ヲ承諾シタルモノナリヤ被保險者カ委付ノ意思表示ヲ取消シタリヤ紛ハシキ結果ヲ生スルヲ以テナリ彼ノ拋棄約款 (Waiver clause) ヲ保險證券ニ挿入スルニ至リタルハ即チ此ノ不確實ヲ明瞭ナラシメムカ爲メニ外ナラサルナリ本約款ノ用語ハ曩ニ述ヘタル所ナルモ尙明瞭ナラシメムカ爲メ左ニ再録スレハ

"It is expressly declared and agreed that no acts of the insurer or insured in recovering, saving, or preserving the property insured shall be considered as a waiver or acceptance of abandonment."

「保險ノ目的ノ損害ヲ回復シ輕減シ防止セムカ爲メ保險者又ハ被保險者カ何等ノ行爲ヲ爲スモ之ヲ以テ委付權ノ拋棄若ハ委付ノ承諾ト看做ササルヘキコトヲ特ニ明約ス」

第一款 船舶ノ解釋全損 (Constructive Total loss of Ship)

理論上ニ於ケル解釋全損並之ト離ルヘカラサル關係ヲ有スル委付ニ付テハ上來續述シタル所ノ如シ以下船舶ノ解釋全損ニ付實際上ノ説明ヲ試ムヘシ假ニ積荷

ヲ積載セサル船舶カ暴風ノ爲メ岩礁ニ乗リ揚ケ甚敷損害ヲ蒙リタリトセハ如何ニシテ該損害ノ解釋全損ナリヤ否ヤヲ決定スルヲ得ヘキヤ船舶ノ修繕費ニ坐礁船舶ヲ離礁シテ安全ノ地點ニ航行セシムル費用ノ概算ヲ加算シタル額カ救助船舶ノ修繕後ニ有スル船價ヲ超過スル場合ニ於テハ該船舶ハ解釋全損ナルコト明瞭ナリ(海上保險法第六十條二號左ニ數字ヲ以テ之ヲ例示セムニ一方ニ於テ

修繕費 七〇〇〇磅

船舶ヲ離礁シ安全ノ地點ニ航行スル費用 三〇〇〇磅

合計一〇〇〇〇磅

然ルニ他方ニ於テ

修繕後ニ有スル船價 九〇〇〇磅

以上ノ如キ場合ハ明ニ解釋全損ナリ何トナレハ思慮深キ無保險船主 (Prudent insured owner) ハ修繕後ニ僅ニ九千磅ヲ有スル船舶ニ對シ一萬磅ノ費用ヲ支出スルコトナカルヘケレハナリ

若シ修繕費其ノ他カ九千八百磅ニシテ修繕後ニ有スル船價カ一萬磅ニシテ難破船ノ價額カ四千磅ニ賣却セラルル場合ニ於テハ修繕費カ修繕後ニ有スル船價ヨリ小額ナルモ船主ハ難破船ヲ修繕セスシテ之ヲ賣却シ二百磅ヲ利得スルヲ得ヘシ、換言スレハ難破船ノ價額ニ修繕費ヲ加算スルトキハ修繕後ニ有スル船價ニ超過スルニ至ルヘシ、然レモ海上保險法第六十條第二項第二號ニ於テハ難破船ノ價額ハ之ヲ規定シ居ラサルヲ以テ前例ノ場合ハ船舶ハ解釋全損ニ非サルナリ、解釋全損ノ場合ニ於テ保險ニ付シタル危險ノ爲メ支出スルヲ必要トシタル修繕費ヲ算出スルニ當リテハ新舊交換費トシテ何等ノ控除ヲ行ハス(三分ノ一ノ控除ヲ爲スノ慣習アリ)船舶發航當時堪航條件ヲ具備スルモノナルトキハ船舶ノ老朽ノ爲メ余分ニ支出シタル修繕費ニ付何等ノ控除ヲ行フコトナシ、修繕費ヲ計算スル場合ニ於テハ該修繕費ニ對シ他ノ利害關係者ニ依リテ支拂ハルヘキ共同海損分擔額ハ之ヲ修繕費ヨリ控除セス、然レモ將來ノ救助費用及修繕セハ船舶ノ負擔ニ歸スヘキ將來ノ共同海損分擔額ハ之ヲ修繕費中ニ算入ス(海上保險法第六十條第二項)修繕費其ノ他ト比較スヘキ修繕後ニ於ケル船價ハ如何ニシテ確定スルヤ

ハ往々惹起スル疑アル問題ナリ、然レモ今日ニ於テハ斯ノ如キ困難アルヲ排除スル目的ヲ以テ評價約款 (valuation clause) ヲ保險證券中ニ挿入スルニ至レリ、即解釋全損ナルヤ否ヤヲ確定スルカ爲メニハ保險價額ヲ以テ修繕後ニ於ケル價額ト看做スコト之レナリ、左ニ本約款ノ重要ナル效果ヲ數字ヲ以テ例示スレハ費用 (expense) 一萬磅修繕後ニ於ケル船價九千磅ナルトキ假ニ保險證券中評價約款ヲ保險價額一萬二千磅ト定メタル場合ニ於テハ一萬磅ノ費用ハ特約上ノ修繕價額一萬二千磅ヨリ小額ナルヲ以テ解釋全損トシテ填補ヲ受クルコトヲ得サルナリ

第二款 運賃ノ解釋全損 (Constructive Total loss of Freight)

運賃ノ解釋全損ハ船舶又ハ積荷カ保險ニ付シタル危險ノ爲メ損害ヲ蒙リ又ハ其ノ影響ヲ受ケ其ノ結果取得スヘキ運賃ノ額ヲ超過シタル費用ヲ支出スルニ非サレハ運賃ノ現實全損ヲ免ルル能ハサル場合ニ於テ生ス
然レモ船舶ヲ委付シ船舶保險者之ヲ承諾シタル場合ニ於テハ當該船舶ノミナラス其ノ取得中ニ屬スル運賃並損害ノ原因タル災厄以後ニ於テ委付船舶ニ

依リテ得ヘキ運賃ヨリ災厄以後其ノ運賃ヲ得ルカ爲メニ支出シタル費用ヲ控除シタル殘額ヲ保險者ニ移轉スルモノナルコト、及委付船舶カ船主ノ貨物ヲ運送スル場合ニ於テハ保險者ハ損害ノ原因タル災厄以後其ノ貨物ノ運送ニ對シ相當ノ報酬ヲ受クルノ權利ヲ有スルコトハ之ヲ銘記スルヲ要スルナリ(海上保險法第六十二條第二項)故ニ船舶保險者ハ委付ヲ承諾シタル後船舶ヲ修繕シ航海ヲ完了シタルトキハ前述シタル運賃ヲ取得スルヲ得ヘシ、尙船主カ委付ヲ爲シテ運賃ヲ移轉シタル場合ニ於テハ船主ハ運賃保險者ニ對シ之カ損害填補ヲ求ムルコトヲ得ス何トナレハ運賃ノ損害ハ保險ニ付シタル危險ノ爲メニ生シタルモノニ非スシテ運賃喪失ノ近因ハ船舶保險者ニ對シテ爲シタル委付ニ在ルヲ以テナリ (Scottish Marine Ins. Co. v. Turner 1853) 然レモ若シ船舶カ避難港ニ於テ難破シ使用ニ堪ヘサルニ至リタルヲ以テ運賃保險者ハ代船ヲ以テ積荷ヲ到達港ニ運送シ運賃保險者ニ於テ之カ運賃ヲ取得シタル場合ニ於テハ運賃保險者ハ運賃ノ全損ニ付保險金ヲ支拂ヒ自己ノ取得シタル運賃ニ對シ適法ノ權利ヲ有スルナリ、而モ委付ヲ承諾シタル船舶保險者ニ至リテハ該運賃ニ付何等ノ權利ヲ有セサルナリ (Hickie v. Rado-

gunachi 1859) 然レモ以上ノ如キ問題ハ今ヤ其ノ存在ノ余地尠キニ至レリ、何トナレハ船舶保險ニ左ノ如キ約款ヲ挿入スルヲ通常ト爲スヲ以テナリ、即

“In the event of total or constructive total loss, no claim to be made by the underwriter for freight, whether notice of abandonment has been given or not.”

「船舶ノ現實全損又ハ解釋全損ノ場合ニ於テハ委付ノ通知カ爲サレタルト否トヲ問ハ保險者運賃ヲ取得スルノ權利ナキモノトス」

第三款 積荷ノ解釋全損 (Constructive Total loss of Goods)

積荷ノ解釋全損ハ積荷カ到達港ニ達セサル地點ニ存スル場合ニ生ス(イ)積荷カ損害ヲ蒙リタル場合ニ於テ該積荷ノ修繕費及(ロ)積荷ノ到達港ニ至ル運送費カ解釋全損ナリヤ否ヤヲ定ムルノ要素ニシテ以上二種ノ費用ノ一又ハ其ノ兩者カ積荷ノ到達後ニ於ケル價額ヲ超過スル場合ニ於テハ該損害ハ解釋全損ナリ、思慮深キ無保險貨主 (Prudent uninsured owner of goods) カ取ルヘキ手段ハ即解釋全損ナリヤ否ヤヲ決スルニ外ナラサルナリ、勿論保險者ハ解釋全損トシテ保險金ヲ支拂ヒタル

場合ニ於テハ其ノ避難港ニ於テ賣却シタル積荷ノ正味手取金ヲ取得スルコトヲ得ヘク其ノ避難港ニ於テ賣却セラレタル積荷ハ之ヲ救助物件 (Salvage) ト稱スルナリ而シテ保險者カ保險金額ヨリ積荷ノ總手取金ヲ控除シタル殘額ヲ支拂ヒテ保險金支拂ヲ決定スル方法ハ之ヲ salvage loss ト稱ス

第五章 單獨海損 (Particular Average)

單獨海損ニ對スル保險金請求ヲ研究スルニ先チ單獨海損ナル用語ノ意義ヲ明瞭ニスルノ必要アリ、所謂單獨海損トハ共同海損 (General Average) 及全損 (Total loss) ニ對スル用語ニシテ其ノ定義ハ海上保險法ニ規定セリ曰ク

第六十四條 (一) 單獨海損トハ保險ノ目的ニ付保險ニ付シタル危險ニ依リテ生シタル分損ニシテ共同海損ニ非サルモノヲ云フ

(二) 保險ノ目的ノ安全若ハ保存ノ爲メ被保險者自ラ又ハ被保險者ノ爲メニ支出シタル費用ニシテ共同海損及救助料ニ非サルモノハ之ヲ特別費用 (Particular charge) ト云フ、特別費用ハ單獨海損中ニ包含セス

例へハ船舶暴風ニ遇ヒ激浪甲板ヲ洗フニ至リタル爲メ船舶ニ著シキ歪ヲ生シ依リテ損害ヲ生シタル場合ノ如キ之レ船舶ニ對スル單獨海損ナリ、暴風ノ爲メ海水船内ニ侵入シ爲メニ積荷ニ損害ヲ及ホシタル場合ノ如キハ積荷ニ對スル單獨海損ナリ、更ニ例へハ積荷カ砂糖ニシテ其ノ四分ノ一カ溶解シタルカ爲メ船主カ砂糖ヲ陸揚港ニ於テ引渡シ自己ノ取得スヘキ運賃ノ四分ノ一ヲ喪失シタル場合ニ於テハ之レ運賃ニ對スル單獨海損ナリ、單獨海損ハ其ノ數甚タ多ク枚舉ニ遑アラサルモ以上三個ノ設例ヲ舉クルヲ以テ十分ナリトスヘシ、曩ニ説明シタルカ如ク損害ハ保險ニ付シタル危險ニヨリテ偶然ニ生シタルモノナルコトヲ要シ且ツ其ノ損害ハ保險ノ目的ニ付利害關係ヲ有スル者並其ノ保險者ノミニ關スルモノナルコトヲ要ス、之レ單獨海損ト後ニ説明スヘキ共同海損トノ相違スル要素ニシテ特ニ注意ヲ要スル所ナリ、左ニ單獨海損ニ對スル保險金請求カ保險契約上如何ニ取扱ハルルカヲ略述スヘシ

第一節 船舶ノ單獨海損 (Particular Average on Ship)

船舶カ激浪ノ爲メ著シク歪ヲ生シ又ハ推進器 (Propeller) カ漂流物ヲ搦ミタル爲メ其ノ翼 (blade) ヲ破壊シ又ハ突然ノ震撃ノ爲メ推進軸 (shafting) ヲ破壊スルニ至リタル等ノ場合ニ於テ最初ニ起ル問題ハ如何ニシテ保險者ノ責任額 確定スヘキヤ即之レナリ、保險者ノ責任額ハ通常保險ニ付シタル危險ノ爲メニ生シタル損害ニ對スル現實ノ修繕費 (actual cost of repair) ヨリ新舊交換費 (new for old) 三分ノ一又ハ六分ノ一ヲ控除シタル額トス、但シ現時通常行ハルルカ如ク海損 (average) ハ全部ヲ支拂フヘク新舊交換費 (new for old) トシテ何等ノ控除ヲ爲ササル旨ヲ保險證券ニ約スルトキハ之ノ限ニ在ラス、特ニ注意ヲ要スルハ船舶ノ單獨海損ニ對スル保險金請求ヲ決定スルニ當リテハ被保險者及保險者間ニ協定シタル船舶ノ保險價額ニ付何等ノ考慮ヲ拂ハサルコト之レナリ、保險金請求ノ基礎ハ合理的ニシテ現實ナル修繕費用ナリ、故ニ例へハ船舶ノ現實ノ價額カ五萬磅ニシテ保險價額及金額カ何レモ單ニ四萬五千磅ト定メタル場合ニ於テモ保險者ハ合理的ナル修繕費ノ全額ヲ基礎トシテ之ヲ支拂フコトヲ要スルナリ

次ニ修繕ノ方法ヲ考慮セムニ先ツ修繕ハ慎重ニ之ヲ爲スコトヲ要シ之カ修繕費

用ハ合理的ナルヲ要スルナリ、若シ然ラスシテ不謹慎又ハ不合理ニ修繕ヲ爲スニ於テハ之カ爲メニ生スル余分ノ經費ハ保險者ニ於テ之ヲ負擔スルヲ要セサルナリ、尙保險者ハ前述シタルカ如ク自然ノ損耗 (wear and tear) ニ對シ填補ノ責ニ任セス、且ツ保險者ハ取引上ノ割引ノ利益ヲ享有スルコトヲ得ヘク修繕ヲ施ス以前ニ使用シタル古キ鐵又ハ古キ繩等ノ舊材料ノ價額ハ一切之ヲ保險者ニ通知スルヲ要スルナリ

斯クシテ修繕費計算書 (repair bill) ヲ引照調査シテ單獨海損タル損害ノ總額ヲ確定シタル場合ニ於テハ保險ノ種類ニ從ヒ填補ヲ受クヘキ金額ヲ決定スルヲ要ス、即各保險者ノ引受ケタル保險金額ノ總保險價額ニ對スル割合ヲ以テ單獨海損ヲ負擔スルモノトス

船舶ニ對スル保險者ノ責任ハ通常ノ危險ニ付自己ノ保險金額ヲ以テ限度トス、然レモ船舶ハ往々數個ノ危險ニ遭遇スルコト尠カラス、其ノ結果期間保險 (time policy) 又ハ航海保險 (voyage policy) ニ於テ保險者ノ責任ハ自己ノ引受ケタル保險金額ヲ超過スルコトアリ、例ヘハ船舶カ保險期間中損害ヲ蒙リ修繕ヲ施シ次テ全損ト

ナリタル場合ノ如シ、斯ノ如キ場合ニ於テハ保險者ハ單獨海損ニ對スル保險金額ノ外全損ニ對スル保險金ヲ支拂フヲ要スルナリ、然レモ船主ハ最初ニ自己ノ船舶ヲ修繕スルノ義務ヲ負フモノニ非ス、船主ハ修繕ヲ延期シタルカ爲メ損害ヲ増加スルニ至ルコトアルモ自己ノ選擇ニ從ヒ修繕ヲ延期スルヲ得ヘク保險者ハ之カ爲メニ生スル影響ニ付其ノ責ニ任セサルナリ、若シ保險期間中修繕ヲ爲ササルニ於テハ船主ハ保險期間ノ終了スルヲ俟チテ保險金ヲ請求スルヲ得ルナリ、若シ保險期間ノ終了前ニ於テ船舶全損ト爲リタルトキハ船主ハ全損ニ付填補ヲ受クルコトヲ得ヘキモ單獨海損ニ付テハ填補ヲ受クルコトヲ得ス、何トナレハ損害ハ之カ修繕ヲ爲ササルヲ以テ船主ハ修繕ニ付テハ何等ノ損害ヲ蒙ラサルヲ以テナリ、海上保險法第七十七條第二項而モ船舶ノ全損カ保險ニ付シタル危險ニ基カスシテ發生シタル場合ニ於テハ保險者ハ其ノ損害ノ全損ナルト未タ修繕ヲ爲ササル損害ナルトヲ問ハス保險契約上ノ責任ヲ負ハサルナリ (L'Yvie v. Janson 1810)

單獨海損ヲ修繕セス船舶全損ト爲ラスシテ保險期間經過シタル場合ニ於テハ保險者ノ單獨海損ニ對スル責任ハ損害ニ對スル修繕費ヲ測定シテ以テ之ヲ確定ス

ルヲ通常トス

修繕ヲ爲ササル單獨海損アリタル後船舶全損ト爲ルニ至リタル場合ニ關シ興味多キ重要ナル事件アリ、本件ハ了解ニ便ナル様簡單ナル假設ヲ以テ略述スレハ某船Aナル保險者ニ航海保險ニ付シ單獨海損タル損害ヲ蒙リ該損害ノ修繕ヲ爲ササル中保險期間ヲ經過シタリ、Aナル保險者ノ保險期間經過スルト同時ニ同船ハBナル保險者ニ同額ノ保險ヲ付セリ、Bナル保險者ノ保險契約存續中ニ於テAナル保險者ノ契約ニ基ク單獨海損タル損害ノ修繕ヲ爲ササル中船舶全損ト爲ルニ至レリ、此ノ場合ニ於ケルA及Bナル保險者ノ各自ノ責任ハ如何ニシテ定ムヘキヤ、即此場合ハAナル保險者ハ單獨海損タル損害ノ修繕費ヲ測定シテ之ヲ支拂フヲ要シ而モ之レ船主ニ取リテ明白ナル利得タルナリ、而シテBナル保險者ハ全損ニ對シ填補ノ責ニ任スルナリ (Lidgett v. Secretan 1871) 然レモ保險期間中未修繕ノママ船主ニ依リテ賣却セラルルコトアリ、此ノ場合ニ於テ其測定シタル修繕費カ船舶ノ賣却ニヨリテ現實ニ確定シタル損害額——保險者ノ責任ヲ確定スルニ必要ナル要素——ヲ超過セサル限リ其測定シタル相當修繕費ヲ基礎トシテ保險者ノ

填補額ヲ定ムヘキモノトス (Pitman v. Universal Marine Ins. Co. 1882) 然レモ賣却ヲ爲シテ以テ損害額ヲ確定セムカ爲メニハ船舶ノ無事ナリシ時ノ價額ヲ如何ニ見積ルヘキカ、危險開始ノ時ニ於ケル價額ト爲スヤ、事故發生ノ直ク前ニ於ケル價額ト爲スヤ、又ハ其ノ他ノ價額ト爲スヤニ付テハ未タ判決ノ據ルヘキモノナキヲ遺憾トス、本問ヲ終ルニ臨ミ特ニ留意スヘキ問題アリ、即チ船主ノ計算ニ屬スル修繕ト保險者ノ計算ニ屬スル修繕トカ船渠内ニ於テ同時ニ行ハレタル場合ニ於テ船渠料 (lockdue) ハ如何ニ取扱フヘキカ之レナリ

第一ノ訴件ハ Vancouver 事件ナリ、即 Hongkong ヨリ桑港ニ到達シタル船舶カ甚シク不良ト爲リタリシヲ以テ航海ヲ再ヒ始ムル前船體ヲ掃除シ廢物ヲ除去シ塗粧ヲ施サムカ爲メ入渠スルヲ必要トセリ、而モ同船ノ入渠シタルハ單ニ以上ノ目的ヲ有シタルニ過キサリキ、然ルニ入渠後ニ至リ船尾骨 (stern post) カ航海中甚シク破碎セラレ居ルヲ發見シタリ、茲ニ於テ同船ハ之カ修繕ヲ施シ之カ爲メ八日間入渠シタリ、其ノ始メノ三日間ハ掃除塗粧等ヲ同時ニ爲シタリシカ此等ヲ同時ニ爲シタリシカ爲メ三日間ノ船渠料ヲ節約スルヲ得タリ、以上ノ場合ニ於テ保險者ハ掃除

其ノ他損害ノ修繕カ同時ニ行ハレタル最初ノ三日間ノ船渠料ノ一部ニ付支拂ノ責ニ任スヘキヤ否ヤノ問題アリシカ上院ニ於テハ上述ノ如キ事情ニ在リテハ最初三日間ノ船渠料ハ保險者ト船主ノ兩者ニ於テ平等ニ分割負擔スヘキモノナリト判決セリ、本件ニ於テ注意スヘキハ船舶ノ船渠内ニ進入スルニ要スル費用ニ付テハ別ニ問題ト爲ラスシテ單ニ三日間ノ船渠使用料ノミニ關シタリシコト之レナリ、然レモ本判決ノ趣旨ヨリ之ヲ見レハ船渠内ニ出入スルニ要スル費用ニ付テモ亦同様ナルハ明瞭ナリ

第二ノ訴件ハ *Rubbo* 事件 (*Rubbo S. S. Co. v. London Assurance Corporation 1899*) ナリ、即船舶膠砂シタルカ爲メ船體ヲ検査シ必要ニ應シ分損ヲ修繕セシムカ爲メ入渠シタリ之レ一八九六年一月ナリキ、然ルニ同年十一月ニ至ラハ普通ノ場合ナラハ船級維持ノ爲メ「ロイド」登録船級ノ検査ヲ受ケムカ爲メ入渠セサルヘカラサリシモ「ロイド」ノ規約ニ依レハ船主ヨリノ申出アラハ期日以前ニ檢定ヲ受クルコトヲ得タリキ、依テ船主ハ分損修繕ノ爲メ一月ニ於テ入渠スルヲ利用シ同時ニ船級ノ檢定ヲ受ケタリキ、以上ノ場合ニ於テ保險者ハ船渠料——然ラサレハ特ニ支出スル

ヲ要シタリシ——ノ半額ハ船主ニ於テ負擔スヘキ旨ヲ主張シタリシカ上院ニ於テハ商事裁判所及控訴院ノ判決ヲ棄却シ船渠料船渠ニ出入スル費用及船渠使用料ヲ含ムハ保險者單獨ニ負擔スヘキモノニシテ船主ハ毫モ負擔スルノ責ニ任セサル旨ヲ判決セリ

以上第二ノ訴件ニ對スル判決ノ結果ハ若シ船主ノ計算ニ屬スル修繕ニシテ船舶ノ堪航 (*seaworthiness*) ヲ維持スルニ直接必要ナラサル以上保險事故ノ結果發生シタル損害ニ對シ保險者ノ負擔ヲ以テ船渠内ニ於テ修繕ヲ爲スヲ要スルニ至リタル場合ニ於テハ船主ハ附帶ノ利益 (*incidental advantage*) ヲ取得スルヲ得ルニ至ルモノトス、上述シタル事項ニ關シ海損清算人組合ノ慣習ヲ擧クレハ左ノ如シ

船主ノ計算ニ屬スル修繕ニシテ船舶ヲ堪航ナラシムルカ爲メ直接必要ニシテ且ツ船渠内ニ於テノミ爲スコトヲ得ルモノト保險者ノ負擔ニ屬スヘキ修繕ニシテ船渠内ニ於テノミ爲スコトヲ得ルモノトカ同時ニ行ハレタルトキハ船渠ニ出入ノ費用並兩種ノ修繕ニ共通ナル船渠料ハ船主並保險者ニ於テ平等ニ分割スヘキモノトス

次ニ修繕ノ爲メニ船舶ヲ回航スルニ要スル費用ハ如何ニ取扱フヘキカヲ考フルニ假リニ船舶カ港内ニ於テ修繕ヲ爲ス必要アルモ修繕スルコト能ハサルカ爲メ又ハ慎重ニ修繕ヲ施ス能ハサルカ爲メ他ノ港灣ニ向ツテ航行シタリトセハ修繕港迄航行スルニ要スル必要費用ハ修繕費ノ一部ト看做スヘキモノトス、修繕後ニ於テ曩ノ發航港マテ歸航スルニ要スル費用モ亦然リ

然レモ船舶カ歸還スルコトヲ爲サスシテ修繕港ニ於テ新ニ積荷ヲ積載シタル場合ニ於テハ修繕ノ終了後ニ生スル費用ハ修繕費中ニ算入スヘキモノニ非ス、尙ホ新ニ取得スヘキ運賃又ハ海流ヲ航海スルニ依リテ節約スルヲ得ヘキ費用ハ回航費用ヨリ控除スヘキモノトス、運送契約履行ノ爲メニ要スル通常費用ハ修繕港ニ回航スルニヨリテ増加スルコトアルモ修繕費中ニ算入セララルコトナシ、保險者ハ自然ノ消耗ニ依リテ生スル損害ハ之カ填補ノ責ニ任セサルハ前述シタル所ナリ、尙船舶ノ通常ノ用途ニ使用シタル機裝ノ一部ニ發生シタル損失又ハ損害ハ保險者其ノ責ニ任セス、不安全ノ個所ニ不適當ニ積載セラレタル屬具カ喪失スルニ至リタル場合ニ於テハ保險者其ノ責ニ任セサルナリ

上述シタル所ニ關シ「ロイド」ノ慣習ヲ列舉スルニ左ノ三種アリ

- 一 帆カ風ノ爲メニ破損セラレ又ハ展帆中吹き去ラレタルトキハ保險者之カ填補ノ責ニ任セス、但シ船舶ノ膠砂又ハ衝突シタルニ因リ又ハ帆ヲ結ヒ付ケタル圓材 (Spur) ニ損害ヲ生シタル結果トシテ發生シタルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 二 緊張又ハ磨損ノ爲メ索 (Rigging) ニ生シタル損害ハ保險者填補ノ責ニ任セス、但シ該損害カ暴風、膠砂、又ハ接觸 (Grounding or contact) ノ爲メニ生シタルトキ又ハ海上危険ノ爲メニ圓材 (Spur) 靜索ノ斜度ヲ擴大スル爲メ舷側ニ取リ付ケタル板 (Channel) 舷牆 (Bulkhead) 又ハ手摺 (Rail) ノ位置ヲ轉換シタルカ爲メニ生シタルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 三 甲板ニ積載シタル水桶 (Water cask) 又ハ水罐 (Tank) ハ共同海損又ハ單獨海損トシテ保險者填補ノ責ニ任セス、曳索 (Wreck) 其ノ他ノ用具ニシテ甲板上ニ不適當ニ積載セラレタルモノニ付亦同シ

保險者ハ修繕中ニ於ケル船員ノ給料 (Wage) 及食料 (Provision) ニ付填補ノ責ニ任セス

(Robertson v. Ewer 1886) 但シ船員ノ或ル者カ修繕ヲ爲スカ爲メ特ニ備使セラレ若シ之ヲ備使セサルニ於テハ餘計ノ作業ヲ必要トシタル場合ニ於テハ其ノ特ニ備使シタル船員ノ給料ハ保險者之カ填補ノ責ニ任スルハ論ヲ俟タサルナリ

港内ニ於ケル船舶カ經濟上必要の且一時的修繕ノミヲ施シ永久の修繕ハ他日他港ニ於テ爲スヲ得策ナリト思料セラルル場合ニ於テハ保險者ハ一時的修繕費並永久の修繕費ノ兩者ニ付其ノ責ニ任ス、而シテ船舶カ港内ニ於テ必要の且一時的修繕ノミヲ爲シ得ルニ過サル場合モ亦同様ナルハ勿論ナリ

第二節 運賃ノ單獨海損 (Particular Average on Freight)

所謂運賃トハ船舶ヲ備船シタルカ爲メ又ハ積荷ヲ一港ヨリ他港マテ運送シタルニ對シテ支拂フ金銭ナリ、故ニ運賃其レ自體ニ於テハ船舶又ハ積荷ノ如ク保險ノ爲メ現實ノ損害即物質的損害ヲ蒙ルコト能ハサルヤ明ナリ、故ニ運賃ノ單獨海損ヲ構成スルカ爲メニハ必スヤ運賃ニ關シ部分損害ノ存在スルコトヲ要ス、運賃特ニ備船料ニ關スル學術上ノ諸問題ニ付テハ本書ノ如キ小冊子ノ能ク記述シ盡ス

能ハサル所ナルヲ以テ茲ニハ單ニ運賃ノ單獨海損ノ一例ヲ舉クルニ止ムヘシ、砂糖ヲ Demerara ヨリ倫敦迄積載シ其ノ運賃ハ前拂ト爲ササリシ場合ニ於テ航海中保險事故ノ爲メ砂糖ハ其ノ三分ノ一ヲ溶解シタリトセムニ此ノ場合ハ運賃ノ三分ノ一ヲ喪失スルニ至リタルハ明瞭ナリ、保險者ハ保險約款ニ從ヒ保險ニ付シタル運賃ノ三分ノ一ニ付填補ノ責ニ任スヘキナリ

保險者ノ責任額ハ保險契約上ノ運賃ノ價額ヲ基本トシテ計算スルモノトス、若シ船舶カ船積港ニ於テ運賃ノ價額ニ相當スル積荷ノ一部ノミヲ積載シ又ハ損害發生ノ時積荷ノ一部ノミカ現實ニ契約セラレタル場合ニ在リテハ保險ハ其ノ實際積載シタル積荷又ハ損害發生ノ時契約シタル積荷ノ積載積荷全部ニ對スル割合ト同一ノ割合ヲ以テ保險金額ノ一部ヲ填補スル責ニ任ス

運賃ニ對スル保險金ノ請求ヲ爲スカ爲メニハ他ノ場合ト同シク保險事故ニ依リテ其ノ損害ヲ發生シタルモノナルコトヲ要ス、茲ニ注意ヲ要スルハ英國法ニ於テハ航海ノ一部ニ對スル運賃即所謂航路相當運賃 (pro rata or "distance freight") ノ支拂ヲ認メサルコト之レナリ、若シ海上事故ノ爲メ船主カ陸揚港ニ於テ積荷ヲ引渡ス

コト能ハサル場合ニ於テハ船主ハ荷主ニ對シ其ノ航海シタル航路ニ對スル運賃ヲ支拂ハシムルコトヲ得サルナリ、此ノ點ニ於テハ英國法ハ多數ノ外國法ト相異シ居レリ、外國法ニ於テハ所謂航路相當運賃實際航海シタル航路ノ哩數ニ比例スル運賃ヲ是認シ或ル場合ハ運賃ノ全額ヲ認メ居レリ

現時ニ於テハ船主ハ運賃ノ前拂ヲ要求スルノ慣習アリ、其ノ前拂ノ場合ニ於テハ船主ハ運賃ニ付最早被保險利益ヲ有セス何トナレハ船主ハ航海ヲ完了シタルト否トヲ問ハス前拂運賃ハ之ヲ返還セサルモノナルヲ以テ船主ハ運賃ノ喪失ニ付何等ノ危險ヲ有セサレハナリ、故ニ運賃ニ對スル危險ハ之ヲ支拂ヒタル荷主又ハ備船者ニ在リ、荷主又ハ備船者ハ船舶喪失ノ場合ニ於テ運賃ヲ失フカ故ニ運賃ニ對スル被保險利益ハ荷主及備船者ノ兩者ニ在リ、荷主又ハ備船者ハ前拂運賃トシテ保險ニ付スルヲ得ヘク又ハ積荷ノ價額中ニ運賃ヲ包含セシムルコトヲ得ヘシ、荷主カ積荷ヲ保險ニ付シ積荷ノ價額中ニ前拂運賃ヲ包含(荷主ノ通常爲ス所ナリ)シタル場合ニ於テハ其ノ之ヲ包含セシメタル事實ハ一般原則トシテ之ヲ保險證券面ニ表示スルヲ要ス、其ノ通常使用セラルルハ「積荷其ノ保險價額何磅前拂運賃

何磅ヲ含ム」ナル用語ナリ、此ノ如キ場合ニ於テハ前拂運賃カ保險證券上特定セラレタルト否トヲ問ハス該保險契約ハ價額確定保險契約トシテ取扱ハレ前拂運賃ニ對スル特別ノ保險トシテ取扱ハルルコトナシ、故ニ積荷ノ減價ノ場合ニ於テハ前拂運賃ハ積荷ノ價額中ニ吸收セラレ前拂運賃ヲ包含シタル積荷ノ價額ヲ以テ保險者ノ責任算定ノ標準トセラルルナリ (Thames and Mersey Mar. ins. Co. v. Pitts, Son and King, 1893)

第三節 積荷ノ單獨海損 (Particular Average on Cargo)

積荷ノ單獨海損ニ對スル保險金請求ハ積荷カ保險事故ノ爲メ分損ヲ蒙リタルトキ又ハ積荷ノ一部カ全損ト爲リタルトキニ生ス、例ヘハ百袋ノ羊毛中二十五袋カ海水ノ爲メ二割ノ損害ヲ受ケテ目的地ニ到達シタル場合又ハ五袋カ全部無價値トナリテ到達シタル場合又ハ百袋悉ク九割又ハ九割九分ノ損害ヲ蒙リテ到達シタル場合ノ如キハ何レモ單獨海損ナリ、荷主ノ中ニハ積荷カ損害ノ儘到達シタルトキハ積荷ノ保險價額ト被害積荷ヲ賣却シタル正味手取金トノ差額ヲ保險者ニ

於テ支拂フヘキモノナリト思惟スルモノアリ、此ノ方法ニ依レハ保險者ハ自己ノ關係セサル市價ノ變動ニ依リテ影響ヲ受クルコトト爲ルナリ、此ノ保險金支拂ノ方法ハ所謂 *salvage loss* ト稱スルモノニシテ積荷カ陸揚港ニ到達セサル途中ニ於テ賣却スルヲ要シタル場合ニ於テノミ行ハルル方法ナリ、之レ既ニ解釋全損ヲ說述スルニ當リ述ヘタル所ナリ、然レモ積荷カ陸揚港ニ到達シタル場合ニ於テハ單獨海損ニ基キ保險者ニ請求スルヲ要ス、次ニ之ヲ說述スヘシ

積荷カ海難ノ爲メ荷標ヲ抹消セラレ當該積荷ヲ確認スルコト能ハサル狀況ニ於テ陸揚港ニ到達シタルカ爲メ積荷ヲ荷受人ニ引渡スコト能ハサル場合ニ於テハ該損害ハ全損トシテ保險者ノ責ニ任セシムヘキモノニ非ス、何トナレハ積荷ハ事實上到達シタルモノナレハナリ、只其ノ價額ハ荷標ヲ失ヒタル積荷ノ全部ヲ賣却シ其ノ買得金ヲ積荷ノ權利者ノ間ニ適當ニ分配スルニ依リテノミ之ヲ確定スルヲ得ヘキナリ、而シテ以上ノ如キ場合ニ於ケル積荷ノ損害ハ單獨海損トシテ取扱フコトヲ要スルナリ (*Spence v. Union Marine Ins. Co., 1868*)

次ニ積荷ノ損害ハ如何ニシテ確定スヘキカヲ考フルニ取次人 (*Broker*) カ損害ノ性

質ヲ記載シタル證明書ヲ作成シ當該積荷カ正荷ニテ到達シタリトセハ有スヘカリシ價額ヲ證明シ及其ノ損害ヲ蒙リタル狀況ニ於ケル價額ヲ證明スルコトアリ、又何割ノ損害ト記載スルコトアリ、然レモ屢々行ハルルハ競賣ニ依ル方法ナリ、正荷ノ價額 (*sound value*) ト毀損シタル狀況ニ於ケル價額 (*damaged value*) トカ確定セラレタルトキハ正荷ノ總價額 (*Gross sound value*) (正荷ノ正味價額 *net sound value*) ニ非ス) ト毀損積荷ノ總賣上手取金 (*Gross proceed*) トヲ比較シテ其ノ損害額ヲ知ルコトヲ得ヘク (*Johnson v. Sheldon 1802*)、通常ハ正荷ノ價額 (*sound value*) ニ對スル割合ヲ以テ其ノ損害率ヲ表示スルモノトス

正荷ノ正味價額 (*net value*) ヲ比較セスシテ正荷ノ總價額 (*Gross value*) ヲ比較スルノ理由ハ損害ノ一因タル市價ノ變動ヲ避ケムカ爲メナルコト其ノ一ナリ、正味手取金 (*net proceed*) ト比較スルニ於テハ正荷ノ價額ヨリ諸掛 (*charge*) ヲ控除スルノ結果現實ノ損害額ニ變更ナキニ拘ラス保險者ノ負擔ニ歸スヘキ損害率ヲ増加スルニ至ルカ故ナルコト其ノ二ナリ、左ニ例ヲ舉ケテ之ヲ明ニセムニ

總價額 (*Gross value*)

正味價額 (*net value*)

正荷ノ總價額 (Gross sound value)	100 磅	正荷ノ價額 (sound value)	100 磅
諸掛ヲ控除シ	10 磅	諸掛ヲ控除シ	10 磅
正荷ノ正味價額 (net sound value)	90 磅	正味賣上手取金 (net proceeds)	40 磅
賣上手取金 (proceeds)	50 磅	諸掛ヲ控除シ	10 磅
總賣上手取金 (Gross proceeds)	50 磅	損害 (loss)	50 磅
損害 (loss)	50 磅	損害 (loss)	50 磅
損害率	五割	但シ正荷價額九0磅ニ對スル	損害ノ割合ハ
			五割五分五厘

船舶ノ單獨海損ノ積荷ノ單獨海損ニ對スル根本的差違ヲ考フルニ船舶ニ對スル相當修繕費ハ其ノ保險價額ノ如何ニ拘ラス保險者之ヲ支拂フニ反シ積荷ノ損害ノ場合ニ在リテハ前述シタル所ニ依リ損害ノ割合ヲ算出シ之ヲ保險價額ニ應用シテ保險者ノ責任ノ範圍ヲ定ムヘキモノトス

若シ保險價額カ正荷ノ總價額ヨリ少キトキハ保險者ハ損害ノ割合ヲ保險價額ニ

乘シ損害額ヨリ小キ額ヲ支拂フヘク、保險價額カ正荷ノ總價額ヨリ多キトキハ保險者ハ損害ノ割合ヲ保險價額ニ乘シ損害額ヨリ多キ額ヲ支拂フモノトス、即荷主ハ實損額ヨリ或ハ少ク或ハ多ク填補ヲ受クルコトアルナリ、例ヘハ

海難ニ罹リタル正荷ノ總價額

總手取金

損害

即五割損

トスレハ若シ保險價額八磅トセハ保險者ハ保險價額ノ五割即六磅ヲ支拂フモノトス

保險價額ニ損害ノ割合ヲ乘スルノ原則ハ一七六一年 Lewis v. Knicker 事件ニ於テ確定シタル所ナリ、此ノ原則ニ依リテ保險者ハ自己ノ關セサル市價ノ變動ニ依リテ影響ヲ受クルコトナキニ至レリ、而シテ正荷ノ總價額 (Gross sound value) 及總手取金 (Gross proceeds) ヲ標準トスルノ原則ハ一八〇二年有名ナル Johnson v. Shelton 事件ニ於テ確定セラレタル所ナリ

煙草羊毛獸皮等ノ如キ海水ヲ吸收シ其ノ目方ヲ増加スル場合アリ、斯ノ如キ場合ニ於テハ保險者カ之カ爲メニ影響ヲ蒙ルカ如キコトナカラシメ(サルヘカラサル)ヲ以テ正荷ノ價額ヲ算出スルニ當リ其ノ増加シタル額ヲ控除スルヲ要ス、目方ノ増加シタルヤ否ヤハ次ノ如キ割合ノ方法ヲ以テ確定スヘキモノトス、即仕切狀(Invoice)面ニ依レハ正荷ノ重サ二千封ニシテ陸揚ノ際ノ目方ハ二千二百封トシテ引渡サレタリトセハ損害ヲ蒙リタル袋ノ仕切狀ノ目方二百五十封ハ以上ノ割合ニ依リ二百七十五封トシテ引渡スコトヲ要ス、仕切狀(Invoice)ノ目方ト陸揚目方トノ差額ハ即海水ノ爲メニ増加シタル目方ニ外ナラサルナリ、羊毛ノ場合ニ現實ニ増加シタル額ヲ確定スルコト能ハサルニ於テハ其ノ増加ノ割合ハ三分ト看做サル最初ノ袋ヨリ分離シタル煙草ニ付テハ其ノ分離シタル部分ノ海水ヲ吸收シタル割合ハ四分ノ一ト看做サル

或ル種ノ積荷例ヘハ綿糸ノ如キハ正荷トシテ賣却セムカ爲メ損害部分ヲ摘ミ取ル(Pick off)ヲ得策トスルコト往々アリ、斯クシテ確定スル損害ハ Pickin' claim ト云フ、珈琲ニ付テモ亦同様ニシテ損害ヲ受ケタル箱ハ之ヲ除去(claim)スルコトアリ、斯

クシテ確定スル損害ハ skimming claim ト云フ、以上ノ方法ニ依リテ確定セラレタル損害ハ割合ノ如何ニ拘ラス保險者之ヲ支拂フヲ通常ノ慣習トス

次ニ保險價額ヲ確定スル方法ニ付考フルニ保險價額ヲ保險證券ニ特定シタルトキ例ヘハ百包ノ羊毛ニ付千磅ノ保險ニ付シ一包ニ付保險價額十磅ト定メタルトキハ各包ノ保險價額ハ明瞭ニ確定セラレタルモノナレモ例ヘハ百包ノ羊毛ニ付其ノ保險價額ヲ前拂運賃ヲ含ミ(前拂運賃ハ積荷ノ價額中ニ包含スルモノナルハ前述ノ如シ)千磅ト定メタルトキハ各包ノ保險價額ハ如何ニシテ定ムヘキカノ問題ヲ生ス、此ノ如キ場合ニ於テハ原則トシテ仕切狀價額(invoice value)ヲ對照シ比例ノ方法ニ依リテ確定スルモノトス、全部ノ積荷ノ仕切狀價額ノ總額カ保險ニ付セラレタルトキハ損害アリタル包、箱、又ハ袋等ノ仕切狀價額ハ其ノ割合ヲ以テ保險價額ヲ有スルモノトス、然レモ仕切狀ニ依リテ保險價額ヲ算出スル能ハサル場合ニ於テハ正荷ノ價額ヲ標準トシ其ノ賣上勘定書(account sales)ノ價額ニ付同一原則ヲ適用シテ保險價額ヲ算定スルモノトス

損害ノ割合ヲ保險價額ニ應用シテ保險者ノ責任額ヲ確定シタル場合ニ於テハ損

害ノ結果支出シタル餘分ノ費用 (extra charge) (鑑定料ヲ含ム) ハ之ヲ損害額ニ加算スルヲ要ス、然レモ之レヲ加算スル場合ニ於テハ保險契約上保險金ヲ請求シ得ヘキ損害ヲ蒙リタル積荷ニ關シ支出シタル費用ニ限ルコトヲ要ス、而シテ正荷ノ積荷ニ關シ支出シタル費用又ハ保險契約ニ基キ保險金ヲ請求シ得サル損害ニ關シテ支出シタル費用ニ付テハ保險者ハ填補ノ責ニ任スルコトナキナリ、(Lysaght v. Coleman 1894)

被保險利益ノ一部ノ全損ニ依ル單獨海損即砂糖ノ「一バール」又ハ數個ノ箱カ流出シタルトキハ其ノ流出シタル部分ニ付前述シタル方法ニ依リテ確定シタル保險價額ヲ以テ保險者ノ責任額ト爲スナリ。

第六章 免責歩合 (Memorandum)

次ニ考フヘキハ所謂免責歩合ナリ、免責歩合ノ規定左ノ如シ

N.B.—Corn, Fish, Salt, Fruit, Flour and Seed, are warranted free from average, unless general, or the ship be stranded; Sugar, Tobacco, Hemp Flax, Hides and Skins, are warranted free from average

under Five Pounds per cent.; and all other goods, also the ship and freight are warranted free from average under Three Pounds per cent., unless general or the ship be stranded.

注意、穀類、魚類、鹽、果實、穀粉、種ハ海損擔保ノ責ニ任セス、但シ共同海損ノ場合又ハ船舶カ坐礁シタル場合ハ此限ニ在ラス。砂糖、煙草、麻苧、皮革ニ對シテハ五分以下其ノ他凡テノ貨物、船舶、及運賃ハ三分以下ノ損害ニ付テハ海損擔保ノ責ニ任セス、但シ共同海損ノ場合又ハ船舶坐礁シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス、免責歩合ハ一七四九年ニ保險證券ニ挿入セラレタルモノナリ、免責歩合トハ單獨海損ニ對スル保險金請求ニ付テハ船舶坐礁ノ場合ヲ除キ其ノ損害ノ全部又ハ一定割合以下ニ付保險者其ノ責ヲ免ルヘキ最少責任ノ限度ヲ規定シタルモノナリ、然レモ現時ニ於テハ船舶衝突ノ場合ノ外沈没又ハ燒失 (sunk or burnt) ナル語ヲ附加スルコトアリ、又時トシテハ「又ハ火災其ノ他他船ト衝突シタルニ因リテ生スル損害」(or on fire, or the damage be caused by collision with another ship or vessel) ナル語ヲ附加スルコトアリ、其ノ特約スル割合 (percentage) ニ付テハ大陸ノ保險ニ行ハルル所謂最少責任 (franchise) ト混交セサルコトヲ要ス、若シ損害額カ特定ノ割合ニ達シ若ハ其ノ

額ヲ超過シタルトキハ保險者ハ損害ノ全額ヲ支拂フヲ要シ最少責任 (Franchise) ノ場合ニ於ケルカ如ク其ノ割合ヲ超過シタル額ノミヲ填補スルモノニ非サルナリ免責歩合中ニ規定シタル品目ハ商業上ノ意義ニ解スヘキモノトス穀類 (corn) ハ豌豆 (peas) 大豆 (beans) 及麥芽 (malt) ヲ包含シ米 (rice) ヲ包含セス (Scott v. Bourlillon 1806) 鹽 (Salt) ハ硝石 (salt petre) ヲ包含セス (Journu v. Bourdieu 1787) 共同海損ニ非サル海損 (Average unless General) 中ノ所謂海損 (Average) ナル用語ハ單獨海損 (Particular average) ヲ意味ス免責歩合ノ割合ニ達シタルヤ否ヤヲ確定セムカ爲メニハ單ニ保險ノ目的ノ單獨海損——一部ノ損害——ノミヲ考慮スルヲ要ス故ニ共同海損タル損害又ハ鑑定料 (survey fee) ノ如キ損害立證ノ爲メニ支出シタル余分ノ費用 (extra charge) ノ如キハ損害ノ割合ヲ決定セムカ爲メニハ總テ之ヲ單獨海損タル損害ニ加算スルヲ得ス然レトモ余分ノ費用ハ一定割合ニ達シタル場合ニ限り保險者之ヲ支拂フモノトス

所謂特別費用 (Particular charge—special charge) トハ特定ノ利益ノ爲メニノミ支出シタル費用ニシテ第一ニ被保險者又ハ其ノ代理人カ保險事故ノ爲メニ生スル損害ニ對シ保險ノ目的ヲ保存シ又ハ回復スルカ爲メニ支出シタル費用ナルヲ要ス此ノ如キ費用ハ前述シタル救援救助約款 (sue and 'abour clause) ニ依リテ保險者ヨリ填補ヲ受クルヲ得ヘシ救援救助約款ニ依ル費用ハ保險者ノ引受ケタル損害ヲ防止シ又ハ輕減スヘキ目的ヲ以テ支出シタル費用ナルヲ要スルハ疑ヲ容レサルナリ第二ニ特別費用ハ保險事故ノ結果必要的ニ支出シタルモノナルトキハ救援救助約款ニ依ラス保險事故ニ因リテ生シタル損害トシテ保險者ヨリ填補ヲ受クルコトヲ得ヘシ

避難港ニ於テ支出シタル特別費用 (particular charge) ハ免責歩合ニ達シタルヤ否ヤヲ確定スルニ當リ之ヲ損害額ニ加算スルヲ得ス (Kidston v. Empire Marine Ins. Co, Ltd, 1866) 保險價額カ現實ノ價額ヨリ小ナルトキハ保險者ハ保險價額ノ現實ノ價額ニ對スル割合ト同一ノ割合ヲ以テ特別費用ノ一部ヲ支拂ヒ然ラサル場合ハ保險者ハ特別費用ノ全額ヲ支拂フモノノ如シ

避難港ニ於ケル特別費用ニ付一例ヲ舉クレハ五分以下單獨海損不擔保ヲ條件ト

シテ皮ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ船舶暴風ニ遭遇シ避難港ニ入津シ皮ハ海水ノ爲メ損害ヲ受ケ且其ノ受ケタル損害ノ二分ノ費用ヲ支出シタリシカ陸揚港ニ至ルニ及ヒテ四分ノ損害ニ達セリ此ノ場合ニ於テハ保險者ハ救援救助約款 (one and labour clause) ニ基キ二分ノ費用ニ付填補ノ責ニ任ス然レトモ費用 (charge) ト單獨海損 (particular charge) トヲ併算スルトキハ(六分ニ達ス)五分ノ割合ヲ超過スルコトトナルモ保險者ハ單獨海損(四分)ニ對シ填補ノ責ニ任スルコトナシ保險事故ノ爲毀損シテ到達港ニ到達シ保險者填補ノ義務ヲ有スル積荷(再)ヲ検査スル爲メ到達港ニ於テ支出シタル費用ニ付テハ單獨海損自體カ一定割合ニ達シタル場合又ハ費用カ救援救助約款ニ基キ支出シタル場合ニ限り保險者之ヲ支拂フ責ニ任ス其ノ保險者ニ於テ支拂フヘキモノナル場合ニ於テハ保險者ハ保險價額カ正荷ノ價額ヨリ少ナキ場合ト雖モ其ノ現實ニ支出シタル費用ヲ支拂フモノトス

航海中損害カ時ヲ異ニシテ連續シテ發生シ而モ各損害カ所定ノ割合以下ナルトキハ之ヲ總計シテ保險者填補ノ責ニ任スヘキハ疑ヲ容レサル所ナリ船舶ノ航海保險及積荷並運賃ノ航海保險ニ付テハ疑モナク行ハルル所ナリ何トナレハ損害ノ精算ハ航海ノ終リニ於テ行ハルルヲ以テナリ然レトモ船舶ノ期間保險ニ於テ三分ノ割合ニ達シタルヤ否ヤヲ決定セムカ爲メ船主ハ一個ノ往復航海 (one round voyage) 中ニ生シタル損害ノミヲ加算スルヲ要シ保險期間中ニ生シタル損害ヲ加算スヘキモノニ非サル旨會テ判決セラレタル所ナリ (Stewart v. Merchant's Marine Ins Co., 1885) 此ノ點ニ付倫敦保險業者協會ハ特別約款ヲ設ケ一個ノ往復航海 (one round voyage) ノ意義ヲ決定シ居レリ即左ノ如シ

百分ノ三以下ノ單獨海損ヲ擔保セサル條件ハ每航海ヲ以テ各別ニ保險セラレタルモノト看做シ之ヲ適用ス此ノ場合ニ於テ每航海ノ始期ニ付テハ被保險者ノ選擇ニ從ヒ或ハ船舶ニ積荷ノ積込カ着手セラレタル時若クハ船積地ニ向ヒ底荷ヲ以テ發航セル時ヲ以テスヘク其ノ終了期ニ付テハ船舶カ其ノ往航及復航ヲ完了セル時(若途中ニ於テ底荷ノ儘航海セル時ハ之ヲ包含ス)若ハ二個ノ積荷ヲ運送シ且積卸シタル時ノ内何レニテモ其ノ先ニ起リタル時ニ至ル迄引續キ繼續スルモノトス而シテ尙何レノ場合ニ於テモ更ニ積荷ノ積込ニ着手セル

時若ハ船積港ニ底荷ヲ以テ發航セル時ニ至ル迄繼續スヘシ、修繕ヲ受クル爲メ底荷ヲ以テ航海セル時ハ其ノ修繕港ニ於テ積荷ヲ積込ムコトアルモ之ヲ以テ船積港ヘノ航海ト看做サス、前ニ記載セル百分ノ三ノ單獨海損ヲ計算スルニハ前述ノ一航海中ニ起リシモノニ限り此保險契約ニ依リ保險者ノ責任カ始マル以前ニ被リタルモノト其始リタル以後ノモノヲ合計スルコトヲ得、但保險者ハ其責任ノ始マリタル以後ノ分ニ對シテノミ之カ填補ノ責ニ任スヘキモノトス航海ノ始期ハ此契約若ハ前ノ契約ニヨリ保險金ヲ支拂ヒ又ハ支拂フヘキ他ノ航海ヲ包含スルモノトシテ之ヲ定ムルコトヲ得ス

第一節 海損約款(Average clause)積荷口分(Series)及分割評價(Separate valuation)

船舶及積荷ハ其ノ噸數及容積ニ於テ増大スルニ至リタルカ故ニ免責歩合 (Memo-randum) ハ其ノ割合 (percentage) ニ於テ比較的小ナリトスルモ船舶及積荷ノ價額カ巨額ナルカ爲メ被保險者ニシテ損害ノ填補ヲ受ムトセハ其ノ損害ノ巨額ナルヲ要

スルニ至レリ、管船舶ノ坐礁沈没及燒失シタル場合ハ被保險者ニ於テ填補ヲ受クルコトヲ得ヘキハ論ヲ俟タサルナリ、例ヘハ船舶ノ價額ヲ十萬磅ト評價シタル場合ニ於テハ三千磅以下ノ損害ニ付テハ之カ填補ヲ受クルコトヲ得ス、一個ノ商品タル積荷ニ付又ハ一個ノ評價 (one valuation) ヲ以テ價額ヲ定メタル積荷ニ付亦然リトス、故ニ免責歩合ノ嚴格性ヲ緩和セムカ爲メ船舶保險證券中船體 (Hull) 汽機 (Machinery) 及艙裝品 (Fittings) 等ニ對シ夫々別個ノ評價ヲ爲シ「分損ハ毎評價ニ付又ハ全體トシテ支拂フコト」(Average payable on each valuation separately or on the whole) ナル約款ヲ挿入スルニ至レリ、之ト同一理由ニ因リ海損約款 (Average clause) ハ積荷保險證券中ニモ亦挿入セラルルニ至レリ、海損約款ノ效果ハ免責歩合ノ規定ノ割合ニ達シタリヤ否ヤヲ確定セシメムカ爲メ積荷ヲ數個ノ小口 (smaller division) 卽所謂積荷口分 (series) ニ分割シ而シテ損害額カ一口分 (a series) ニ付所定ノ割合ニ達シタル場合ニ於テ當該口分ニ付損害填補ヲ受クルコトヲ得ルニ在リ、

海損約款ヲ挿入シテ以テ口分ノ方法ヲ取ルニ至リタル起原ハ疑モナク免責歩合ノ規定ノ割合ニ達シタリヤ否ヤヲ確定セムカ爲メ積荷ヲ總テ百磅位ノ小口 (lot) ニ

分割スルニ在リシト雖モ現時ニ於テハ競争劇甚ノ結果其ノ基本觀念ヲ喪失スルニ至レリ而シテ單獨海損カ積荷全體ヲ通シテ所定ノ割合ヲ超過スルニ於テハ海損約款ハ必然ノ結果其ノ效力ヲ失フハ勿論ナリ海損約款ハ保險ノ目的ニヨリテ差異アリ例ヘハ綿花ハ每十包 (Ten bales) ニ付分損ヲ支拂ヒ茶ハ十箱 (Ten chests) 二十箱半又ハ四十箱ニ付濠州ヨリノ羊毛ハ每包ニ付藍ハ每包ニ付「ココア」ハ十袋 (Ten bags) ニ付分損ヲ支拂フカ如シ

海損約款ニ依レハ口分 (series) ハ陸揚ノ順序ニ依リテ計算スト約スルヲ通例トス然レモ一般慣習トシテハ積荷ヲ陸揚スルニ當リ其ノ容積ノ大ナルモノ又ハ荷印ノ大ナルモノナルトキハ被害積荷ヲ總テ別途ニ區分シ之ヲ最後ニ陸揚スルモノトシ被害積荷ハ總テ船渠陸揚報告書 (dock landing account) ノ最後ニ記入スルヲ例トシ居レリ之レ一見口分 (series) ノ計算上保險者ニ困難ヲ感セシムルカ如キモ此ノ方法ニ依ラサルトキハ例ヘハ海水ヲ以テ濡損シタル米俵ト何等損害ナキ正荷トカ同一吊索ニ於テ接觸シタル爲メ損害ヲ延蔓スルニ至ルカ如キ弊ナキニ非サルナリ積荷ノ個數ニヨリテハ完全ニ口分スルコト能ハサルコトアリ例ヘハ五十三袋

ノ「ココア」ニ於テ每十袋ニ付分損ヲ生シタル場合ニ於テ每十袋ノ口分五個ニ分ツコトヲ得ルモ獨リ三袋ニ付テハ如何ニ取扱フヘキヤ斯ノ如キ端數ヲ「テール」セリース (tail series) ト云ヒ「テール」セリースニ生シタル損害カ其ノ價額ニ對スル所定ノ割合ニ達シタル場合ニ限り當該「テール」セリースニ對スル單獨海損ニ付保險金ヲ請求シ得ヘキヲ實際上ノ慣例トス故ニ前例ニ於テ三袋ノ「ココア」ノ價額ニ付三分ノ損害アリタルトキハ他ノ十袋ノ「セリース」ニ對スル損害カ三分ニ達セサル場合ト雖モ尙三袋ノ損害ニ付テハ保險金ヲ請求スルヲ得ヘキナリ

第二節 unless general.

免責歩合中 unless general. ナル用語アリ此ノ用語ハ若シ共同海損ヲ構成シタル場合ニ於テハ本特約ハ其ノ效力ヲ失フトノ意味ニ非ス unless ノ代リニ except トスルヲ可トス故ニ明瞭ニ爲サムカ爲メニ免責歩合ノ最後ノ部分ヲ「其ノ他總テノ貨物船舶及運賃ハ共同海損ヲ除キ又ハ船舶坐礁シタル場合ニ非サレハ三分以下ノ分損ニ付填補ノ責ニ任セス」ノ意義ニ換言スルヲ得ヘシ

第三節 坐礁 (Stranding)

免責歩合ニ關スル特約ヲ研究スルニ當リ左ニ其ノ效力ヲ失フヘキ事故ニ付略述セムニ、船舶坐礁シタル場合ニ於テハ、保險者ハ其ノ損害ノ割合如何ニ拘ラス、單獨海損ニ付填補ノ責ニ任シ其ノ損害ノ坐礁ニ基因シテ生シタルト否トヲ問ハサルナリ、例ヘハ船舶坐礁シタリシモ何等損害ヲ受ケサリシニ其ノ後又ハ以前航海中暴風ニ遭遇シ「ボート」及艤裝品ヲ流失シタル場合ニ於テハ該損害カ坐礁ニ基因セサルニモ拘ラス、船體保險者ハ免責歩合ノ規定ニ基キ其ノ損害ニ付填補ノ責ニ任スルナリ、尙ホ汽船カ坐礁スルニ至リシモ海水艙内ニ進入スルコトナクシテ離礁シタル場合ニ於テ其ノ以前又ハ其ノ以後ニ於テ暴風ノ爲メニ積荷損害ヲ蒙リタルトキハ其ノ損害ノ直接坐礁ニ基因スルモノニ非サルニ拘ラス、積荷保險者ハ損害ノ全部ニ付填補ノ責ニ任スルナリ、茲ニ於テ所謂坐礁トハ如何ナル意義ナルヤヲ明瞭ニ確定シ置クヲ要ス、即免責歩合ニ於ケル坐礁トハ偶然又ハ異常ノ出來事ノ結果船舶カ土地其ノ他ノ障害物ト接觸シ引卸スコト困難ナル状態ニ於テ定着

スルヲ云フ、接觸シタル場所ハ海岸ナルコトアリ、岩礁ナルコトアリ又ハ港床マテ推シ流サレタル杭ナルコト等アリ、然モ坐礁ノ構成ニハ二個ノ要素アリ

第一、 膠砂 (Grounding) カ偶然 (accident) 又ハ異常 (unusual) ナルヲ要ス、例ヘハ高潮ノ時ノミ入港シ得ル港ニ於テ通常ノ場所及方法ニ於テ膠砂シタルモノナルトキハ之レ所謂坐礁ニ非ス、膠砂ニシテ異常ノ場所及方法 (unusual place and unusual manner) ニ於テ惹起シタルモノナルトキハ之レ即坐礁ナリ

第二、 坐礁ナルカ爲メニハ障害物上ニ現實ニ乗上ケ定着スルヲ要シ單純ナル觸礁 (touch and go) ナルヲ得ス、如何ニ劇烈ナルモ單ニ土地ニ接觸スルノミニテハ坐礁ニ非ス、又船舶カ一時的ニ舟路ノ進行ヲ延滞スルモ坐礁タルヲ得ス、又船舶カ泥土ニ突入シ又ハ砂洲ニ衝突スルモ坐礁ニ非サルナリ、而シテ船舶カ引卸スコト困難ナル状態ニ於テ乗上ケ定着スルニ要スル期間ニ付テハ一概ニ定ムルヲ得サルモ現實ニ乗上ケテ定着スルヲ要ス、其ノ幾何期間乗上ルヲ要スルヤハ未タ判決ノ依ルヘキモノナシト雖モ船舶乗上カ一分半ナル場合ハ未タ坐礁ヲ構成スルモノニ非スト判決セラレタリ (Mc Dougal v. Royal Exchange Ass. Corporation 1816)

船舶ノ期間保險又ハ航海保險ニ付テハ倫敦保險業者協會約款中ニ左ノ約款ヲ挿入シ通常ノ免責歩合ノ約款ヲ制限シ居レリ

「三分以下ノ單獨海損ハ之ヲ擔保セス、但シ船舶ノ坐礁沈沒火災又ハ他船トノ衝突ニ因リテ生シタル損害ハ保險者之カ填補ノ責ニ任ス、尙ホ坐礁後船底ヲ検査スルノ費用ニ付テハ坐礁ニ因リテ何等損害ナキ場合ト雖モ其ノ正當ニ支出シタルモノナル限り保險者之カ填補ノ責ニ任ス」

第四節 沈沒 (“sunk”)

前述ノ如ク坐礁ナル用語ノ後ニ「沈沒又ハ燒失」(sunk or burnt)ナル用語ヲ記載スルヲ通常トス、沈沒ナル用語ハ實際上余計ノ語ナリ、何トナレハ實際上沈沒シタル船舶ハ事實上ニ於テ坐礁シタルモノナラサルヘカラサレバナリ、沈沒ナル用語ノ意義ニ付テハ解釋ノ余地ナカルヘキモ裁判所ノ問題ト爲リタルハ、Quebecヨリ倫敦マテ燐寸ノ軸木ヲ塔載シタル船舶ニ關スル訴件ナリ、即海水甲板ニ浸入シ大橋(main mast)マテノ船尾ハ海水ヲ以テ浸潤セラレ船長室及客室上ノ高甲板(hurricane deck)モ

亦浸水ヲ受ケタル船舶カ Thames 川ニ到達シ其ノ積載積荷ハ著シク濡損ヲ蒙リタリシモ乾燥シタル積荷ノ一部ハ之ヲ陸揚シタリ以上ノ如キ場合ニ於テ被保險者ハ積載積荷ノ性質ヨリ之ヲ見レハ船舶ハ沈沒シ得ル限り沈沒シタルモノナルヲ以テ免責歩合ノ約款ノ意義ニ於ケル沈沒ニ相當スルモノナリト主張シタリシモ裁判所ハ審理ノ結果積荷カ更ニ海水ニ浸潤シタラムニハ船舶ハ更ニ深ク海中ニ沈沒シタルヘシト認メ本件ハ免責歩合ノ意義ニ於ケル沈沒ニ非サル旨ヲ判決セリ (Bryant and May v. London Ass. corporation 1836)

第五節 燒失 (“Burnt”)

免責歩合ノ例外ナル燒失ニ付テハ先ツ船舶カ學術上燒失シタリト認ムヘキ事情ナリヤ否ヤヲ考慮スルヲ要ス、往時ニ於テハ船舶自體カ火災ニ罹リタル場合ニ於テハ其ノ火災ノ如何ニ些々タルニ拘ラス(例ヘハ船梁(Beam)ノ燒失シタルカ如キ)之ヲ以テ免責歩合ノ例外ニ對スヘキモノトセラレタリシモ *Glenlivet 1893* 事件ノ判決ニ依リテ此ノ觀念ハ一掃セラレ燒失トハ陪審官カ當該船舶ヲ以テ燒失船舶

ト認ムヘキ程度ニ於テ燒失シタルモノナルコトヲ要スト判決セララルニ至レリ
 此ノ判決ノ結果免責歩合ニ關スル例外ノ嚴格ナルヲ緩和スル目的ヲ以テ從來記
 載シタル燒失 (Burnt) ナル用語ノ次ニ又ハ其ノ代リニ「又ハ火災ニ罹ル」(or on fire) ナ
 ル文字ヲ挿入スルニ至レリ

第六節 衝突 (Collision)

「燒失又ハ火災ニ罹リ」(Burnt or on fire) ナル用語ノ次ニ「又ハ衝突」(or in collision) ナル用語
 ヲ免責歩合ノ規定中ニ挿入セラルルコトアリ、此ノ場合ニ於テハ衝突ハ他船トノ
 衝突ノミニ限ラレ船渠ノ門及其他此ニ類似スル物體トノ衝突ヲ包含セサルモノ
 ナルコトヲ注意セサルヘカラス、(Richardson v. Burrows 1880) Chandler v. Blogg 1897 事件
 ニ依レハ沈没シタル船舶ト衝突シ其ノ結果沈没シタルトキハ約款ノ意義ニ於ケ
 ル衝突ナリト判決セリ、尙碇泊中ノ他船ノ錨ト接觸シタル場合モ亦船舶 (vessel) ト
 ノ衝突ニ外ナラスト判決セリ (Margets v. Ocean Accident, etc, Corporation, Ltd, 1901)

第七章 共同海損 (General Average)

共同海損賠償ノ權利並共同海損分擔ノ義務ハ海上保険トハ全然別個ノ觀念ナル
 ハ之ヲ明瞭ニ了解スルヲ要シ且ツ銘記セサルヘカラサル事項ニ屬ス (Per Barnes, J.,
 in The Brigella 1893) 共同海損ハ「ロード」海法 (Rhodian Law) ノ一部ヲ構成シ海上保険ノ
 未タ發達セサル幾世紀前ニ於テ既ニ存在シタルモノナリシナリ、故ニ共同海損ノ
 目的ヲ考察スルニ當リテハ吾人ハ海上保険ナル觀念ヲ全然念頭ヨリ撤去スルヲ
 必要トス

第一節 共同海損ノ定義

海上保険法第六十六條ノ規定ニ依レハ

- (一) 共同海損トハ共同海損行為ニ因リテ生シタル損害又ハ其行為ノ直接ノ結
 果タル損害ヲ云フ、共同海損ハ共同海損タル費用並共同海損タル犠牲ヲ包含
 ス

(二) 共同ノ危険ニ曝サレタル財産ヲ保存セムカ爲メ危険ノ時ニ當リ任意ニ且ツ相當ニ非常犠牲ヲ爲シ又ハ非常費用ヲ支出シタルトキハ共同海損行爲アリタルモノトス

(三) 共同海損アリタルトキハ被害當事者ハ海上法ノ條件ニ從ヒ他ノ利害關係者ニ對シ一定割合ノ分擔額ヲ請求スル權利ヲ有ス、以上ノ分擔額ハ之ヲ共同海損分擔額ト云フ

以上述フルカ如ク共同海損ヲ分擔スヘキ損害ハ之ヲ二種ニ分ツコトヲ得

甲、財産ノ犠牲 (Sacrifice of property)

乙、費用 (Expenditure)

此等ノ事項ヲ考究スルニ先チ共同海損ノ要件ヲ説明スベシ

第二節 共同海損ノ要件

一、共同危険ノ存在スルコト

二、犠牲ハ任意ニ出ツルモノナルコト換言スレハ海上危険ニ因リテ生スルコト

アルヘキ損害ニ對シ人ノ故意ノ行爲ニ出ツルモノナルコト

三、合理的ニ爲サレタルモノナルコト、犠牲ニ在リテハ慎重ノ行爲ニ出テタルモノナルコトヲ要シ費用ニ在リテハ公平且ツ合理的ニ支出セラレタルモノナルコトヲ要シ此等ノ要件ノ具備セラレル場合ニ限り共同海損トシテ許容セラレルモノトス

四、非常 (extraordinary) ナル性質ヲ有スルモノナルコトヲ要シ運送契約ノ履行ニ必要ナルモノナラサルコトヲ要スルコト

五、犠牲又ハ費用ノ目的ハ共同ノ危険ニ曝サレタル財産ヲ保存スルニ在リ、船舶ノミノ安全ノ爲メナルヘカラス、積荷ノミノ安全ノ爲メナルヘカラス又危険ノ終了 (Completion of the adventure) ノミヲ目的トスルモノニモ非サルコトヲ要スルコト、此ノ最後ノ要件ハ諸外國ノ法律トハ明ニ相違シ居レリ、外國法ニ於テハ危険ノ終了 (completion of adventure) 又ハ共同利益 (General benefit) ヲ以テ共同海損行爲ノ目的ト爲シ居レリ

六、損害ハ共同海損行爲ノ直接又ハ合理的ノ結果ナルコト、例ヘハ投荷ノ場合

ニ於テ荷役ヲ爲ス作業中海水船内ニ浸入シ爲メニ積荷ニ及ホシタル損害ハ投荷セラレタル積荷自體ト等シク共同海損ニ屬ス、何トナレハ以上ノ如キ損害發生ノ危険即發生スル事アルヘシトノ豫見ハ最初犠牲ヲ爲サムト決心シタル者ノ念頭ニ存シタリシモノナレハナリ (cf. Anglo-Argentine Live Stock Agency v. Temperley 1899 Richard Lowndes 氏カ有名ナル其ノ著共同海損法 (The Law of General Average) ニ於テ曰ク、共同海損ニ於テ決定ヲ要スルモノハ如何ナルモノカ凡テノモノノ利益ノ爲メニ與ヘラレタルヤニ在リ、而シテ與フルトハ與ヘントスル意思ヲ常ニ含蓄スヘキヲ以テ茲ニ吾人カ確認ヲ要スルモノハ他ナシ即如何ナル損害カ犠牲行爲ノ自然且ツ正當ナル結果ト看做スヘキヤニ在リ、換言セハ船長カ其ノ犠牲行爲ヲ決行セシ際ニハ如何ナルモノヲ以テ凡テノモノノ爲メニ與ヘムコトヲ當然ニ思惟シタリシヤ之レナリ、故ニ若シ犠牲行爲後ニ於テ一ノ損害ヲ生シ而シテ其ノ損害カ船長ノ犠牲行爲ノ當時曾テ思惟セラレシモノナルトキハ此種ノ損害ノ發生ハ船長カ當然ニ豫想シ或ハ正當ニ豫想スヘキモノタリシヤ否ヤヲ觀察スルコト最モ緊要ナリト

第三節 犠牲 (Sacrifice)

第一款 船舶ノ犠牲 (Sacrifice of Ship)

船舶材料ノ犠牲ニ付テ注意ヲ要スルハ其ノ通常ノ方法又ハ故意ノ方法ニ依リ船舶又ハ屬具ヲ使用スルニ依リテ生スル損害ハ其ノ使用ノ過度ナル場合ト雖モ之ヲ以テ共同海損ヲ構成スルモノニ非サルコト之レナリ、然レトモ危険ノ時ニ當リ船長ハ故意ニ船舶ノ一部ヲ破壊シ又ハ船舶ノ屬具ヲ破毀又ハ損傷シテ其ノ本來ノ用途ニ非サルコトニ使用シタル場合ニ於テハ其ノ共同安全ノ爲メニ爲サレタル損失又ハ損害ナル以上共同海損トシテ分擔セラルルモノナリ、例ヘハ漏口ヲ閉鎖セムカ爲メ又ハ暴風ノ際波浪ノ爲メ破壊セラレタル艙口ヲ覆閉セムカ爲メ帆ヲ使用スル場合ノ如シ、船舶犠牲ノ例トシテハ船渠カ垂直ニナル程傾キタル船舶ヲ正位ニ復サンカ爲メ檣、圓材、及帆ヲ切斷スル場合、危険ノ地位ニ坐礁中發動機ノ回轉ノ爲メ推進器及軸ニ損害ヲ生シタル場合、機關ノ回轉中ニ石炭ヲ消費シタル場合、火災ノ豫防ノ爲メ船舶ニ穴ヲ穿チタル場合等ヲ舉クルヲ得ヘシ

賠償ヲ受クヘキ金額

船舶又ハ船舶ノ機關ノ一部犠牲ノ爲メ共同海損トシテ賠償ヲ受クヘキ金額ハ相當ノ修繕費ヨリ新舊交換費トシテ通常ノ控除ヲ爲シ(若シアレハ)タルモノナリ、然レトモ共同海損清算ヲ爲スニ當リ修繕ヲ終了セサルカ如キ特別ノ場合ニ在リテハ共同海損タル損害額ハ之カ概算ヲ基礎ト爲スヲ要ス

以上ハ船舶ノ犠牲カ他ノ事項ト混同セサル場合ヲ述ヘタルモノナレモ單獨海損ニ次テ共同海損犠牲ヲ生シ兩者相俟テ船舶ヲ不使用ニ至ラシムル場合アリ、即例ヘハ船舶暴風ノ爲メ著シク損害ヲ蒙リタルニ更ニ他ノ暴風ニ遭遇シ船梁カ垂直ニナル程船體傾斜シタルカ爲メ船體ヲ正位ニ復スルカ爲メ橋及屬具ヲ切斷シテ漸ク避難港ニ到達シタルニ船舶ハ最早使用ニ堪エサルニ至リ茲ニ賣却セラルルニ至リタル場合ニ於テハ共同海損ハ如何ニシテ之ヲ計算スヘキカ本問ハ *Henderson v. Shanklan* 1896 事件ニ於テ問題トナリシカ本訴件ニ於テハ單獨海損修繕費ノ概算額ヲ船價ヨリ控除シテ計算スヘキ旨ヲ判決シタリ、單獨海損修繕費ノ概算額ヲ船價ヨリ控除スルニハ共同海損犠牲ノ起ル直ク前ノ船價ヲ算定スルモノニシ

テ該船價ト賣却代金トノ差額ハ則チ共同海損犠牲ノ額ニ外ナラサルナリ、左ニ四設的數字ヲ以テ之ヲ例示セムニ

- 船舶ノ損害ナキ狀況ニ於ケル價額 一〇、〇〇〇磅ヨリ
- 單獨海損修繕ノ見積額 七、五〇〇磅
- ヲ控除スレハ
- 共同海損犠牲ノ起ル前ノ船價ハ 二、五〇〇磅
- ニシテ船舶賣却價額 二〇〇磅
- トスレハ共同海損犠牲 二、三〇〇磅
- トシテ賠償ヲ受クヘキ金額ハ 二、三〇〇磅
- トナル勘定ナリ

第二款 積荷及運賃ノ犠牲

投荷ハ共同海損犠牲ノ最モ單純ナルモノノ一ナリ、投荷トハ危險ニ際シ船足ヲ輕クシ又ハ船舶ヲ救助セムカ爲メ積荷ヲ海中ニ投棄シ又ハ橋、圓材、索具、若ハ帆ヲ切

斷スルヲ云フ、然レモ投荷トハ積荷ノ一部ヲ海中ニ投棄スルヲ通常トセリ、投荷ニ關スル最初ノ事件トシテ傳フル所ニ依レハ「ゼームス」一世ノ御代ニ於ケル *Mouse's Case* 之ナリ、本件ニ於テハ渡船ノ乗客ガ危險ニ際シ自己ノ生命ヲ救助セムカ爲メ投荷シタリシカ裁判所ニ於テハ渡船ハ積ミ過キタルモノニ非ス且ツ其ノ損害ハ渡船夫ノ過失ニ因ルモノニモ非サルヲ以テ當該投荷ハ適法ニ爲サレタルモノナリト判決セリ

甲板積荷ヲ投荷シタル場合ニ於テハ該積荷カ甲板ニ積載スルヲ商慣習上一般ニ承認セラルル場合(材木ノ如ク)ニ於テ之カ損害ヲ分擔スヘキモノトス、之ニ反シ以上ノ慣習ナクシテ其荷主カ單ニ船主トノ合意ニ依リ甲板ニ積載シ之ヲ投荷シタルモノナルトキハ他ノ出荷主ニ於テ之カ損害ヲ分擔スヘキ責ニ任スルコトヲ合意シタル場合ノ外他ノ出荷主ヲシテ損害ヲ分擔セシムルノ權利ヲ有セサルナリ、而シテ船主ノ分擔ノ義務ハ投荷シタル積荷ヲ甲板ニ積載スヘキコトヲ約シタル契約條項ニ準據スヘキモノトス

火災ニ對スル豫防ノ爲メニ爲シタル注水ニ依ル損害ハ共同海損 (*Whitcross wire Co*

v. Savill 1882)ナルモ注水ニ因リテ損害ヲ蒙リタル積荷自體カ注水ノ際既ニ燃燒シ居リタルトキハ共同海損トシテ賠償ヲ受クルコトヲ得ス(但ラ積例ヘハ石炭ノ如キニ付テハ *Greenshields v. Thomas Stephens & Sons: The Knight of the Garter* 1908 參照)從テ火災ヲ起シタル船舶ヨリ陸揚セラレタル積荷ヲ鑑定スルニ當リテハ火災ニ因ル損害ト除外スヘキ注水ニ因ル損害トヲ區別スルニ最大ノ注意ヲ拂フコトヲ要スルナリ

更ニ共同海損ヲ分擔スヘキ積荷ノ犠牲トシテハ石炭ニ不足ヲ告ケ積荷ヲ燃料ノ代リニ使用シタル場合ヲ擧グルヲ得ヘシ、但シ此ノ場合ハ最初ノ石炭カ十分積載セラレタルヲ要スルナリ

積荷ノ犠牲(例ヘハ投荷)カ同時ニ運賃ノ喪失ヲ包含スルモノナルトキハ其ノ犠牲ト爲リタル運賃モ亦共同海損トシテ賠償ヲ受クルコトヲ得ヘシ

第三款 積荷ノ賠償額

積荷ヲ犠牲トシタル場合ニ於テ共同海損犠牲額ハ如何ニシテ計算スヘキカヲ考

フルニ積荷ノ投荷其ノ他ノ犠牲ニ付テハ危険ノ終了シタル港ニ於テ陸揚ヲ爲ス日 (on the day of discharge) ニ於ケル正味價額 (net value) ヨリ積荷カ犠牲ト爲ラスシテ到達シタリトセハ支出シタルヘカリシ費用例ヘハ運賃前拂ニ非サル場合割引料關稅陸揚費用並賣却費用ヲ控除シタル額ヲ以テ共同海損タル損害額トス然レモ船舶内ノ殘存積荷カ投荷セラレタル積荷ニシテ投荷セラルルコトナク船舶内ニ積荷セラレタリトセハ損害ヲ蒙リタルヘカリシ原因ノ爲メ損害ヲ蒙リタル狀況ニ於テ到達港ニ到達シタル場合ニ於テハ投荷ノ共同海損ヲ計算スルニ當リテハ投荷カ他ノ積荷ト同一程度ニ於テ損害ヲ受ケ到達港ニ到達シタルモノト推定スルヲ要スルナリ (Fletcher v. Alexander 1868) 積荷ニ對スル損害ノ場合ニ在リテハ賠償額ハ積荷ノ正味手取金 (net proceeds) ト積荷カ正荷ト假定シタル場合ノ正味手取金トヲ對比シテ之ヲ確定スルモノトス而シテ積荷カ油樽又ハ酒樽ニ於ケルカ如ク通常漏泄スルモノナル場合ハ斯ル通常ノ漏損ハ之ヲ價額ヨリ控除シテ共同海損ヲ分配スヘキモノトス通常ノ瑕疵又ハ破損ニ付テモ亦同様ナリ

第四款 運賃ノ賠償額

船主ノ危険ニ屬スル運賃ノ犠牲ニ對スル共同海損賠償額前拂運賃ハ積荷ノ價額中ニ包含セラルハ積荷カ犠牲ト爲ラサリセハ取得スヘカリシ總運賃ヨリ船主カ其ノ運賃ヲ取得スルカ爲メニ支出スヘキ費用ニシテ犠牲ノ結果支出スルヲ要セサリシ費用ヲ控除シタル額トス若シ犠牲後ニ於テ同一航海中寄航港ニ於テ代替積荷ヲ積載シタル場合ニ於テハ代替積荷ニ付取得シ得ヘキ運賃ヨリ之ヲ取得スルカ爲メニ支出シタル費用ヲ控除シタル額カ犠牲トナリタル積荷ノ運賃ナラサルヘカラス

第四節 費用 (Expenditure)

共同危険ヲ免レムガ爲メ危険ニ際シ正當ニ支出シタル非常費用 (Extraordinary) ハ共同海損トシテ分擔セラルルモノトス

共同海損費用トシテ通常例示セラルルハ船舶カ共同安全ノ爲メ避難港ニ入津ス

ル場合ニ於ケル入港料 (inward port charge) 水先案内料 (Pilotage) 港税 (harbour dues) 等之レナリ、加之修繕ヲ爲スカ爲メ積荷ヲ陸揚スルヲ要スルコトアルヘク、積荷ノ再積込ヲ要スルコトアルヘク、又ハ再航海ヲ爲ス爲メニ避難港出港ノ費用モ必要トスルニ至ルヘク、船舶ニシテ漏損スルニ於テハ排水ヲ爲スカ爲メ海岸作業ヲ必要トスルコトアルヘキナリ

避難港ニ入津スルヲ必要トスル二個ノ原因アリ、一ハ共同海損犠牲ノ結果入津スル場合ナリ、例ヘハ坐礁船舶ヲ浮揚セムカ爲メ發動機ヲ廻轉シタル結果推進器翼 (propeller blades) ヲ破壊シ又ハ機關ニ損害ヲ與ヘタルカ爲メ入港スル場合又ハ船足ヲ輕クセムカ爲メ櫓ヲ切斷シタルカ爲メ入港スル場合ノ如シ、二ハ單獨海損ノ結果入港スル場合ナリ、例ヘハ漂流物其ノ他ニ推進器ヲ搦ミタルカ爲メ推進器翼 (propeller blades) 及軸 (shaft) ヲ破壊シ又ハ暴風ノ爲メ船櫓ヲ切斷シタルカ爲メ入港スル場合ノ如シ

共同海損ノ結果入津シタルヤ單獨海損ノ結果入津シタルヤハ英國法上其ノ費用ヲ如何ニ取扱フカノ標準トナルモノニシテ各個ノ場合ニ於テ之ヲ基礎トシテ曲

直ヲ判斷スヘキモノナルカ故ニ入津原因ノ共同海損ナルヤ單獨海損ナルヤハ之ヲ確定スルコトヲ緊要トス

英國法ニ於テハ船舶カ共同海損ノ結果避難港ニ入港シタルトキハ避難港入港費用、修繕ノ爲メノ積荷陸揚費用、修繕中ノ積荷藏敷料、再積込費用、出港費用ハ凡テ之ヲ共同海損トセリ、何トナレハ以上ノ費用ハ共同海損行爲ノ直接ノ結果ナレハナリ (Atwood v. Seller 1880)

然レモ共同安全 (Common safety) ノ爲メ入港シタルハ單獨海損ノ結果ナルトキハ英國法ニ依レハ入港費用修繕ノ爲メノ積荷陸揚費用ハ之ヲ共同海損トスルモ共同安全ニ到達シタル以上ハ茲ニ共同海損ハ終止スルモノトス、故ニ積荷ノ藏敷料ハ積荷ノ特別費用 (particular charge) ニシテ再積込費用、出港費用ハ運賃ニ對スル特別費用ナリ (Evensen v. Wall ce 1885)

前述ノ如ク英國法ニ於テハ兩者ノ間ニ微妙ナル差異ヲ設ケアリト雖モ「ヨーク、アントワープ」規則及諸外國法ニ於テハ斯ノ如キ差異ヲ設ケス、其ノ避難港ニ入港スル原因ノ何レタルヲ問ハス一切ノ費用ハ之ヲ共同海損ト爲セリ、斯ノ如キ差異ノ

依テ起ル所以ノモノハ共同海損行爲ノ目的ニ付英國法及大陸法トノ間ニ差異アルカ爲メニシテ英國法ハ前述ノ如ク安全主義ナルニ反シ大陸法ハ危險ノ終了(completion of the adventure)又ハ共同利益(General benefit)主義ナルヲ以テナリ、船長カ船舶及積荷ノ安全ノ爲メ救援ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ救援ニ對シテ支拂ヲ爲シタルトキハ其ノ支拂額ハ共同海損トシテ分擔セラルルモノトス、例ハ汽船カ軸ヲ破損シ船長ハ港ニ曳船セムカ爲メ曳船又ハ其ノ他ノ汽船ヲ傭船シタル場合ニ於テ該曳船ニ對シテ爲シタル支拂ハ之ヲ共同海損ト爲スカ如シ

第一款 復雜救助方法 (Complex salvage operation)

積荷ヲ積載シタル船舶カ坐礁シタル場合ニ於テ各別個ノ行爲ナルモ連續シタル行爲ヲ以テ該船舶ヲ安全ニ至ラシムル場合アリ、例ハ最初ハ積荷ヲ荷卸シ且荷揚ヲ爲シ次ニ船舶ヲ曳船シテ離礁セシムルカ如シ、然モ尙安全ナルニ至ラサルニ於テハ浮揚ヲ容易ナラシムル爲メ更ニ溝ヲ掘穿スルカ如シ、斯ノ如キ場合ニ於テ救助開始ヨリ終了マテノ間ニ於ケル救助費用ハ總テ之ヲ共同海損ト爲スヘキカ

又ハ各救助行爲ノ特殊段階ニ於テ救助セラレタル財産ニ於テ負擔スルニ止ルヘキカノ問題ヲ生ス、本問ニ對スル回答トシテハ「アイルランド」風ニ云ヘハ事實上ニ於テ正當ニ當該費用ヲ支出シタルモノナリト看做サルヘキ主タル原因ハ何ナリシヤトノ問題ヲ以テ之ニ答フルコトヲ得ヘシ、若シ其ノ原因ニシテ積荷ノミヲ救助スルニ在ルカ又ハ船舶ノミヲ救助スルニ在ル場合ニ於テハ該費用ハ各場合ニ從ヒ或ハ積荷ノ負擔トナリ又ハ船舶ノ負擔トナルニ至ルヘシト雖モ費用支出ノ主要ナル原因カ船舶及積荷ノ兩者ヲ保存スルニ在ルニ於テハ該費用ハ之ヲ共同海損ト爲スナリ(cf. Job v. Langton 1856, Moran v. Jones 1857)故ニ例ハ正貨カ坐礁船舶ヨリ安全ニ陸揚セラレタル後積載積荷ヲ投荷シ且ツ船舶離礁ノ爲メ曳船ヲ使用シタル場合ニ於テハ曩ニ陸揚セラレタル正貨ハ投荷ニ對シ又ハ船舶浮揚ノ爲メニ支出シタル費用ニ對シ分擔ノ責ヲ負フコトナシ、何トナレハ投荷又ハ費用ハ正貨ノ安全ノ爲メニ爲サレ又ハ支出セラレタルモノニ非サレハナリ(Royal Mail Steamship Co. v. English Bank of Rio de Janeiro, 1887)之ニ反シ積荷ノ陸揚及船舶ノ離礁カ船舶運賃及積荷ノ利益ノ爲メニ一個ノ連續シタル方法ト看做スヘキモノノ一部ヲ構

成スル場合ニ於テハ陸揚費用及離礁費用ハ總テ之ヲ共同海損トス (Mornin v. Jones 1857) 復雜救助方法ノ場合ニ於ケル共同海損分擔ニ關スル積荷ノ責任ニ付重要ナル制限アリ即 Kemp v. Halliday 1865 事件ニ於テ決定セラレタルモノ之レナリ、本件ニ於テハ船舶カ積荷ヲ積載シタルママ沈没シタリシカ若シ積荷ヲ船舶ト共ニ一齊ニ救助セムヨリハ積荷ノミヲ單獨ニ救助スル方一層容易ニシテ且低廉ナル場合ニ於テハ積荷カ船舶及積荷ノ共同救助料ニ對シテ分擔スヘキモノハ船舶ト分離シテ救助セラレタル場合ノ經費ニ比シ多額ヲ支拂フ義務ナシト判決セリ、故ニ例ヘハ沈没船ニ積載シタル正貨ノ如キハ本原則ヲ適用スルコトヲ得ヘキ好適例ナルヘシ、正貨カ船舶ト同時ニ救助スルヨリモ一層低廉ナル費用ヲ以テ救助スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ正貨ノ責任制限ハ正貨ノミノ救助費用ヲ以テ限度ト爲スナリ、共同海損タル費用ノ額ニ付テハ何等ノ問題ナシ即費用額其レ自體ヲ以テ共同海損ト爲スナリ

第二款 代換費用 (Substituted Expenses)

船舶カ損害ヲ蒙リ避難港ニ入港シタル場合ニ於テ代換手段ニ依リ修繕費用ヲ節約スルコトアリ、例ヘハ船舶カ避難港ニ於テ修繕ノ爲メ積荷ノ全部ヲ陸揚シ藏敷ヲ爲シ又ハ再積込ヲ爲スヘキ場合ニ於テ代換手段ニ依リ陸揚費用藏敷料再積込費用ノ四分ノ一ニ相當スル費用ヲ以テ船舶ヲ陸揚港マテ曳船スルコトアリ、斯ノ如キ場合ニ於テハ代換手段ハ慎重且正當ニ爲サルルヲ要シ其ノ之カ爲メニ支出シタル費用ハ之ヲ代換費用 (substitute expense) ト云ヒ曳船ノ場合ニ比シ多額ヲ支出シタル費用ノ割合ト同一ノ割合ヲ以テ節約費用總額ノ割合ヲ定ムヘキモノトス、而モ判例ノ依ルヘキモノナキニ於テハ當事者ノ特約ニ從ハサルヘカラスト雖モ公平ノ點ヨリ見レハ本問題ハ爭議ノ餘地ナキカ如シ、本則ヲ明瞭ニ説明セムカ爲メ一例トシテ船舶カ單獨海損ノ結果避難港ニ入港シタル假設的稀有ノ場合ニ關シ英國法ニ於ケル精算ヲ記述スルニ

入港費用及修繕ノ爲メノ荷揚費用	五〇〇磅
船舶修繕中ノ藏敷料ニシテ事情ニ依リ積荷ノ特別費用及出港費用ニシテ事情ニ依リ運賃ノ特別費用タルモノ	二〇〇磅
積荷ノ再積込費用及出港費用タルモノ	五〇〇磅

第七章 共同海損

トスレハ避難港ニ於テ支出スルヲ必
 要トスル費用ハ(船舶修繕費ヲ包含シ)
 一、二〇〇磅
 トナル勘定ナリ、然ルニ避難港ニ於テ右費用ヲ支出スル代リニ到達港マテ曳船ヲ
 爲シ二百四十磅即避難港ニ於ケル修繕費用ノ五分ノ一ノ費用ヲ支出シ而モ其ノ
 低廉ナル費用支出ノ方法カ正當ニ且慎重ニ爲サルルニ於テハ該二百四十磅ハ千
 二百磅ノ費用ノ割合ト同一ノ割合ヲ以テ其ノ割合ヲ定ムベキモノトス即

代換費用

共同海損……………五〇〇磅

一〇〇磅

積荷(特別費用)……………二〇〇磅

四〇磅

運賃(特別費用)……………五〇〇磅

一〇〇磅

合計……………一、二〇〇磅

二四〇磅

支出ヲ回避セラレタル費用ニシテ全部共同海損ニ屬スルモノナルトキハ代換費
 用モ亦之ト同一ニ取扱ハルルモノナルハ勿論ナリ

代換費用ノ支出ヲ正當ト爲スカ爲メニハ(イ)費用節約ノ爲メニ爲シタルモノナル
 コト(ロ)船主カ運送契約ノ結果自己ノ義務トシテ支出シタルモノナラサルコトヲ

證明スルヲ必要トス

第三款 資金調達 (Raising Funds)

避難港ニ於テ費用ヲ支出スルニ當リテハ之カ爲メニ資金ノ前借ヲ必要トスルコ
 トアリ、而モ資金ノ調達ヲ内拂(on account)ノ方法ト爲スカ爲メ適當且必要ナル手段
 ヲ盡シタル場合ニ於テハ前借シタル資金ノ利息及手数料トシテ現實ニ支出シタ
 ル費用ニ限り之ヲ共同海損トス

現時ニ於テハ電信ヲ以テ調達ヲ爲シ得ルヲ通常ト爲スカ故ニ資金調達ノ爲メ積
 荷ノ強制賣却又ハ冒險貸借ナルモノ殆ト其ノ跡ヲ見スト雖モ尙ホ念ノ爲メ此等
 ノ問題ニ付一言スヘシ

第四款 積荷ノ強制賣却 (Forced sale of cargo)

資金調達ノ爲メニスル積荷ノ強制賣却ヲ述フルニ當リ第一ニ船長カ他ノ手段ニ
 依リテ金銭ヲ調達シ得ヘキトキハ積荷ヲ賣却スヘキ何等ノ權利ヲ有セサルコト

ヲ記憶セサルヘカラス、然レトモ積荷カ避難港ニ於テ適當且正當ニ賣却セラレタル場合ニ於テ若シ該積荷カ賣却セラレスシテ到達港ニ到達シタリトセハ有スヘカリシ正味價額 (net value) ニ比シ遙ニ多額ニ賣却セラレタル場合ニ於テハ貨主ハ避難港ニ於テ現實ニ賣却シタル手取金 (actual proceeds) ヲ取得スルノ權利ヲ有ス (Richardson v. Nourse 1819) 然レトモ之ニ反シ積荷カ到達港ニ於ケルヨリモ低廉ニ賣却セラレタルトキハ恰モ當該積荷カ到達港ニ到達シタリトセハ有スヘキ正味價額ヲ取得スルノ權利ヲ有ス (cf. Happer v. Burnes 1876) 貨主ハ利益ヲ享受スルノ權利ヲ有シ損失ヲ蒙ルコトナキモノトス

第五款 冒險貸借 (Bottomry and Respondentia)

現時ニ於テハ冒險貸借ニ依リテ資金ヲ調達スルノ必要ナキニ至レリト雖モ尙ホ念ノ爲メ之ニ付テ略言スレハ Bottomry トハ資金ノ急迫ナル必要アル場合ニ於テ船舶ヲ又ハ船舶及積荷ノ兩者ヲ擔保トシテ(通俗ニ云ヘハ抵當トシテ)行ハルル金錢上ノ貸借ナリ、而シテ Respondentia トハ積荷ノミヲ擔保トシテ行ハルル金錢上ノ

貸借ナリ、而シテ斯ノ如クシテ前借シタル金額ハ冒險貸借證書 (Bottomry or respondentia bond) ト稱スル證書ノ定ムル所ニ從ヒ船舶到達後一定ノ合意シタル期間内ニ貸主ニ返還セラルルモノトス、本貸借ハ船舶及(又ハ)積荷カ到達シタルコトヲ條件トシテ返還セラルルニ過サルカ故ニ船舶ニシテ到達港ニ到達前沈没シタル場合ニ於テハ貸主ハ其ノ債權ヲ失フモノトス、冒險貸借ヲ以テ金錢ヲ調達シ得ルハ積荷ヲ賣却スルノ外如何ナル手段ヲ以テスルモ金錢ヲ調達スルコトヲ得サル場合ニ限ラルルナリ

第五節 共同海損ト爲ラサル損害及費用

上來叙説シタルハ本來共同海損タルヘキ犠牲及費用ニ關スルモノナレトモ英國法上共同海損トシテ分擔ヲ爲ササル損害アリ、左ニ之ヲ略説スレハ

一、犠牲又ハ費用ニシテ船主ノ過失ニ基クモノナルトキハ運送契約上船主カ其ノ過失ニ付保護ヲ受クヘキ場合ヲ除キ共同海損トシテ賠償ヲ受クルコトヲ得ス、例ヘハ航海ノ始ニ於ケル船舶ノ不堪航ニ基ク犠牲又ハ費用ニ付テハ船主ハ共

同海損トシテ賠償ヲ受クルコトヲ得ス (Fawcus v. Sarsfield 1856) 尙ホ船長又ハ海損ノ過失ニ基ク犠牲又ハ費用ハ船主カ該犠牲又ハ費用ニ付運送契約上其ノ責ヲ免ルル場合ヲ除キ船主ハ該犠牲及費用ニ付共同海損トシテ賠償ヲ受クルコトヲ得サルカ如シ (The Carron Park 1890)

二、損害及費用ニシテ運送契約上船主ノ義務ニ屬スルモノナルトキハ假令損害又ハ費用カ共同危険ノ爲メ増加スルコトアルモ共同海損トシテ賠償ヲ受クルコトヲ得ス例ヘハ修繕ノ爲メ避難港入港中ノ船員ノ給料、食料、避難港ニ入津スルニ消費シタル石炭、漏損セル船舶ヨリ排水スル爲メ機關ノ運轉中ニ使用スル石炭 (Harrison v. Bank of Australasia 1872) 風下海岸 (lee shore) ヲ離ルルカ爲メ又ハ敵ヲ避クルカ爲メ帆ヲ緊張使用シタルニ因リテ生スル損害ノ如シ

三、積荷ノ損害ニシテ荷主ノ不正行爲ノ結果生シタルモノナルトキハ共同海損トシテ賠償ヲ受クルコトヲ得ス例ヘハ麻ヲ危険状態ニ於テ積載シタルカ爲メ熱ヲ發シ(固有ノ瑕疵)發火ノ虞アルカ爲メ投荷シタル場合ニ於テハ該投荷ハ共同海損トシテ賠償ヲ受クルコトヲ得ス

四、現實ノ損害カ犠牲ノ結果生シタルモノニ非サルトキハ共同海損トシテ賠償ヲ受クルコトヲ得ス、本件ニ關スル訴件ハ Shepherd v. Kottgen 1877 事件ナリ即本件ニ於テハ橋ヲ切斷シタリシモ其ノ之ヲ切斷スル以前ニ於テ橋ハ海上固有ノ危険ノ爲メ破壊セラレ損失スルノ避クヘカラサル状態ニ在リキ、斯ノ如キ場合ニ於テハ其ノ橋ヲ切斷スルモ共同海損トシテ賠償ヲ受クルコトヲ得スト判決セラレタリ、蓋シ橋ハ實際上既ニ損失シタルモノニシテ之ヲ切斷スルハ何等ノ犠牲ヲ爲シタルモノニ非サレハナリ、又他ノ一例ハ錨カ岩底ニ搦ミ引揚タルコト能ハサルニ至リタルカ爲メ之ヲ放棄シタル場合、燃燒シツツアル積荷ニ對シ注水ヲ爲シ全部燒失ヲ免レタル場合ノ如キハ積荷カ現實ニ利益ヲ受クルコトアルモ共同海損ニ非ス、積荷カ加熱セラレ陸揚港ニ輸送スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ避難港ニ於テ之ヲ賣却シタルカ爲メ運賃ヲ喪失スルコトアルモ共同海損ニ非ス (Dredale v. China Trader's Insurance Co., 1900)

五、損害及費用カ共同海損ノ直接ノ結果ナラサルトキハ共同海損ニ非ス、例ヘハ積荷ヲ陸揚シ安全ノ地位ニ置キタル後避難港ニ於テ火災ノ爲メ燒失シタル場

合ノ如シ共同海損行爲ノ結果滯留ヲ爲シ之カ爲メニ生シタル損害モ亦共同海損トシテ賠償ヲ受クルコトヲ得サルナリ(The Leirum 1902)

第六節 精算ノ時、場所及準據法

共同海損トシテ分擔スヘキ損害及費用ニ付テハ前述シタル所ノ如シ、次ニ考フヘキハ精算ノ時又ハ分擔額ヲ確定スヘキ時ハ航海終了ノ時ナルコト及精算ノ準據法ハ運送契約ニ反對ノ特約ナキ限り到達港ニ於ケル法律ナルコト之レナリ、然レトモ航海カ中間港ニ於テ廢止セラレタル場合ニ於テハ反對ノ特約アル場合ヲ除キ其ノ航海ヲ廢止シタル港ニ於ケル法律ニ據リ且ツ中間港ニ於ケル狀況ニ於テ精算スルコトヲ要ス、尙ホ注意ヲ要スルハ船主ハ分擔額請求權ヲ積荷ニ對シ行使スルコトヲ得ルカ故ニ何人カ分擔額支拂ノ義務アルカヲ確定セムカ爲メ積荷ヲ引渡ス以前ニ於テ海損契約書(Average bond)ニ署名セシムルヲ慣例ト爲セリ

第七節 精算ノ手續、留置權

共同海損ノ精算ヲ爲スハ船長ノ義務ナリト雖モ概ネ専門家ノ海損精算人ニ依頼シテ精算ヲ爲サシムルモノトス、英國法ニ依レハ精算人ノ選任ハ全然船主ニ屬ス(Wavertree Sailing Ship Co. v. Love 1897)而モ精算人ハ航海ノ終了シタル港ニ於テ精算ヲ爲スヲ必要ト爲サス、前述ノ如ク精算人ノ選定ハ全ク船主ノ專斷ニ屬スルナリ、船主ハ共同海損分擔ニ付積荷ニ對シ留置權ヲ有ス、即船主ハ擔保ヲ提供スル迄ハ積荷ヲ留置スルヲ得ルナリ、輕易ナル場合ニ在リテハ船主ハ通常荷受人ヲシテ海損契約書(Average bond)ナル證書ニ署名セシメ以テ船主カ積荷ヲ荷受人ニ引渡スニ於テハ荷受人ハ自己ノ負擔ニ對スル共同海損分擔額ヲ支拂フコト並船主ノ要求アラハ共同海損分擔額ヲ正確ニ算出セムカ爲メ積荷ノ價額ヲ船主ニ通知スルコトヲ要スルモノトス、共同海損カ巨額ニ達スル場合ニ在リテハ船主ハ海損契約書(Average bond)ノ外共同海損供託金(General average deposit)ヲ一名ノ被信託者(trustee)ノ名ヲ以テ銀行ニ供託セシメ通常ノ様式ヲ有スル海損供託金受領證(Deposit receipt)ヲ受領シ以テ自己ノ有スル留置權ヲ保全スルヲ通常トス、而シテ以上二名ノ被信託者ノ中一名ハ船主之ヲ選任シ他ノ一名ハ貨主之ヲ選任スルモノトス(Huth v.

Tampout 1886)

若シ分擔價額ノ概算額カ保險價額ヲ超過セサルニ於テハ保險者ハ共同海損供託金ニ付海損供託金受領證ト引換ニ保險金ヲ支拂フモノトス、此ノ場合ニ於テハ單ニ供託金ノ比例部分ニ對シテノミ支拂ヲ爲スニ止ル、供託金受領證ハ保險者之ヲ保管シ自己ノ終局ニ於テ負擔ニ歸スヘキ支拂ノ義務ヲ證明スルモノトス、有數ノ汽船會社ニ在リテハ荷受人ヲシテ分擔額ノ現金支拂ヲ爲サシムル代リニ保險者カ分擔額支拂ノ保證 (Guarantee) ヲ爲スコトヲ承諾スル場合アリ、斯クノ如キ手段ヲ取ルノ便益アルハ現時船主ノ一般ニ承認スル所ナリ

第八節 分擔利益及其ノ價額 (contributing interest and values)

犠牲ノ場合ニ於テ賠償ヲ受クヘキ價額ニ付テハ前述シタル所ナリ、次ニ生スヘキハ分擔利益トハ何ソヤ及分擔額ノ決定上分擔利益ノ價額ヲ如何ニ見積ルヘキカノ問題ナリ

共同海損ヲ分擔スヘキ利益トハ共同危險ニ當リ共同海損行爲ニ依リテ其ノ損害

ヲ免レタル利益ナリ、即船舶運賃及積荷ナルヲ通常トス、然レトモ若シ船舶カ積荷ヲ積載セサル場合、及備船セラレテ底荷ヲ積ミテ船積港ニ航行スル場合ニ於テハ分擔利益ハ船舶及備船料ナリ、例ヘハ底荷ヲ積ミテ Liverpool ヲ發航シタル船舶カ英國ニ綿糸輸入ノ爲メ Savannah ニ航行セムカ爲メ備船セラレタル場合ニ於テ積荷ヲ積載セスシテ Savannah ニ航港中共同海損犠牲アリタルトキハ該犠牲ニ對シテ分擔スヘキモノハ船舶及備船料即船舶ヲ備船シタルカ爲メニ支拂フヘキ金額ナリ (The Vestor: Carisbrook S. S. Co. v. London and Provincial Marine Ins. Co. Ltd. 1902)

分擔利益カ總テ同一人ニ對スル場合ニ於テハ共同海損ヲ分擔スルモノナシト判決シタル Brigella 1893 事件、Airie 事件ニ關スル控訴審ニ於テ破棄セララルニ至レリ、而シテ海上保險法ニ於テハ最後ノ判決ヲ有效トシ船舶運賃積荷、若ハ此等ノ被保險利益ノ何レカノ二者カ同一被保險者ニ屬スルモノナルトキハ共同海損タル損害又ハ分擔額ニ付テハ恰モ此等保險ノ目的カ別個人ニ對スル場合ト等シク保險者ノ責任ヲ定ムト規定シタリ

特ニ注意ヲ要スルハ船長及船員ノ身廻品、貯藏品、衣服、寶石類、乘組員ノ荷物ハ便宜

上共同海損ヲ分擔セスト推定セララルヲ通常トス

第一 船舶ハ犠牲ニ因リテ救助セラレタル價額即到達港ニ到達シタル時ノ狀況ニ於テ有スル價額ヲ以テ分擔スルモノトス、若シ航海ヲ廢止シタルトキ及船舶並積荷カ中間港ニ於テ分離スルニ至リタルトキハ中間港ニ於ケル船價ヲ以テ分擔スヘキモノトス

第二 運賃ハ犠牲ノ爲メニ救援セラレタル運賃ノ正味額即船主ノ危險ニ屬スル運賃ヨリ犠牲ノ爲メ船舶喪失セハ支出スルコトヲ要セサリシ費用即入港料及乗組員ノ給料ノ如キモノヲ控除シタル額ヲ以テ分擔スルモノトス、運賃ニ對スル分擔ハ船主ニ於テ、又ハ被保險船舶ナルトキハ運賃保險者ニ於テ負擔スルモノトス、前渡運賃ハ積荷ノ増加價額 (increased value) ト看做サルルカ故ニ之カ分擔ハ貨主ニ於テ負擔スルモノトス

第三 積荷ハ其ノ引渡ノ時ニ於テ支拂フヘキ運賃(若シアラハ)並引渡ノ時ニ於テ貨主ノ負擔ニ屬スル費用ニシテ全損ナリセハ支拂フコトヲ要セサル陸揚費用、税金、仲立手數料等ヲ控除シタル正味到達價額 (net arrived value) ヲ以テ分擔スルモノト

ス、前拂運賃ハ前述シタルカ如ク之ヲ控除スルヲ要セス之レ積荷ノ價額中ニ包含スルヲ以テナリ、航海ヲ廢止シタルトキハ船舶及積荷ノ分離シタル港又ハ場所ニ於ケル正味價額 (net value) ヲ以テ分擔スルモノトス

第九節 共同海損ノ分擔額 (Amounts made good contribute)

共同海損犠牲アリタル場合ニ於テ犠牲ト爲リタル財産ノ所有者ハ之ニ依リテ何等ノ利得ヲ爲ササルト同時ニ又何等ノ損失ヲ蒙ルコトナシトハ共同海損ノ基本原則ナリ、實際上犠牲者ハ自己ノ積荷ノ代リニ他人ノ積荷カ犠牲ト爲リタルト同一ノ地位ニ置カレサルヘカラス、此ノ目的ノ爲メニ犠牲ト爲リタル貨物ハ分擔ニ關スル限り全ク損失セサリシモノト看做サルルカ故ニ其ノ共同海損トシテ賠償ヲ受クヘキ價額モ共同海損ヲ分擔スヘキモノトス、而シテ此レ船舶ノ材料及運賃ノ犠牲ノ場合ニモ同様ナルハ勿論ナリ、簡單ナル例ヲ以テ之ヲ解説スレハ

千磅ノ積荷(前拂運賃ヲ含ム)カ投荷セラレ其ノ結果損害ヲ免レタル財産——船舶運賃及積荷——ノ價額ヲ九千磅ト假定スレハ共同海損トシテ賠償ヲ受クヘキ金

額ハ千磅ナリ、然レトモ千磅ヲ分擔スヘキモノハ救助セラレタル財産ノ價額九千磅ノミナラス投荷セラレタル貨物ニシテ分擔ニ依リテ賠償ヲ受クヘキ價額千磅モ亦其ノ損害ヲ分擔スヘキモノナルヲ以テ總價額一萬磅ヲ以テ千磅ノ損害ヲ分擔スヘキナリ、故ニ

救助セラレタル財産ハ千磅ノ	九〇〇磅
十分ノ九即	
ヲ支拂ヒ投荷セラレタル財産ノ價額ニシテ共同海	一〇〇磅
損トシテ賠償ヲ受クヘキモノハ千磅ノ十分ノ一即	
ヲ負擔シ合計	一、〇〇〇磅
ヲ負擔スル勘定トナル	

故ニ投荷セラレタル貨主ハ共同海損トシテ賠償ヲ受クヘキ千磅ヨリ其ノ分擔額百磅ヲ控除シタル額即九百磅ハ之ヲ他ノ分擔義務者ヨリ取得スルヲ得ヘシ、若シ共同海損トシテ賠償ヲ受クヘキ金額カ其ノ分擔額ヲ全然控除セスシテ全部ノ支拂ヲ受クルニ於テハ犠牲ト爲リタル財産ノ所有者ハ救助セラレタル財産ノ所有者ニ比シヨリ好キ結果ヲ生スヘシ、何トナレハ犠牲者ハ其ノ損害ヲ全部賠償セラ

ルルコトヲ得テ自己ノ分擔ヲ免ルコトヲ得ヘケレハナリ、而シテ之レ何人モ自己ノ財産ノ代リニ他人ノ財産カ總テノ者ノ爲メニ與ヘラレタル場合ニ比シ其ノ結果ニ於テ損得ナキヲ要スルノ原則ニ反スルニ至ル

分擔ノ原則ヲ明ニセムカ爲メ共同海損タル費用ノ割合ニ付例示スルニ

費用ヲ三〇五磅ト假定スレハ

一〇、〇〇〇磅ノ價額ヲ有スル船舶ハ……	一〇〇磅ヲ支拂ヒ
二〇、〇〇〇磅ノ正味價額ヲ有スル積荷ハ……	二〇〇磅ヲ支拂ヒ
五〇〇磅ノ正味額ヲ有スル運賃ハ……	五磅ヲ支拂ヒ
合計	三〇五磅

第十節 共同海損ト保險契約トノ關係

共同海損ト海上保險トハ全然獨立シタルモノナルコト前述シタル所ノ如クナルモ更ニ共同海損ト海上保險トノ關係ヲ一言スルノ必要アリ

共同海損犠牲アリタルトキハ犠牲貨物ノ保險者ハ當該財産ノ保險價額ニ付被保險者ニ對シ直接責任ヲ負フ (Dickinson v. Jardine 1868) 保險者ハ其ノ保險金ヲ支拂ヒ

タルトキハ共同海損タル損害額ヨリ犠牲貨物自體ノ分擔額(前述シタル)ヲ控除シタル額ヲ取得シ得ルノ權利ヲ有ス

保險者ハ共同海損タル損害ニ付テハ其ノ割合ノ如何ニ拘ラス直接責任ヲ負フ、其ノ損害ハ貨物及運賃ノ場合ニ在リテハ單獨海損ト同一ノ方法ニ依リ保險價額ニ依リテ之ヲ計算シ船體ノ場合ニ在リテハ保險價額ニ依ルコトナキナリ、共同海損タル損害ニ付直接保險者ヨリ支拂ヲ受クル場合ニ於テハ被保險者ハ自己ニ對スル他ノ利益(Interest)ニシテ共同海損ヲ分擔スルコトヲ要スルモノノ分擔額ヲ通知スルコトヲ要ス、被保險者ハ他ノ利益ニ付之ヲ保險ニ付シタルト否トヲ問ハス其ノ分擔額ハ既ニ自己ノ囊中ニ取得シタルモノト看做サルナリ、例ヘハ船舶及積荷カ共ニ同一人ニ屬スル場合ニ於テ船舶材料ノ共同海損タル犠牲ニ對シ船舶保險者ニ直接請求スルニ當リテハ當該犠牲ニ付積荷ノ分擔額ヲ通知スルヲ要スルナリ(Cf. The Airlic: Montgomery v. Indemnity Mutual Mar. Ins. Co. 1902 Marine Ins. Act. § 66)

次ニ共同海損タル損害ニ對スル保險者ノ責任ニ對比シ共同海損分擔額ニ對スル保險者ノ責任ヲ考フルニ分擔額ニ對スル責任額ヲ決定スルニ當リテハ必スヤ財

産ノ保險價額ヲ考慮スルコトヲ要ス、若シ保險價額カ分擔價額(Contributing value)ニ等シキカ又ハ之ヲ超過スルトキハ保險者ハ共同海損分擔額ノ全額ヲ支拂フヲ以テ足ルト雖モ保險價額カ分擔價額ヨリ小ナルトキハ保險價額ノ分擔價額ニ對スル割合ト同一ノ割合ヲ以テ分擔額ノ一部ヲ支拂フモノトス比ノ原則ハ船舶運賃及積荷ニ付齊シク適用セララルナリ

左ニ例示セムニ分擔價額ヲ千磅ト假定シ共同海損分擔額百磅ヲ支拂フ場合ニ於テ若シ保險價額カ千磅又ハ千二百磅ナルトキハ保險者ハ百磅ヲ支拂フモ保險價額九百磅ナルトキハ保險者ハ九十磅即十分ノ九ヲ支拂フモノトス、即之レ保險價額九百磅ノ分擔價額千磅ニ對スル割合ナリ保險者ノ責任ニ任スヘキ單獨海損タル損害アリタルトキハ單獨海損ニ對スル保險金額ハ之ヲ積荷ノ保險價額ヨリ控除シ以テ現存スル分擔價額ニ付保險者カ其ノ分擔額ノ全部ヲ支拂フヘキヤ否ヤヲ決スルナリ

共同海損供託金(General Average Deposit)モ亦供託受領證ノ原本ト引換ニ保險者之ヲ支拂フモノトス、但シ保險價額ト分擔價額ニ關シ前述シタル所ハ此ノ場合ニ於テ

モ亦齊シク適用セララルナリ
 共同海損及救助料(General average and salvage charge)ノ損害防止約款(Sue and Labour Clause)ニ依リテハ之カ填補ヲ受クルコトヲ得サルハ前述シタル所ノ如シ(Aitchison v. Lohre 1879)

第八章 救助料(Salvage)

救助料トハ海上ニ於ケル財産ヲ救助シ又ハ財産並生命ヲ同時ニ救助シタル救助者ニ對シ海上法ニ依リテ支拂フヘキ報酬ヲ云フ、救助料ハ時トシテ救助セラレタル物件ヲ指稱スルコトアルモ茲ニ論セムトスルハ前者ノ意義ニシテ即海上ノ危険ニ遭遇シタル財産ノ救助ニ對スル報酬ニ外ナラス、財産救助者ハ自己ノ救助行為ニ對スル報酬ニ付救助物件上ニ占有權(possessory lien)ヲ有シ若シ現實ニ占有ヲ爲ササルニ於テハ所謂海上留置權(maritime lien)ヲ有シ海事裁判所ニ於テ訴訟手續ヲ以テ之カ實行ヲ請求スルコトヲ得ルナリ、救助料ハ船舶積荷又ハ運賃ノ全部又ハ一部ヲ救助シタル場合ニ於テ海事裁判所ニ於テノミ之カ報酬ヲ請求スルコトヲ得ルモノナルハ特ニ注意ヲ要スル所ナリ、故ニ例ヘハ大ナル燈火淺水浮標(Large Ho

ving Gas-buoy)ハ船舶ニ非サルヲ以テ救助料ノ目的ト爲ルコトナシトハ高等海事裁判所ノ判決シタル所ナリ(Gas Float Whifton No. 3 1897)

救助行為ハ船舶救助ニ關スル物質上ノ救護ナルコトヲ要ス、救助者ノ行為カ何等ノ功ヲ奏セス又ハ利益ナキニ於テハ救助料ハ之ヲ支拂フヲ要セサルナリ、尙救助行為ハ第三者即事故ニ對シ何等ノ關係ナキ者ニ依リテ爲サルコトヲ要ス、故ニ船舶ノ高等海損及乗組員カ船舶及積荷ヲ危険ヨリ救助スルモ救助料ヲ請求スルヲ得サルヲ通常トス何トナレハ船主ノ使用人トシテ當然ノ義務ニ對スルモノナレハナリ

救助料ハ救助者ト被救助物件ノ所有者トノ協調ニ依リ又ハ此等ノ者ノ持約ヲ以テ定メラルルコト必シモ多カラス、故ニ救助者ニ對シ幾何ノ救助料ヲ至當トスルヤニ付海事裁判所ノ判決ヲ求ムル訴件尠カラサルナリ、裁判所ハ救助行為ニ關スル一切ノ事情ヲ考慮シテ相當ト思料スル報酬ヲ救助者ニ對シ鑑定スルモノトス之ヲ裁定救助料(Salvage award)ト云フ、契約上ノ義務ナキ救助者カ海上法ニ依リテ請求スルコトヲ得ヘキ救助料ハ救助物件ノ價額ニ割當テ之ヲ評定スルモノトス、保

險價額 (Insured value) カ分擔價額 (contributory value) ヨリ小ナルトキハ共同海損分擔ト全然同一ノ方法ニ依リ其ノ割合ヲ以テ保險者ヨリ填補ヲ受クルコトヲ得ヘシ、上院ニ於テハ以上ノ點ニ付多小意見ノ相違アリシモ *Balmoral Steamship Co. v. Murtens 1902* 事件ニ於テ以上ノ如ク決定シタリ、本件ニ於テハ船舶ノ保險價額三萬三千磅ト定メ其ノ保險金額モ同額ト爲シタリシカ同船ニ對スル救助料行爲ニ付海事裁判所ニ於テ裁定救助料ヲ定メ其ノ救助料額ハ船舶ノ實價四萬磅ヲ基礎トシテ精算セラレタリ、以上ノ如キ場合ニ於テハ保險者ハ單ニ精算セラレタル額ノ四十分ノ三十三ヲ支拂フ責ニ任ス

救助行爲カ船舶ノ不堪航ノ結果爲サレタル場合ニ於テハ海事裁判所カ救助者ニ對シテ爲シタル報酬ニ付船舶保險者ハ填補ノ責ニ任スルコトナシ、例ヘハ期間保險ニ付シタル船舶カ石炭ヲ不十分ニ積載シタル爲メ曳船スルヲ要シ海事裁判所ニ於テ船主ハ曳船シタル救助者ニ對シ救助料ヲ支拂フヘキ旨判決シタリ、船主カ自己ノ支拂フヘキ救助料ニ付保險者ニ對シ填補ヲ求ムル訴訟ヲ提起シタル場合ニ於テ控訴院ハ該救助料ハ海上固有ノ危險ニ因リテ必然的ニ生シタルモノニ非

スシテ船舶ノ隱シタル不堪航ニ基因スルモノナルヲ以テ保險者ハ填補ノ責任ナシト判決セリ、(*Bullunyne and Co. v. Mackinnon 1896*) 救助料ニ關シ一九一一年海上條約法ニ數多ノ規定ヲ設ケ居レリ

第九章 代位 (Subrogation)

代位トハ保險者カ保險金ノ支拂ヲ爲シタル場合ニ於テ被保險者ノ地位ニ代位シ被保險者カ當該損害ニ關シテ有スル一切ノ權利並救濟 (right and remedy) ヲ取得スル權利ニシテ被保險者ノ名ニ於テ第三者ニ對シ損害賠償ノ訴訟ヲ提起シ又ハ共同海損分擔請求權ヲ取得スルヲ云フ、代位ニ關スル海上保險法ノ規定スル所左ノ如シ

第七十九條 (一) 保險者ハ保險ノ目的ノ全部ノ全損ニ對シ又ハ貨物保險ニ在リテハ其ノ目的ノ一部ノ全損ニ對シ保險金額ヲ支拂ヒタル場合ニ於テハ保險者ハ其ノ支拂ヒタル保險ノ目的ニ付殘存スル被保險者ノ利益ヲ讓受クルノ權利ヲ有ス、而シテ保險者ハ損害ノ原因タル災厄ノ時ヨリ保險ノ目的ニ付

被保險者ノ有スル一切ノ權利並救済ニ代位スルモノトス

(二) 曩ニ規定シタル所ニ從ヒ保險者ハ分損ヲ支拂ヒタル場合ニ於テハ保險者ハ殘存スル保險ノ目的又ハ其ノ一部ニ付何等ノ權利ヲ取得セス、然レモ被保險者ニ對シ本法ニ從ヒ損害ヲ填補シタル限度ニ於テ保險者ハ損害ノ原因タル災厄ノ時ヨリ保險ノ目的ニ付被保險者ノ有スル一切ノ權利並救済ニ代位スルモノトス

代位權ヲ例示スレハ左ノ如シ

船舶カ「ロイド」ニ於テ失踪船トシテ通報セラレ保險者ハ全損ニ對シ保險金ヲ支拂ヒタルニ後日同船舶歸還シタル場合ニ於テハ同船舶ハ保險者ノ財産ニ歸屬スルモノナリ (Housman v. Thornton 1816)

共同安全ノ爲メ積荷ヲ投荷シ保險者ハ投荷ノ全損ニ對シ保險金ヲ支拂ヒタル場合ニ於テハ保險者ハ被保險者ノ地位ヲ代位シ投荷ニ付共同海損分擔請求權ヲ取得ス (Dickinson v. Jurline 1868)

更ニ他ノ例ヲ舉ケムニ實價九千磅ヲ有スル船舶ニ付保險價額ヲ六千磅ト協定シ

保險金モ之ト同額ト定メタルニ衝突ノ結果沈没シ保險者ハ六千磅全額ヲ支拂ヒタリ、通常ノ場合ニ於テハ被保險者ハ不法行爲ヲ爲シタル船舶ヨリ五千七百磅ノ賠償ヲ受クルコトヲ得ヘキ場合ニ於テ被保險者ハ保險者カ右ノ五千七百磅ノ三分ノ一(船舶ノ實價九千磅ニシテ保險價額六千磅ナリ)ヲ取得スルノ權利アルニ過キスト主張シタリシモ裁判所ニ於テハ六千磅ハ保險證券ニ協定シタル價額ニシテ保險者ハ五千七百磅ノ全額ヲ取得スルノ權利アリト判決セリ (North of England Insurance Association v. Armstrong)

保險者代位スルヲ得ヘキ權利及救済ハ被保險者自身行使スルコトヲ得ヘキモノニ限ラルルハ特ニ留意ヲ要スル所ナリ、之カ一例トシテ同一人ニ屬スル二船舶カ衝突シタリトセムニ過失ナキ船舶ノ保險者カ自己ノ保險シタル船舶ニ對シ其ノ發生シタル損害ニ付保險金ヲ支拂ヒタル場合ニ於テハ過失アル船舶ニ對シ何等ノ請求權ヲ有セサルニ至ルヘシ、何トナレハ兩船ハ同一人ニ屬シ自己カ自己ニ對シ訴追スルヲ得サルヲ以テ保險者ニ對シ何等ノ救済ヲ移轉セサルヲ以テナリ、故ニ左ノ如キ約款ヲ保險證券中ニ挿入スルヲ常トス

「保險セラレタル船舶ノ全部又ハ一部カ同一所有者ニ對シ又ハ同一管理者ノ管理ノ下ニ在ル他ノ船舶ト衝突シ又ハ是ニ依リ救助セラレタル場合ニ於テハ恰モ此等ノ船舶カ保險セラレタル船舶ト全ク關係ナキ他人ニ屬スルモノニ準シ被保險者ハ保險者ニ對シ填補ノ請求ヲ爲スコトヲ得衝突ノ責任若ハ救助ノ報酬ニ對シ填補スヘキ金額ニ關シテハ保險者ト被保險者トニ於テ選定セル一名ノ仲裁人ノ仲裁ニ據ルヘキモノトス」

第十章 明示條件 (Express warranty)

明示條件トハ默示條件ニ對立スルモノニシテ保險證券ニ明示セラレタル契約ノ條件ヲ云フ、明示條件ハ之ヲ具備スルコト絶對的ニ必要ニシテ若シ之ヲ具備セサルニ於テハ契約ハ無効ナリ、而モ或ル場合ニ於テ條件違反カ其ノ損害ニ何等ノ關係ヲ有セサルモ之カ爲メニ被保險者ヲ利益スルコトナシ、條件違反ノ損害ニ關係ヲ有スルヤ否ヤハ問題ノ範圍外ニ屬スルナリ

第一節 發航條件 (Warranted "To sail")

最モ多ク契約セラレル明示條件ノ一ハ船舶カ一定ノ日又ハ一定ノ日以前ニ發航スヘキ條件之レナリ、問題トナルハ條件中ノ所謂發航ノ意義如何ニ在リ、本條件ヲ具備セムカ爲メニハ船舶カ現實ニ發航港ヲ去リタルコトヲ必要トセス、船舶カ航海ヲ爲スニ必要ナル一切ノ準備ヲ整ヘテ航海ヲ始メ且ツ事故ノ爲メニ防害セラレサルニ於テハ出港シ得ヘキヲ以テ足ルモノトス、然レモ航海ヲ爲スカ爲メニ必要ナル乗組員ノ定員又ハ税關ノ出港認可ノ如キ點ニ於テ缺クル所アルカ爲メ碇泊スルヲ必要トスル場合ニ於テハ海底ヨリ錨ヲ拔ク (Breaking of Ground) ノミニテモ條件ヲ具備シタルモノニ非サルナリ、船舶拔錨ノ時ニ於テ船長カ眞直ニ航海ヲ爲スノ明瞭ナル意思ヲ有シタリシヤ否ヤハ船舶發航ノ標準ナリ、即投錨地ヨリ船舶ヲ移動スルニ至リタル原因ヲ考察シテ以テ條件ヲ具備シタリヤ否ヤノ標準ト爲スヲ要スルナリ (Sea Insurance Co, v. Blogg 1898)

一定ノ日ニ特定ノ港ヲ發航スヘキコトヲ條件ト爲シタル場合ニ於テハ該船舶カ

現實ニ指定港内ヲ去リタルニ非サレハ條件ヲ具備シタルモノニ非ス、本條件ハ絶對的ニシテ假令出港ノ準備ヲ整ヘタルモ荒天其他ノ事由ノ爲メ出港ヲ妨ケラルルトキハ條件ヲ具備シタルモノニ非ス、特定ノ日ニ港ヲ去ラサルニ於テハ保險契約ハ條件違反トシテ無効ナルヘキナリ

第二節 鐵又ハ鑽石ニ非サル條件 (Warranted "no Iron or Ore")

通常使用セラルル他ノ條件ハ「登簿噸數ヲ超過シタル鐵又ハ鑽石ニ非サル條件」(“Warranted no iron or ore in excess of registered tonnage”)ナリ本條件ニ關シ控訴院ニ於テ「鐵(iron)トハ鋼鐵(steel)ヲ包含シ鋼鐵ヲ船舶ノ登簿噸數ヲ超過シテ積載シタル場合ニ於テハ保險契約ハ之ヲ無効トスル旨ヲ判決セリ (Hart v. Standard Marine Ins. Co., 1889)尚ホ本判決ハ被保險者カ用語上條件ヲ具備スヘキ義務アルノミナラス條件中ニ使用セラルル用語ノ意義ニモ拘束セラルルモノナル旨ヲ判示シ居レリ

第三節 價額ノ一部ヲ無保險トスル條件 (Warranted "Part Value Uninsured")

船舶保險ニ於テ屢々行ハルルハ保險價額ノ一定額又ハ一定割合ハ之ヲ無保險トスルヲ條件トナスコト之レナリ、即此ノ場合ニ於テハ船主ハ結局特定額又ハ割合ニ付自家保險ヲ爲シタルヲ條件トスルモノニ外ナラス、而モ或ル場合ニ於テハ船主ハ自ラ危險ノ一部ヲ負擔スヘキコトヲ以テ要素トナシ保險者之ヲ堯望スルコトアリ、蓋シ斯クスルニ於テハ損害發生ニ付船主カ金錢上ノ利害關係ヲ生スルニ至ルヘケレハナリ

右ノ條件ニ關スル興味アル判決ハ、General Ins. Co., of Trieste v. Cory 1897 事件ナリ、本件ニ於テハ船主ハ船舶ヲ一萬二千磅ト協定シ保險金ヲ九千六百磅ト定メ殘額二千四百磅ハ無保險ナルコトヲ條件トセリ、換言スレハ自家保險ヲ爲セリ、其ノ後ニ至リ船主ハ九千六百磅ノ保險者中ニハ無資力ト爲レルモノアリトノ風評ヲ聞キ最初ノ保險者ニシテ無資力ト爲リ債務ヲ完済スルコト能ハサル結果損害發生ノ

場合ニ於テ生スルコトアルヘキ不足ヲ補ハムカ爲メ更ニ他ノ保險契約ヲ締結セリ、以上ノ如キ場合ニ於テ Mathew 判事ハ斯カル事情ニ於テ船主カ更ニ締結シタル保險契約ハ條件違反トナルモノニ非スト判決セリ

明示條件中ニハ特約又ハ用語ニ付種々異ナリタル條件アルモ本小冊子ノ能ク記載シ得ル餘白ナキヲ遺憾トス

捕獲及拿捕不擔保約款 ("Free of Capture and Seizure" clause) 及免責歩合 (Memorandum) ハ有名ナル二個ノ明示條件ナルモ此等ハ曩ニ既ニ説述シタル所ナリ、單獨海損不擔保 ("F.P.A." warranty) ハ次章ニ説明スヘシ、特ニ注意ヲ要スルハ前述ノ如ク明示ノ條件ハ嚴格ニ且的確ニ具備スルコトヲ要スル條件ニシテ默示條件モ亦之ト同様ナルコト之レナリ、默示條件ニ付テハ第一章ニ於テ述ヘタル所ナリ

第十一章 一般ニ使用セラルル約款ノ種類

(Sundry clauses in general use)

當事者ノ眞意ヲ實行セムカ爲メ海上保險證券ニ挿入セラルル約款ハ其ノ種類ノ

多キ一時ハ殆ト無數ニ存在シタリシカ近年ニ至リ普通ニ使用セラルル數種ノ約款ヲ保險證券中ニ挿入シ又ハ之ヲ一般ニ使用スルニ至リ從來ノ不便ヲ除却スルヲ得ルニ至レリ、左ニ海上保險界ニ於テ日日使用セラルル通常ノ約款ノミヲ略述スヘシ

第一節 單獨海損不擔保約款 ("F.P.A." clause)

殆ト毎時ノ如ク使用セラルルハ所謂單獨海損不擔保約款 (F.P.A. clause) ナリ、本約款ハ其ノ效果ニ於テ免責歩合 (Memorandum) ノ適用又ハ其ノ擴充的適用ニ外ナラス

"Warranted free from particular average unless the vessel or craft be stranded, sunk, or burnt, each craft or lighter being deemed a separate insurance. Underwriters, notwithstanding this warranty, to pay for any damage or loss caused by collision with any other ship or craft, and any special charges for warehouse rent, re-shipping, or forwarding, for which they would otherwise be liable.

Also to pay the insured value of any package or packages which may be totally lost in tranship

ment.”

「船舶又ハ舢舨カ坐礁沈没又ハ燒失シタルニ非サレハ單獨海損ハ之ヲ擔保セス各舢舨ハ夫々別個ノ保險契約ト看做ス、保險者ハ本條約アルニ拘ラス他ノ船舶又ハ舢舨トノ衝突ニ因リテ生シタル損害又ハ損失ヲ支拂フ責ニ任ス、尙本條件ナカリセハ保險者ノ責ニ任スヘキ藏敷料再積込又ハ運送ニ對スル特別費用ハ本條件アルニ拘ラス保險者之ヲ支拂フ責ニ任ス、且積換ノ際全損ト爲リタル一箇又ハ數個ノ積荷ノ保險價額ヲモ之ヲ支拂フ責ニ任ス」

本約款ハ實質上條件 (warranty) ヲ構成スルモノナルヲ以テ寧ロ明示條件 (express warranty) ノ項ニ於テ述フルヲ適當トスヘシ

本約款ハ積荷保險ノ關係ニ於テ使用セラルルヲ通常トシ單獨海損ニ對シテハ絶對ニ擔保ノ責ヲ免ルルコトヲ條件ト爲スモ船舶又ハ舢舨カ坐礁シ沈没シ燒失シ又ハ他ノ船舶舢舨ト衝突シタルニ因リテ生シタル損害ニ付テハ之カ擔保ノ責ニ任スル外積荷ヲ被保險船舶ヨリ他ノ船舶ニ積換フル爲メ又ハ積換中又ハ船舶ヨリ舢舨ニ積換フル爲メ又ハ積換中此等ノ積荷全損ト爲リタルトキハ此カ擔保ノ

責ニ任スルモノナリ

坐礁 (stranding) 沈没 (sunk) 及燒失 (burnt) ノ意義ニ付テハ曩ニ既ニ説述シタル所ナルヲ以テ茲ニ説明ヲ省略スルモ坐礁ニ付テハ特ニ注意ヲ要スル一事アリ、即被保險者ハ單獨海損不擔保約款ニ依リ單獨海損ノ擔保ヲ請求シ得ル場合ハ(免責歩合ニ付テモ同様ナリ)當該積荷カ船舶ノ坐礁ノ時ニ於テ實際積載セラレタルモノナルコトヲ要スルコト之レナリ、左ニ坐礁ニ關スル二個ノ重要ナル訴件ヲ略述スヘシ

1. The Thames and Mersey Marine Ins. Co., v. Pits, Son and King 1893 事件

River Plate ノ玉蜀黍ヲ San Nicolas ヨリ歐洲ノ一港マテ及 Buenos Ayres ヨリ歐洲ノ一港マテ保險ニ付シ San Nicolas ヨリハ二萬六千九百十袋 Buenos Ayres ヨリハ八千二百九十九袋ヲ保險ニ付シタリ、本約款ハ舢舨ノ危險 (risk of craft) ヲ擔保シタリシモ船舶又ハ舢舨ノ坐礁ニ因ル損害ノ外單獨海損ハ之ヲ擔保セサルコト(穀物ノ如ク)ヲ以テ條件ト爲セリ、San Nicolas ニ於テ玉蜀黍ヲ積載シタル船舶ハ Buenos Ayres ニ於テ八千二百九十九袋ヲ積載セムカ爲メ Buenos Ayres ニ向ケ Parana 川ヲ下航セリ、P 川

ヲ下航中同船沈没スルニ至リタリシカ浮揚ノ上 Buenos Ayres ニ至リ堪航ナル旨ノ
 検査ヲ受ケ同港ニ於テ Buenos Ayres ノ玉蜀黍ヲ積載セリ、斯クテ歐州ニ向ケ航行中
 積荷ノ大部分ハ海水ノ爲メ損害ヲ蒙リタルヲ以テ被保險者ハ Buenos Ayres ニ於テ
 積載シタル玉蜀黍ニ對スル損害ニ付保險者ニ填補ヲ請求セリ(該積荷ハ坐礁後ニ
 積載シタルモノナルコトヲ注意スヘシ)其ノ主張スル所ニ依レハ該保險ハ船舶ノ
 坐礁ニ因ル場合ノ外單獨海損不擔保ノ條件ニシテ船舶ハ實際上坐礁シタルモノ
 ナルヲ以テ被保險者ハ之カ填補ヲ受クルコトヲ得ト云フニ在リ、然レモ裁判所ハ
 Buenos Ayres ニ於テ積載シタル積荷ハ坐礁ノ時ニ積載シ居ラサルヲ以テ該玉蜀黍
 ノ損害ニ付テハ本約款ヲ以テ擔保セラルモノニ非スト判決セリ

II. Alsace and Lorraine 號事件

本件ハ Calcutta ヨリ西印度ノ諸港マテ米ヲ保險ニ付シ船舶坐礁ノ外單獨海損不擔
 保ヲ條件ト爲セリ、航海中暴風ニ遇ヒ船舶修繕ノ爲メ船長ハ Mauritius ニ寄航セリ
 積荷ハ陸揚セラレタリシモ其ノ一部ハ甚シク損害ヲ蒙リ使用ニ堪エサルニ至リ
 賣却スルヲ必要トセリ、然ルニ積荷ノ陸揚中及修繕ノ進行中船舶ハ暴風ノ爲メ珊

瑚礁ニ坐礁シ其ノ結果全損トナルニ至レリ、坐礁當時ハ勿論積荷ヲ積載シ居ラサ
 リシモ修繕後ニ於テハ積荷ヲ再積込ノ上到達港ニ輸送スルノ意圖ナリキ、依テ再
 積込ニ適シタリシ米ハ Brazil 號ト稱スル船舶ニ積載シテ到達港ニ輸送シタリ、然ル
 ニ B 號ハ不幸ニシテ暴風ニ遇ヒ積載セル米ハ海水ノ爲メ濡損ヲ蒙レリ、茲ニ於テ
 被保險者ハ米ニ對スル單獨海損ニ付保險者ニ填補ヲ請求シテ曰ク米ヲ最初ニ積
 載セル船舶ハ坐礁シタリト、然レモ Parties 判事ハ本件ハ船舶坐礁ノ時ニ於テ積荷
 カ積載セラレサリシモノナルカ故ニ保險者ハ填補ノ責ニ任セス且ツ坐礁ノ際マ
 テ米ヲ Alsace and Lorraine 號ニ再ヒ積込ムヘキ了解アリタルノ事實ハ其ノ地位ニ
 何等ノ影響ヲ及スコトナシト判決セリ、然レモ船舶又ハ舢舨カ坐礁シタル場合ニ
 於テ積荷カ現實ニ積載セラルルニ於テハ當該損害カ坐礁ニ起因セサル場合ト雖
 モ保險者ハ單獨海損ノ全額ニ付担保ノ責ニ任スルナリ
 本約款ニハ「各舢舨ハ夫々別個ノ保險契約ト看做ス」コトヲ規定セリ、其ノ結果舢舨
 ノ坐礁シタル場合ニ於テハ舢舨坐礁ノ時ニ於テ現實ニ舢舨ニ積載シタル積荷ニ
 生シタル單獨海損ニ限り保險者之ヲ担保スルモノトス

次ニ本約款ノ左ノ用語ヲ簡單ニ考フルニ

“Underwriters, notwithstanding this warranty to pay……and special charges for warehouse rent, re-shipping, or forwarding for which they would otherwise be liable.”

「保險者ハ本條件アルニ均ラス……ヲ支拂フ責ニ任ス、尙本條件ナカリセハ保險者ノ責ニ任スヘキ藏敷料再積込、又ハ運送ニ對スル特別費用ハ本條件アルニ拘ラス、保險者之ヲ支拂フ責ニ任ス、且積換ノ際全損ト爲リタル一個又ハ數個ノ積荷ノ保險價額ヲモ之ヲ支拂フ責ニ任ス」

特別費用 (special charge) ニ付テハ保險者ヨリ之カ填補ヲ請求シ得ルカ爲メニハ保險者カ保險契約ヲ以テ引受タル損害ヲ防止シ又ハ輕減スルカ爲メニ生シタルモノナルコトヲ要スルハ前述シタル所ノ如シ、故ニ分損ノ結果特別費用ヲ生シ而モ當該積荷ハ單獨海損(分損)不担保ヲ條件ト爲シタル場合ニ於テハ保險證券ニ特約ナキ限り保險者ハ該特別費用ヲ担保スルノ責ニ任セサルナリ、故ニ例ヘハ Great Indian Peninsular Railway Co. v. Saunders, 1861 事件ニ於テ鐵道用ノ軌條ヲ倫敦ヨリ Bombay 迄單獨海損不担保ノ條件ヲ以テ保險ニ付シタル場合ニ於テ積載船舶ハ著シキ損

害ヲ蒙リ航行不自由ト爲リ Pymouth 迄曳船セラレ茲ニ使用ニ堪ヘサルモノト爲ルニ至レリ、軌條ハ陸揚ノ上倫敦ニ輸送セラレ倫敦ニ於テ積換ノ上増運賃ヲ支拂ヒテ之ヲ目的地ニ輸送シタリシカ之カ爲メニ約八百二十五磅ノ費用ヲ支出シタリシヲ以テ軌條ノ所有者ハ保險契約ニ基キ當該費用ノ填補ヲ請求シタリ、裁判所ハ該費用ハ軌條ノ全損ヲ防止スル爲メニ支出シタルモノニ非サルヲ以テ保險者ハ担保ノ責ニ任セスト判決セリ、茲ニ於テ前述セル單獨海損不担保 (F.P.A.) 中ニ特約ヲ設ケ保險者ハ單獨海損不担保條件 (“F.P.A.” warranty) ニ於テハ担保ノ責ニ任セサル藏敷料再積込料輸送料ニ對シ恩惠トシテ (as a act of Grace) 之ヲ支拂フコトヲ約スルニ至レリ

第二節 「スエズ」運河ノ膠砂 (Grounding in Suez Canal)

“Grounding in the Suez Canal……not to be deemed a strand, but underwriters to pay any damage or loss which may be proved to have directly resulted therefrom.”

「スエズ」運河……ニ於ケル膠砂ハ坐礁ト看做ナス、但シ保險者ハ之ニ因リテ直接

生シタルモノナルコトヲ證明シ得ヘキ損害又ハ損失ニ付テハ之カ支拂ノ責ニ任ス

「スエズ運河其他ニ於テ膠砂スルハ往々之アル所ナルヲ以テ本約款ヲ挿入スルニ至リタルモノナリ、即若シ船舶坐礁シ又ハ膠砂シタル場合ハ積荷保險者ハ積荷カ該膠砂ヨリ直接生シタル損害ヲ支拂フコトヲ特約スルモノニシテ若シ本約款ナキニ於テハ單獨海損不担保又ハ免責歩合(Memorandum)ハ依然トシテ其ノ效力ヲ有スルヲ以テナリ、膠砂ハ實際上學術的ニハ坐礁ト看做スヲ得ス、然レモ保險者ハ和解ノ一種トシテ現實ニ膠砂ニ因リテ生スル損害ヲ支拂フコトヲ約スルナリ

第三節 外國法共同海損約款 (Foreign General Average

Clause)

共同海損精算ニ關スル準據法ハ運送契約ニ反對ノ特約ナキ限り到達港ニ於ケル法律ニ依リ、航海ノ斷絶シタルトキハ船舶及積荷ノ分離シタル地ニ於ケル法律ニ依ルヲ要スルモノナルコト曩ニ共同海損ヲ論スルニ當リ説述シタル所ナリ、而モ

共同海損ニ關スル各國ノ法律ハ英國法ト著シク相違シ居ルノミナラス各國間ノ法律モ亦相違シ居ルヲ以テ共同海損分擔ノ責任ハ到達港ノ如何ニ依リテ齊シク差異アルヘキハ看安キ道理ナリ

保險者ハ外國法ニ準據シテ精算サレタル共同海損ヲ支拂フ責ニ任スヘキ旨ヲ明瞭ナラシメムカ爲メニ左ノ如キ約款ヲ使用スルヲ通常トス即

“General average and salvage charges payable as per official foreign adjustment if so made up, or per York-Antwerp Rules, if in accordance with the contract of afreightment.”

「共同海損及救助料ハ特定ノ場合ハ外國ニテ公認精算人ニ依ツテ爲サレタル精算ニ依ルヘシ、然ラサレハ運送契約ニ從ヒ「ヨークアントワープ」規則ニ依ルヘキモノトス」

此ノ約款ニ依リテ見ルニ保險者ハ外國ニ於テ爲シタル精算ニ依リ共同海損ヲ支拂フコトヲ約スルノミナラス、運送契約ヲ以テ「ヨークアントワープ」規則ニ依リ精算スヘキコトヲ約スルトキハ「ヨークアントワープ」規則ニ依リテ支拂フコトヲ約スルモノトス

第四節 「ヨーク、アントワープ」規則 (York-Antwerp Rules)

「ヨーク、アントワープ」規則ノ起原及發達ヲ説述スルハ本書ノ如キ小冊子ノ克ク能ク所ニ非サルヲ以テ本書ニ於テハ簡單ニ本規則ノ説明ヲ爲スニ止ムヘシ、即本規則ハ英國及外國ノ法律家精算人、船主、貨主、並保險者ノ協定シタル共同海損ニ關スル法律ニシテ其ノ始メ「ヨーク」ニ於テ會議ヲ開キ次テ「アントワープ」ニ於テ討議ヲ爲シ（一八九〇年ニハ「リバプール」ニ於テ）タルモノニシテ其ノ目的ハ共同海損ノ基調ノ統一ヲ圖ラムトスルニ在ルノミナラス運送契約ヲ以テ共同海損ハ「ヨーク」アントワープ規則ニ依ルヘキ旨ヲ約シ以テ英國法ノ制限ヲ除却スルト同時ニ各國間ノ法律牴觸ノ統一ヲ圖ラムトスルニ在リ、本約款ハ十八ヶ條ヨリ成リ船主及貨主ノ互讓ニ依ル和解ニ基キ之カ成立ヲ見ルニ至リタルモノナリ、本規則ニ於ケル三個ノ根本原則左ノ如シ

イ、甲板積荷ノ投荷ハ如何ナル場合ト雖モ共同海損トシテ賠償ヲ受クルコトヲ得ス

ロ、避難港ニ於ケル費用ニ付テハ共同海損犠牲ノ結果入港シタルト單獨海損ノ結果入港シタルトヲ問ハサルモノトス

ハ、海損ノ結果入港中ノ乗組員ノ給料及經費ハ之ヲ共同海損トス

運送契約書ニ依レハ共同海損ハ「ヨーク、アントワープ」規則ニ依リテ精算ヲ爲スヘキ旨ヲ規定スト雖モ之レ寧ロ共同海損ノ精算ハ航海ノ終了又ハ斷絶シタル港

——即國——ニ於ケル法律ニ準據シ當該國法カ「ヨーク、アントワープ」規則ニ牴觸スル限度ニ於テ「ヨーク、アントワープ」規則ニ準據スト云フヲ優レリトスヘシ

保險者カ保險約款ヲ以テ共同海損ハ運送契約ニ從ヒ「ヨーク、アントワープ」規則ニ依リテ支拂フヘキコトヲ約スル場合ニ於テハ保險者ノ意思ハ「ヨーク、アントワープ」規則ノ全部ノ規定ヲ海損精算ニ適用セシムトスルニ在リキ、其ノ結果運送契約カ「ヨーク、アントワープ」規則ノ全部ヲ適用スルコトヲ爲サシテ一部ノ適用ヲ除外スル場合例ヘハ「共同海損ハ「ヨーク、アントワープ」規則ニ依ル、但シ第一條ヲ除ク」(“according to York-Antwerp Rules, excluding Rule 1.”)ノ如キ特約ヲ爲スニ於テハ保險者ノ責任ヲ確定スルニ當リ「ヨーク、アントワープ」規則ハ何等ノ效力ヲ有セスト思